

広大科研

17

14510362

0130509369

幕末維新期の出雲・大社地方における史的特質

－大社町藤間家を中心として－

課題番号 14510362

平成14年度～平成16年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)

研究成果報告書

平成17年3月

研究代表者 勝部 真人

広島大学図書

(広島大学大学院文学研究科教授)

0130509369



幕末維新期の出雲・大社地方における史的特質

—大社町藤間家を中心として—

課題番号 14510362

平成14年度～平成16年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)

研究成果報告書

平成17年3月



研究代表者 勝部 真人
(広島大学大学院文学研究科教授)

はしがき

明治初年、日本国内では近代化に向けた画一的なスタンダード化が急速に推し進められていき、各地域が持っていた個性とさまざまな形で摩擦を起こしていった。こうした側面は、これまでの研究によってもつとに問題とされ、分析されてきたところである。

おおざっぱに言って、その研究方向は①如何に国民国家へと絡め取られていったのか…というものと、②逆に、それに対して人々は如何に抗していったのか…というものであったと思われる。ただ、規則・制度面の規制が如何に強力に働いたとしても、それゆえに地域の個性が消されていったと見るのは早計であろう。一定の変容を受容しながらも、しかしなお容易には消え得ない側面もまた存在したはずである。

つまり、単に抵抗の側面だけでなく、積極的ないし消極的にせよ新しいスタンダードを受け入れたとしても、なお根強く保持し続けたものは何なのか、逆に何をどう受け入れ変化を受容していったのか…これらは、地域により、あるいはそのなかで置かれた立場により一様ではないだろうが、それらを少しずつでも具体的に明らかにしていく必要があるだろう。

本研究では、幕末維新时期について比較的研究の手薄な出雲地方を対象にして、上記の問題への接近を試みた。ここでは断髪をめぐる動きのなかで、地域の指導的立場に立った人々の意識や行動から、変化を受け入れつつも「日常性」という形で表現される地域の「慣性」のようなものをかいま見ることができる。ただ、他地域でここまで具体的に断髪について記された資料や研究がほとんど見ることができないため、当地域の個性がそれらと比較してどこにあるのかまでは具体的に踏み込めていない。

加えて出雲大社という独特の信仰空間を持っている地域であり、それが人々の生業面にも大きな規定性を与えており、それが新政府の政策との関連から影響を被った側面も明らかになった。ただ、日常的世界のなかでその信仰空間が人々にどういう影響をあたえていたのかといった意識レベルの問題は、課題として残ってしまった。

いずれにしても、研究としてはまだ緒についたばかりであると言ってよく、これからの課題が多く残されているのも事実である。

そうしたなかで、近年の大学をめぐる研究環境は頓に悪化しており、予定していた研究分担者の原稿等も公務多端などの事情によって掲載を断念せざるを得なかった。その点で言うなら筆者(研究代表者)もまた同じ状況であり、課題を目の前にしつつも時間的に奈何ともしようのない状態に置かれている。落ち着いて研究に勤しむことのできる環境が望まれるばかりである。

研究組織

研究代表者：勝部眞人(広島大学大学院文学研究科教授)

研究分担者：頼 祺一(比治山大学現代文化学部教授)

研究分担者：相良英輔(島根大学教育学部教授)

研究分担者：濱田敏彦(広島経済大学経済学部助教授)

交付決定額

(金額単位：千円)

	直接経費	間接経費	合計
平成14年度	1,100	0	1,100
平成15年度	2,000	0	2,000
平成16年度	900	0	900
総計	4,000	0	4,000

研究発表

(1)学会誌等

平成14年度

勝部眞人『明治農政と技術革新』吉川弘文館、2002年12月

相良英輔「松江藩の成立と鉄山業」「櫻井家の系譜」「櫻井家の鉄山業」島根県教育委員会『櫻井家住宅調査報告書』2002年11月

相良英輔「19世紀奥出雲におけるたたら製鉄業」島根大学コンソーシアム山陰第1回シンポジウム『はじめよう!!山陰学』2002年12月

濱田敏彦「近世後期瀬戸内海地域における農業技術の一考察－芸備地域を中心として－」広島経済大学『研究論集』第25巻第2号、2002年9月

濱田敏彦「近世後期芸北地域における河川交通の実態」広島経済大学『研究論集』第25巻第3号、2002年12月

平成15年度

勝部眞人「大正・昭和戦前期の周防大島における交易活動」(共著)広島大学大学院文学研究科『内海文化研究紀要』31号、2003年3月

勝部眞人『黒瀬町史』環境・生活編(共編著)、2003年3月

相良英輔『山口県史』近代4(監修・共著)、2003年3月

相良英輔「松江藩と櫻井家の鉄山業」『月刊文化財』第7号、2003年7月

相良英輔「伝統産業の推移と近代産業の芽ばえ」『田辺市史』通史編3、2003年2月
濱田敏彦『上下町史』通史編(共著)、2003年3月

平成16年度

勝部真人(頼祺一先生退官記念論集刊行会代表)編著『近世近代の地域社会と文化』清文堂、
2004年3月

勝部真人『黒瀬町史』資料編(共編著)、2004年12月

勝部真人「島根県柿木村大井谷棚田景観の歴史的推移を中心に」『棚田学会誌 日本の原風景・棚田』第5号、2004年7月

相良英輔「田儀櫻井家のたたら製鉄業経営」『田儀櫻井家－田儀櫻井家のたたら製鉄に関する基礎調査報告書－』2004年8月

(2) 口頭発表

平成14年度

勝部真人「防長米改良に関する史的考察」社会経済史学会中四国部会大会、2002年11月

平成15年度

勝部真人「出雲地方における文明開化の諸相」広島史学研究会大会日本史部会、2003年10月

頼 祺一「千代田町域の思想と文化」広島大学大学院文学研究科歴史文化学講座地域アカデミー、2004年3月

相良英輔「近世における櫻井家たたら経営の展開」島根近世史研究会、2003年7月

平成16年度

勝部真人「島のバイタリティ」広島大学大学院文学研究科歴史文化学講座地域アカデミー、
2004年11月

勝部真人「明治期における西洋農学の地方的受容について」中国北京農業博物館・東アジア農業史シンポジウム、2004年11月

相良英輔「天保期以降近代における鉄師櫻井家の資産形成」島根史学会、2004年12月

相良英輔「田儀櫻井家のたたら製鉄業経営」多伎町民大学、2005年2月

地域における文明開化の位相

—出雲地方の散切頭を事例に—

勝部 真人

はじめに

明治四年(1871)五月の「新聞雑誌」に、「近日の俗歌」として載せられたつぎの三首はきわめて著名なものである⁽¹⁾。

『半髪頭をたゝいて見れば因循姑息の音がする』

『総髪頭をたゝいて見れば王政復古の音がする』

『ジャンギリ頭をたゝいて見れば文明開化の音がする』

飛鳥井雅道氏はこの歌について、「この年、新しい情況が確実に始まったと意識された」ため、「王政復古」と「文明開化」がはっきりと区別されたとしている⁽²⁾。たしかに、このなかで「復古」と「開化」とが明確に分けて意識されていたことの意味は、改めて考えてみる必要はあるかもしれない。

しかし、飛鳥井氏の主張自身は「開化」と「復古」とが交錯していたことを述べるところにあったし、「近代日本の開化は、ほとんど常に、復古の枠を借りてしか推進できなかった」ともされている⁽³⁾。

また牧原憲夫氏も、近世社会の土俗的な生活習慣や信仰を「野蛮」として排撃したのは“西洋近代”と“日本古代”であったこと、すなわち神道家・国学者などのイデオログや明治政府自身が「開化」を「復古」によって粉飾せざるを得なかったことを指摘されている⁽⁴⁾。

「文明開化」を進めていく側にとっては、まさに開化=復古であったであろうし、そこに「文明開化」の独特な歴史的位相があったと思われる。

そのことを承認しつつ、では市井の民・地域の人々にとって、開化=復古というのは自明であったのであろうか。つまり開化を受容する人々にとって、開化=復古というイデオロギー的粉飾がどこまで浸透していたのかという問題は、改めて立てうるように思われる。開化を推進する側の論理と、それを地域のなかで受容する側（しかも社会的な位置によらずと差があるだろう）の論理とでは、当然ずれがあるだろう。

なお、散切頭・断髪についてはかつての風俗史・世相史研究⁽⁵⁾に加えて、近年新たな研究が出はじめている。民衆史研究の観点から論じた奥武則『文明開化と民衆』⁽⁶⁾、日本・中国・朝鮮という東アジアでの断髪を比較検討した劉香織『断髪—近代東アジアの文化衝突—』⁽⁷⁾や、日韓比較を含めてなされた田星姫氏による一連の研究⁽⁸⁾、三澤純「散髪令考」および「散髪脱刀令の成立と近代社会」⁽⁹⁾など、新たな観点にもとづく成果が着々と蓄積されつつあると言えよう。本稿もそれらに学びつつ、さらに事例研究を付け加えて

いく必要があることと、先述した受容する側・地域の観点から断髪の問題を論じてみたい。

ここでは、出雲地方において見られた断髪をめぐる意識と行動を事例にして、上記の問題に接近してみたい。

一 維新时期の出雲地方と藤間家

1 島根県成立前後の状況

松江藩は、言うまでもなく親藩であったため、幕末～明治初年の政治的混乱のなかで苦悩のなかに追い込まれ、その向背が定まらない慶応四年（1868）一月五日に山陰道鎮撫総監西園寺公望を松江に派遣することが決定される⁽¹⁰⁾。結果的には「一藩安堵」の書面を米子総督府から受けるとともに、「勤王一途の寸誠天地神明に誓」う誓書を鎮撫使に提出して何とか収まるのであるが、その間の行き違いから松江藩は思わぬ嫌疑を受けており⁽¹¹⁾、かなり緊迫した状況が展開していたものと思われる。

さらにその直後の隠岐騒動も松江藩の立場を微妙なものにしたと思われるが、ともあれこうした不安定な状況を経ながら版籍奉還、廃藩置県を迎えるのである。

明治四年（1871）九月藩知事を免ぜられた旧藩主松平安定が松江を離れ、十一月には松江（県）と旧支藩であった広瀬・母里両県をおよび隠岐をあわせて、島根県が成立する⁽¹²⁾。

地方長官としては、同年十二月に県権参事に任ぜられた寺田剛実ついで西村有信であったが、両者とも任地には赴かず、本格的な県政開始は翌五年三月に赴任してきた権令池田種徳以後のこととなる⁽¹³⁾。

池田種徳は広島県豊田郡忠海出身で、家代々の医業を好まず九州の広瀬淡窓らに学んだ後、江戸に出て清川八郎らと知り合う。幕府新徴組を経て、広島藩の京都警衛組に加わって士籍に列せられた人物である。戊辰戦争では東北遊撃隊参謀として羽後庄内開城にも参与し、明治二年六月朝廷から功勞として500円を与えられたが、同年七月に若森県権参事に任じられていた⁽¹⁴⁾。さらに五年一月に島根県権令となり、三月に赴任してきたのである。

その池田も8ヶ月余りで岩手県へ転任していくのであるが、この人物が以後の話の展開において焦点の一角をなす。

ともあれ、この間在地支配の枠組みも大きく転換し、地域でそれを担っていた名望家・リーダー層も、緊張と混乱のなかで時代の流れを感じ取っていたことと思われる。そのあたりについて、経済的な問題を含めながら、少し検討しておきたい。

2 経済的な混乱状況

当時出雲の国産として代表的なものは、周知のように木綿と鉄であった。雲州木綿は、楯縫・出雲・神門三郡（のちの簸川郡）を中心に生産されており、楯縫郡平田・出雲郡直

江・神門郡今市三町の商人による素木綿買入高だけで、明治十年（1877）には15万反余にのぼったという⁽¹⁵⁾。しかし「廃藩後木綿検査所ヲモ廢セラル、ニヨリ、自然粗製濫造ニ陥」ったことと、「舶来ノ金巾、半唐木綿等ニ圧セラレ」るようになったことから、同十年代後半以降衰退していくことになる⁽¹⁶⁾。ただし廃藩前後の状況そのものは、定かではない。

出雲の鉄は、飯石・仁多・能義三郡を中心に産出されていたが、廃藩とともに保護政策が消滅し、明治九年には田部・桜井・糸原家など鉄山師の連名で「諸鉄不都合之低価売小口ヲ立、一同ノ崩レト相成難渋ニ不堪」と請願を行っている⁽¹⁷⁾。これも後に「洋鉄追々盛ニ相成時ハ、和鉄衰弊」と言われるようになるが⁽¹⁸⁾、同じく廃藩前後の具体的な状況は定かではない。

こうした木綿・鉄生産と結びついて、美保関や宇龍といった西廻り海運の拠点港をもち積極的な他国商いを展開していたことも、出雲地方の経済活動を考えるうえで重要な点であろう。とくに大動脈にリンクする形で、伯州境津（境港）や石見の温泉津・益田・浜田などとのローカルな海運ネットワーク網が活発に展開していたことも、考慮に入れておく必要があるだろう⁽¹⁹⁾。

ただ、新政府ができ藩から県へ転換したことが、全体的・具体的にどのような経済的混乱状況を生み出したのかについては、今後の課題であると言える。そのなかで、混乱のこまを物語る史料を紹介しておきたい。

それは新政府のとった政策の一つが、出雲地方に大きな影響をもたらしたことを知らせてくれるとともに、杵築（出雲）大社への参詣客の多さが地域経済に大きな潤いを与えていたことを物語る史料でもある。

明治二年（1869）八月、大社神領であった杵築6か村（越峠・大土地・中村・仮の宮・赤塚・市場—現簸川郡大社町内、図1参照）庄屋連名の嘆願書が、大庄屋穂左衛門・白三郎宛に提出された⁽²⁰⁾。少し長くなるが、引用しておきたい。

杵築六ヶ村両社中支配修理免之儀ハ、人高七千五百人仕居住罷在、辺鄙之所柄ニ而難渋もの多御座候処、多分宿屋を始店商売等仕、灘筋人別者過半漁業仕、婦人稼之者者木綿稼を以渡世罷在、大社御用并駄役諸入用者都而人別々取立御用相勤申上候、然処二季御祭礼自他国・夥敷参詣人止宿仕富興行ニ付者逗留相増、尚近年之处ニ而者臨時増会両度興行之節とも、宿屋始諸商ひハ不及申上、富当り札有之節当り人之心得を以宿主へ心付申受、彼是不寄何等人別手前益筋…

右等之潤を以年中渡世罷在、都而取遣、祭礼後ニ大半取詰候様之儀御座候処、以前与違ひ交易之道追々相衰、灘筋ニ而者不漁勝之央、当春以来富興行御厳禁被仰出候ニ付而者、既当三月御祭礼之節自他国・参詣人茂只信心而已ニ御座候得者、富興行有之節与違ひ止宿いたし候ものいヶ計無御座、宿屋始メ諸

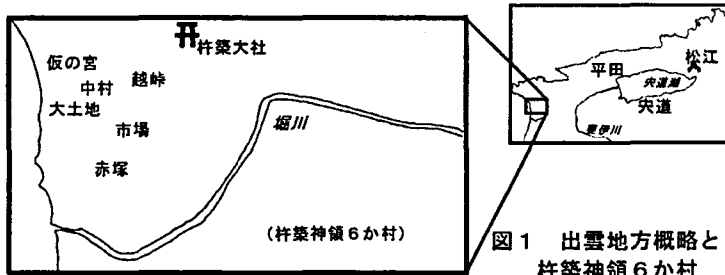


図1 出雲地方概略と杵築神領6か村

商ひとも不景氣ニ相成、既当八月祭礼杯者別而参詣無之、何更潤之道無御座取遣等も出来不申、渡世之手段ニ当惑罷在候、杵築之儀者外町場与違ひ、町并居住之者者勿論片小路之者迄も、

居宅又者後座敷補理も二季御祭礼を目当ニ分限不相応之宅構いたし居候処、当時之場ニ而者右様構而已ニ而却而小破取繕も不仕、損所出来候迎乍左取毀之氣配ニも不相成、彼是人別難渋不少儀ニ御座候、然ニ近年綿不熟ニ付而者仕出し木綿稼等引合不申、経営之道相立兼当年外稼方之手段無御座候…

ここでは木綿稼ぎや灘筋＝沿岸部の漁業などのほか、大社参詣客を相手にする諸商売・宿屋が賑わいを見せていたこと、しかし新政府の富興行禁止の措置がなされたことにより、一転して衰微しはじめたことが述べられている。

そもそも杵築大社では毎年三月と八月に富興行が行われてきたが、天保期以降繁盛に向かい、遠く江戸や畿内、四国・九州などから数十万人が集まり、杵築の富くじが第一等であったとも言われている⁽²¹⁾。そのあたりの実態解明は今後の課題であるが、ともあれ「二季御祭礼」の時期には、地域住民の何十倍にもものぼる人びとが「自他国」より参集して「止宿」したことはまちがいないであろう。地域に与えるその経済的波及効果は、はかりしれないものがあつたと言えるだろう。

それゆえに、杵築の町場では参詣客がもたらす“外貨”を目当てに「分限不相応之宅構」をするものが多かったのである。

しかし、新政府は明治元年十二月二十三日に「社寺再建等ニ托シ」て行ふ富興行を、「澆季之弊風僥倖之利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ、自然農工商共其職業ヲ惰リ、往往之カ為ニ家産ヲ破候者モ不少」るため、「以ノ外之事」として、禁止の布告を発したのである⁽²²⁾。これは同年九月に東京府が発した布達⁽²³⁾を全国に敷衍したものであると思われるが、ともあれこの布告によって、明治二年三月杵築大社の富興行も実施できなくなってしまったのである。

そのため、参詣に來ても「止宿いたし候ものいヶ計^(如何ばかり)」という状態で、「宿屋始メ諸商ひとも不景氣」になってしまったという。さらに同年八月の祭礼では「別而参詣無之」と、参詣客そのものの減少を來したようである。このように、富興行禁止の施策が、杵築およびその周辺の地域や、直接間接の影響を考えれば出雲地方全体にも、大きな打撃を与えたことと思われる。

加えて、灘筋では「不漁勝」という状態であつた。また木綿でも、この時期「綿不熟」のため原綿価格が高騰して、「仕出し木綿稼」は織賃確保も難しくなり、各方面で「経営

之道相立兼」る状態であったのである。

6ヶ村の庄屋の歎願は、その対策として「塩市竈取」の仕法許可を願うものであった。つまり灘筋で「老若男女婦ニ至迄、塩浜稼」を行うようになったが、塩の売り捌きに「遣ひ馴不申」るために支障を来しており、新しく塩販売のシステムを立ちあげようというのである。本論からはずれるためここではその内容には立ち入らないが、ともあれ庄屋層はそれを大庄屋に願い、兩大庄屋は島根県の民政局にとりついだ。

この地域では、ちょうどその1月前に下層民への救恤たる「養米」の払底もあって激しい騒動がおこっているが⁽²⁴⁾、富興行禁止による経済的混乱もその背景にあったと考えられる。

それゆえにこそ、地域のリーダー層である庄屋・大庄屋層は地域秩序の維持・安定に腐心せねばならなかったであろうし、新政府の動向を見きわめつつ地域の経済・社会的な措置を模索せざるを得なかったであろう。「塩竈興行」歎願もそうした一例であった。

3 杵築・藤間家と宍道・木幡家

さて、先に触れた大庄屋穂左衛門は、杵築で廻船業・酒造業等を営む藤間家の当主であった。

同家は佐々木高氏末裔の伝承を持つ高橋孫兵衛を初代とするが、穂左衛門は高橋孫兵衛から数えて16代目の当主にあたる。3代目高橋助治郎の時に「東馬ト姓替、又藤間ト改」めたというが、5代目源左衛門栄久の時には「安芸国城主福島正則公城普請之砌、良材運送、後御用ヲ聞」という伝承も持っている。また「弥以(後筆)『廻』船・酒造ヲ業『ト』シ、田畑山林ヲ得『テ国中富家ノ名ヲ得タリ』」ということから、慶長期には廻船業を開始していたという伝承を持つ出雲地方の名家である⁽²⁵⁾。

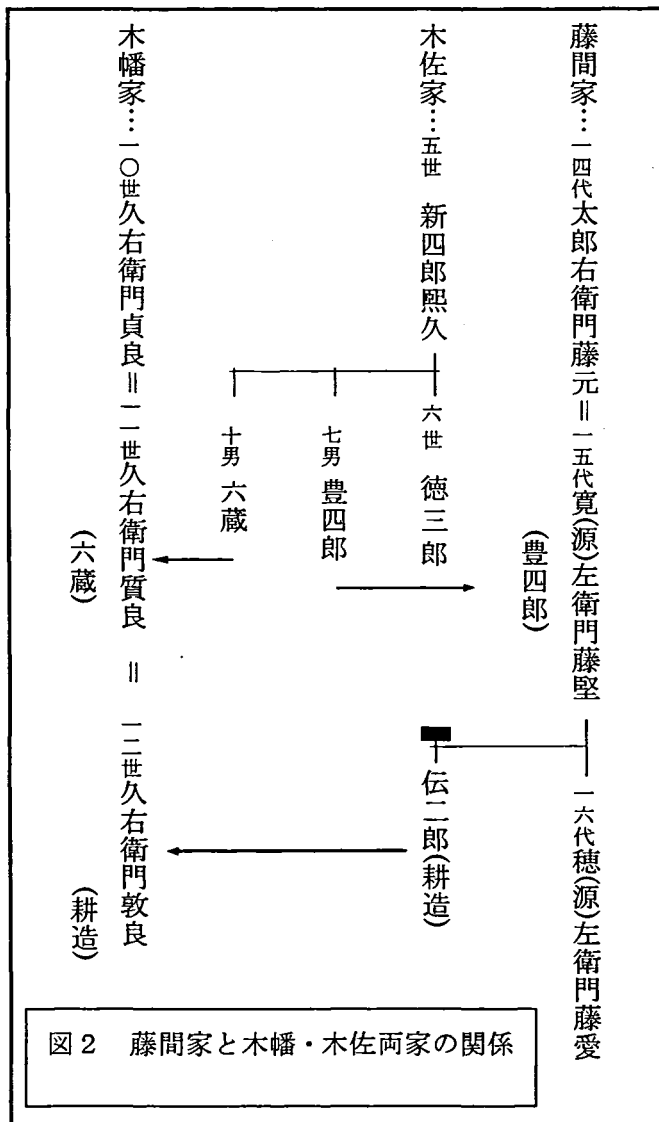
11代目久左衛門藤安の頃から大年寄を勤めるようになったが、何度かの家政の危機に見舞われながらも、廻船業と酒造業を軸に危機を乗り越えていったようである。

同家の廻船業については、現在仕切状が残されているのが慶応二年(1866)から明治八年(1875)の間の110通ほどであり、それ以外の時期に関しては実情を把握しにくい。現在判明する限りで言えば、少なくとも「明神丸」「松尾丸」「坤厚丸」「寛栄丸」の4艘の船を操り、庄内・新潟(明治期になると小樽も含む)から下関・長崎ないし備後松永や土佐など、きわめて広い交易空間のなかで活動を行っていた。概略的に言えば、東北・北陸(ないし北海道)から米・大豆などの農産物やいか・昆布などの海産物を購入するとともに地元で仕入れた木綿・鉄などを中心に販売しており、また長崎で砂糖を、松永など瀬戸内で塩を買い入れ境津(境港)や美保関・宇龍など地元へそれらを販売していた。売買の仕切状が必ずしも対応していないため、全貌が明らかになっているわけではないが、1回の取引額も金札数百両(円)と大きく、きわめて活発な交易活動を展開していたと言えよう⁽²⁶⁾。

また先述した山陰道鎮撫使西園寺公望が松江に来た際に、三月三日に勅使として大社に

参詣しているが、この時藤間家が「御本営当家ニ而相勤」ており、「万端行届候旨ニ付…為御挨拶、御関札御残被仰付」れたため、現在も同家には「勅使西園寺殿御本営」の関板が残されている⁽²⁷⁾。またこの功績により、翌二年五月民政局から「彼是奇特之事ニ候、仍類外之訳を以、格式独礼席御目見等御家人同様申付」られている⁽²⁸⁾。この時先代の寛左衛門（文化十四年生）は数え年で52歳、穂左衛門（天保十三年生）は27歳であった。

さて、藤間家は平田の木佐家や宍道の木幡家などときわめて濃密な縁戚関係を保ってきた。相互に娘を嫁がせていただけでなく、図2のように嗣子がない場合に男子を養子に出し合っ、それぞれの家の存続を図ってきている。



木佐家は、寛文年間に国富木佐三郎左衛門家から平田に分家して以来、発展して酒造業や金融業を営み産をなしていた⁽²⁹⁾。5世新四郎熙久の七男豊四郎が藤間家14代太郎左衛門の養子となり、15代寛左衛門となった。また豊四郎の第十男六蔵は、宍道の木幡家10世久右衛門貞良のもとへ養子に行き、11世久右衛門（質良）となった⁽³⁰⁾。木幡家も宍道の旧家で、山城国宇治郡木幡村を出自として、石山合戦の後宍道に居を移したという伝承を持つ⁽³¹⁾。宍道の三本陣の一つで、下郡格の家であった。

木幡家11世久右衛門（質良）の後を嗣ぐのは、藤間穂左衛門の弟伝次郎（通称耕造）であり、明治十三年（1880）に相続して久右衛門敦良となる。

つまり藤間寛左衛門と木幡久右衛門（質良）、藤間穂左衛門と木幡家の耕造（後の久右衛門敦良）とは、それぞれ実の兄弟関係にあるということになるのである。

とになるのである。

なお、藤間家に残されている散切頭に関する史料は、もっぱら木幡久右衛門（以下「久右衛門」はすべて質良）からの書状であることから、その意識を探るのももっぱら久右衛門に即してということにならざるを得ない。

二 断髪の説諭とその受容をめぐる

1 権令池田種徳の木幡家来訪と説諭

明治五年（1872）十月五日、島根県権令池田種徳が従者を一人連れて、突然木幡家を訪れる。そのことを、久右衛門は同月十四日付竹林亭（藤間家）宛の書状で、つぎのように記している。

一、去ル五日、不時ニ令池田様御舟ニ而当店迄、従者老人御召連、拙宅へ御舟上り、余り案外之事ニ而仰天、折節前日耕造ハ用所へ出勤、手代皆留守、家内共野良而已相手ニ^マ、御茶よ、菓子よ、座敷掃よと転動、手伝ニ三七右様俱ニ山蔵へ御案内申上寛ニ御咄、同夜も内分ハ咄も不御沙汰ニ付、三戸^(三刀屋)や御租税河野大属様御呼出、数刻御内談、耕造も飛脚遣同夜四ツ時帰へる、河野様御咄相済御泊之儀、夫・御酒、耕造も^(陪)倍席、同夜八ツ半頃松江へ御帰舟…

なぜ権令が突然木幡家を訪れたのかは後述するとして、この書状より7日前の十月七日書状では、池田が訪ねてきた時のようすをさらに克明に記している。まだその興奮が収まっていなかったのだろうか。

ともあれ七日書状によると、池田が従者と二人で突然訪ねてきた時、店は留守であったため「裏所御出」になって、「下女相手ニ何角御尋ニ候へとも」結局よく通じなかった。その下女が、座敷で人と話していた久右衛門のところへやってきて事情を伝え、「松江之官員」ということだけは伝わったようである。

久右衛門が出てみると「売物之傍ニ御兩人」がおり、「誰様与相尋」ねると「池田」とのみ答えた。さらに「池田某様カ御名ハ与相尋」ねたところ、「名ハナイ、耕造在宿か」と答え、逆に「其方ハ久右衛門敷与御尋」になった。そのまま座敷にあがっていきこうとするので、「池田様与ハ何の方様与再相尋」ねたところで「令様」（権令）とわかって「大仰天」したということであった。

なぜ権令池田種徳が突然木幡家を訪れたのかについては、十月七日の書状には何も記されていない。しかし、十四日の書状のなかで「六日権令・参事両公御免職被成候御布告」とあり、七日の書状を出した直後に布告に接したものと思われる。それゆえ十四日の書状では、「今思^(マ)ひハ、令様不時拙宅御出ハ、右之御人代りニ付河野公へ御内談と相聞」と合点しているのである。

そもそも「耕造在宿か」と池田が尋ねたように、県の用務を通じて木幡家の嗣子・耕造とは旧知の関係であったようである。おそらく、三刀屋から河野大属を呼び出して、久右衛門の推測どおり後のことを「内談」するために、地理的に都合のよい木幡家を選んだものと思われる。

なお八日には「令様ハ安木迄御舟、参事様ハ陸地御発達」となり、久右衛門は「何とも残念」と記している。同時に「官員辺ハ腰懸尻積、甲斐無之候」というように、藩制時代と異なりトップがつぎつぎに交代していくようになった事態に、不安ないし不満の入り交じった感想を漏らしていたのである⁽³²⁾。

ともあれ、この時久右衛門は池田種徳を「山蔵へ御案内申上」げ酒を差し出したが、「御規則ニ違へ候而者不相濟、此酒ハおれが買受おれが振まひ申から、答て呉」れというやりとりがあるなど、「夕方此元へ御帰、始終御機元」であつたという。

さて、その山蔵へ案内した際に、池田種徳は「来年々弥一統切髪可相成、一国之長一郡之長々して切髪之魁為致との御主意、早く思ひ切れ」という説諭を、久右衛門にしたのである⁽³³⁾。その部分を、十月十四日書状より少し引用しておく。

先日令様々御説諭、第一ハ一国之長一郡之長文明之魁、則天朝之御主意与の仰、一
国一郡一村之頭立候者々諸民へ示し候様、則是じやん切髪可致旨、別段布告無之と
も、来年ニ相成候得者老若無差別諸民御説諭可相成、已ニ三都ハ髪結被廃与申ハ
間違、髭ハ剃れ髪月代ハ剃などの御布告相成よし…

このように久右衛門は、一国一郡の長たる者は「文明之魁」として進んで「じやん切髪」にすべきこと、それが「天朝之御主意」であると説諭されたのである。

脱刀とともに、散髪を「自今可為勝手旨」の布令が出されたのは、この前年の八月九日である⁽³⁴⁾。参議木戸孝允・盛岡県権知事渡辺昇が断髪したのが、その6日前の八月三日、「侍従・児等悉く散髪」したのが同八月中であつたというが⁽³⁵⁾、それから一年余りの間に三都を中心に都市部では断髪が行われはじめていた。先の十月十四日書状のなかでも、久右衛門は「勝蔵与申者大坂・罷帰、尚又佐々布村神主倅も罷帰同様之咄」と地元で得た情報を記していた。

2 地域リーダー層による断髪受容の意識

石井研堂『明治事物起源』によれば、東京・横浜などで「新人は自ら進んで断髪し、夷狄の頭容と賤視したる風は燎原の火の勢にて追々行はれ」、明治「五六年の交を以て甚しとなす」という状況であつたという⁽³⁶⁾。また「明治五年三月、西京三井、大丸等の大舗にては、主人を始め…悉く断髪せり。又東海道諸駅問屋等、断髪せる者多し」^(明治五年)「同九月廿二日、大坂堂 米会所、一斉に被髪し、洋服揃にて住吉に参詣し、天長節を祝し奉りたり。各地開化の魁となる豈愉快ならずや」という状態であつたというから⁽³⁷⁾、大都市などでは自発的な動きもあつたのであろう。

しかし地方では、地方官が奨励ないし告諭を發して強力に推進し、場合によっては結髪禁止令まで出している。頭の保護を訴えて断髪を奨励した大阪府・長崎県、半髪は「罪を犯すの證とす」とした愛知県、半髪に課税した若松県・滋賀県などがあつたが、石井研堂

は「管内に散髪者の多きは、それだけ治績の挙りたる証」であったと記している⁽³⁸⁾。

研堂の指摘の如くであったがゆえに、地方官は硬軟おりまぜて断髪推進を図ったのであろう。ただ、そうした施策を推進される側は、地域のなかでの位置などによって当然温度差はあったはずである。

権令池田種徳によって直々に説諭された木幡久右衛門は、その場で断髪を決心している。久右衛門は「先月ゴ私長髪も結」とあるように、少し前から惣髪であった。しかし権令から説諭されて、「左様ならば、此長髪之儘御仰に随、決心可仕与御受申上」げたと書き送っているのである⁽³⁹⁾。

さらに「弥天下一般切髪之御主意可致様、追々御仕向与相聞」こえることから、実兄である藤間寛左衛門に対しても「当時尊様も御役柄、則一郡之長、御覚(ママ)語可被相示候」と、覚悟を促しているのである。

久右衛門自身は、断髪をの儀式を、神々を祭る場において行い、そのうえで町内一統へも断髪を進めようとしていた⁽⁴⁰⁾。

来月朔日、此元屋敷内荒神・地神・祭神主相招事ニ付、其席切髪いたし候事奉存候、
町内上下一統へも相進め申上候、文明之魁与申ハ只今之御政法を汲取、人々ゴ先か
け為致との事御座候、魁ハ先かけ与申字ニ御座候

このように人々に率先して断髪を行い、町内一統に対して身を以て「只今之御政法」が向かうところを示そうとしたわけである。「文明之魁」とはそのような者であり、「魁」とは「先かけ」という文字である…という表現自身は、おそらく久右衛門が権令池田種徳に諭された言葉そのままではなかったかと思われる。

それゆえ、こうした言説をもって直ちに地域リーダー層の意識ととらえることは、やや性急に過ぎると思われる。問題は、なぜ久右衛門が池田の言葉を額面通りにとらえたか、少なくともそのように思わせるような表現で書状を認めたのかということである。

直接的には、久右衛門のきわめて特異な体験、すなわち不意に訪れた地方長官から直々に諭されたということの荣誉と感激、このことは大きかったと思われる。それは「何分ニも案外御懇意を得、難有存候」というような表現にも表れているし、これまでに引用してきた史料の文面からも読み取ることができるだろう。

その点から言えば、久右衛門のこうした言を地域リーダー層全体に広げて考えることもむずかしいかもしれない。

ただ間接的には、久右衛門のみならず地域リーダー層全体が置かれていた政治・経済・社会的な混乱状況という背景を考えていく必要があるだろう。藩から県に変わり、殿様から県令(ないし権令)＝「天朝」というナショナルなものに変わり、経済的にも新政府の政策によって否応なく影響を受け、社会が動揺しているなかで、地域秩序をいかに維持・安定させるかというきわめて困難な状況に立たざるを得なかったことはすでに述べてきた

とおりである。

こうした状況下において、「天朝之御主意」として断髪が強力に推進された時に、「一郡之長」を自覚する彼らリーダー層が「まず自ら実践せねばならない」と感じたとしても不思議はないと言える。もちろん徴兵令や地租改正後のような、新政そのものへの疑義や不満が各地域で噴出してくる状況のなかでは、そうした行為はかえって危険であったかもしれないが、この段階ではまだそのレベルに至っていなかったのであろう。

ともあれ、散切に対する抵抗感が強い社会的な意識のなかで、人々に「先かけ」て断髪するというのは、彼らにとっても一大「決心」を要することであったであろうが、それだけに「天朝之御主意」という一言はきわめて重かったと考えられる。つまり地域秩序の維持・安定に腐心する立場からすれば、「文明之魁」たることによって「御主意」を「町内上下一統」に広め、「天朝」と「町内」とが疎通することが何より重要であったのではないかと考えられるのである。

とするならば、彼らにとってみれば、散切が^{いにしへ}古の風であったのかどうかというのは、ほとんど問題ではなかったと言えよう。「開化」が「復古」であるべき必然性は、政府のイデオロギーとしては重大であったかもしれないが、彼らが「決心」をする際の分岐点ではなかった。書状の文面にも、そうしたことは一言も述べられていないのである。

ただ注目されるのは、断髪の様式の際に「屋敷内荒神・地神・祭神主相招」いていたことである。それまでの日常的な信仰の神々を祭って、その前で断髪に踏み切るという行為の背後にある意識を考えると、「文明之魁」としての決心と日常的信仰空間とが必ずしも分離されたものではなかったということを物語っているように思えるのである。

藤間家に残されている書状からは、当然のことながら、寛左衛門や穂左衛門の意識を探ることはできないが、図3は同家に残されている木幡家の耕造断髪の様式を撮影した写真である。明治五年の十月ごろのものではないかと思われる。



右端に立つ穂左衛門はすでに断髪しており、帽子をかぶっている。散髪屋自身も散切髪になっているが、まだ髷姿の番頭は切り落とされた耕造の髷を手にしてしげしげと見入っている。散髪屋は松江、番頭らは木幡家の者ということであるから⁽⁴¹⁾、断髪の様式は木幡家で行われ、実兄の穂左衛門がその場に立ち会ったのであろう。

木幡久右衛門も「只今有髪之

姿、写真鏡ニ写取度京店希望」と書いているので⁽⁴²⁾、おそらく久右衛門自身も惣髪姿と断髪姿を撮影したものと思われる。日常的信仰空間のなかで行われる断髪式の場に、文明の道具である写真機が持ち込まれるという興味深い場面であるが、ともあれそのことによって貴重な写真が残されることになったと言えよう。

3 町内での断髪受容

地域リーダー層が上述の如くであったとするならば、では一般的にはどうであったのかについても、触れておかねばならないだろう。ただし直接的な史料を見出し得ているわけではないので、自ずと叙述に限界があることをあらかじめ断っておきたい。

さて、久右衛門が池田種徳を山蔵に案内した時に、「三七」なる人物も同行している。この三七がいかなる人物か今のところ定かではないが、おそらく木幡家の店の関係者と思われる。ともあれ久右衛門が池田に説諭を受けて「近々じゃん切ニ決心」した時、「三七も同席ニ而同心」しているのである⁽⁴³⁾。三七の場合は、久右衛門とともに池田種徳から説諭を受けているので、おそらくその場の雰囲気と同心せざるを得なかったのであろう。

これに対して、同じく店の関係者と思われる「よし造」について、以下のように興味深い記述がある⁽⁴⁴⁾。

よし造斬切之式、長のし・三宝・神燈・鶴之明物類もなき、自慢与相見候処、定而懸物ハ狩野家か三社之託か、開化之御時勢ニ左様なる趣因循姑泥、就中斬切ニハ曆日柄を見て切候而ハ、中々文明開化之御主意貫通致不申、年頭も見兼候而之御捌キ、扱々よし蔵ハ心なき事ニ被存候、呼ニ参候哉、鬻切て用所へ参へくものをうかしと御神燈前迄罷出、人手ニ被切候ハ生涯之後手、無上も口気の毒と可申

このように、よし造は断髪すると決心して「長のし」も「三宝」も「神燈」も飾らず…と自慢していたはずであるのに、いざ実行する段になると掛け軸は「狩野家か三社の託」と悩み、ついには「曆日柄を」選んで髪を切ろうとする。久右衛門は、こうしたよし造の姿を「因循姑泥」とし、「文明開化之御主意」にそぐわないと記しているのである。

結局よし造は、「御神燈前」まで出た（逃走を凶った？）時に、とうとう「人手ニ被切」られたという。久右衛門は、よし造の往生際の悪さに「心なき事」としながらも、むりやり断髪されたことを「気の毒」とも表現していた。

この一件のように、心ならずも断髪に追い込まれるケースも少なくなかったであろうが、ともあれ「懸物ハ狩野家か三社之託か」と悩んだり、「曆日柄を見て」断髪を行おうとしたりする意識のありようが、ここでは注目されるのである。

当時断髪することはそれなりの決心を要したことが読み取れ、それゆえに儀式の場を準備しハレの舞台で決心を実行に移すことになるのであるが、そうした非日常的な場が日常的な信仰空間や生活意識と分かちがたく結びついていたこともまた事実であった。

「暦日柄」を選んで断髪するというような意識は、よし造にとどまらず広くあったと考えられるが、それは久右衛門ら「文明之魁」の立場からすれば「因循姑泥」「文明開化之御主意貫通致不申」ざるように見えたのであろう。しかし、日常的な信仰空間や生活意識との関連性という観点からすれば、「荒神」などを祭って断髪した久右衛門とよし造にそれほど大きな開きがあるとは思えないのである。

文明開化・断髪を推進する側が、その正統化のために復古を持ち出したとしても、地域でそれを受容する人々は、自覚的であるかないかのスタンスの差はあれ、復古であるかどうかといったことはともに問題ではなかったと言えよう。むしろ日常性（信仰空間・生活意識等）のなかで、日常的な頭髪スタイルと訣別したということであろう。

ところで、当時この地域で断髪はどの程度行き渡っていたのか。それを全体的・体系的に示す史料は見出し得ていないが、おそらく明治五年と思われる十月二十九日付の久右衛門書状によれば、「八月以前八十五人切髪いたし居候へとも」「廿五日夕今朝迄ニ廿七人切髪」という状況であった⁽⁴⁵⁾。池田種徳に説諭を受けて間もないこの時期、宍道では数日の内に27人が断髪したということになる。

このなかで「医師・社家・耕造・野良杯御座候へとも、此中之分ハ多ふん商家辺御座候」と書いている。この段階で、耕造も断髪していたことがわかるが、医師や社家、とくに商家が中心になって断髪していたようである。なお、久右衛門は「御地ハ其後如何や与時々噂仕候」というように、断髪の動向が大きな関心事になっていたことがわかる。

さらに一月八日付久右衛門書状（明治六年か）では、つぎのように記されている⁽⁴⁶⁾。

貴地斬切三百人余ニも相成よし、両宮司公始メ三千軒も有之、左も可有之、当地只今迄百四五十人仕之よし、今夕元躰⁽⁴⁷⁾也、十六軒有之、兩人呼寄、市中へ対し、いまた斬切無之、天下一般天朝之御主意故、三月節句迄ニ長髪ニメ此祝日一同被合斬切可然、左候へハ市中手揃之人別もそれ迄取急候様可相成旨申論候処、一同大祝之情態御座候、元躰⁽⁴⁷⁾也、三月節句斬切与申評判ニ相成、市中気生立可申手段御座候

宍道では140～150人ほどが斬切髪であったというから、先の十月段階からさらに3～4倍に増えている。この時杵築では300人余りが斬切りしていたというから、宍道よりさらに断髪が普及していたと言えよう。

ここに記されているように千家・北島両宮司家関係者を含めて「三千軒」、杵築六ヶ村では「人高七千五百人仕居住」であったから、そのうちの300人余りということになる。久右衛門が「左も可有之」と書いたのは、杵築では母数が大きかったからで、多くてもせいぜい数百から1,000軒余りほどの宍道で⁽⁴⁷⁾150人前後という数字は、率では決して低くないであろう。

ともあれ、宍道では久右衛門が下郡格として庄屋等の役人を呼び寄せて、「いまた斬切無之」状態であるから「三月節句迄ニ」一同で断髪すれば、市中の人々を促すことになる

と論じており、さらなる推進を図っていた。逆に言うならば、市中での一般への普及はまだ弱かったということであろう。

おそらくこの時点では、戸数の約1割前後の普及率であり、町内の中上層が中心であったと推測される。ただその普及のスピードは、比較的速かったのではなかろうか。

おわりに

髪型というのは、どの時代でも各個人の存在を表現するきわめてシンボリックなものである。それは、自発的なものであれ強制されたものであれ、秩序に対する自己の位置や時代性を象徴する。

それゆえに、近代東アジア世界において、「断髪」という行為が政治性をもって進められていったことも、また象徴的なことであっただろう。文明開化のなかで斬切が推進されていった日本、弁髪を切ることで異民族支配・社会的停滞との訣別を象徴した清末期中国、日本の植民地支配のなかでサンチュ断髪が強制されていった朝鮮半島、それぞれの歴史過程がそこに凝縮されている⁽⁴⁸⁾。

その歴史性ゆえに、断髪を強制するモメント、強制される側の痛みもしくは抵抗の位相は、それぞれ異なっていると言えよう。

ただ本稿では、そうした問題にまでは踏み込めなかった。その比較検討は今後の課題とせざるを得ない。

ここでは、文明開化のかけ声のなか断髪が推進された際に、その受容のあり方を地域の視点から探っていった。「文明開化之魁」たるべき地域リーダー層と、その周辺の人々ないし一般との意識の差は明らかにあったと言ふべきであろう。後者には「暦日柄」を選ぶなど逡巡しつつ、心ならずも髪を切られてしまう人も存在した。

ただ何度も述べたように、当時の断髪という特別な行為が、日常的信仰空間や生活意識と結び合わさって実行されるという点においては、両者の間に大きな差は認めがたい。三都のような都会とは違って、地方・地域における断髪は、単純な開化・西洋化でも、あるいは新政府がイデオロギーとして唱えた復古でもなかった。地域の諸条件のなかで、それぞれ異なった立場でそれらを背負いつつ、日常性という“へその緒”をつけたまま実施されたのである。

注

- (1) 石井研堂『明治事物起源』（『明治文化全集』別巻、1993年復刻版、日本評論社）91頁。
- (2) 飛鳥井雅道『文明開化』（岩波新書、1985年）4頁。
- (3) 同上18頁。

- (4) 牧原憲夫「文明開化論」(岩波講座『日本通史』16巻、1994年) 263頁。
- (5) たとえば古典的地歩を占める江馬努『日本結髪全史』(東京創元社、1953年、初版は1936年)をはじめ、橋本澄子「結髪と美容」(遠藤武編『服飾近代史』雄山閣、1970年)や『近代庶民生活誌』第5巻(三一書房、1986年)など。
- (6) 奥武則『文明開化と民衆』(新評論、1993年)。
- (7) 劉香織『断髪—近代東アジアの文化衝突—』(朝日選書、1990年)。
- (8) 田星姫「幕末・明治初期における『断髪』について」(奈良女子大学『人間文化研究科年報』9、1993年)、「明治初期における『散髪』通達について」(『風俗』34—1、1995年)、「近代日韓両国における『断髪』」(富士ゼロックス小林節太郎記念基金研究助成論文、1996年)。
- (9) 前者は熊本大学『文学部論叢』74、2002年、後者は頼祺一先生退官記念論集刊行会『近世近代の地域社会と文化』清文堂、2004年に所収。
- (10) 『新修島根県史』通史編・近代(島根県、1967年) 12頁。
- (11) 同上13～15頁。
- (12) 同上41頁。
- (13) 同上41～42頁。
- (14) 玉井源作『芸備先哲伝』(広島積善館、1925年) 28～29頁。『日本近現代人名辞典』(吉川弘文館、2001年) 55頁。
- (15) 前掲『新修島根県史』近代113～114頁。原史料は平田市役所蔵『自明治十三年至二十二年 農工商部雜款』「第二回内国勸業博覧会出品目録」。
- (16) 同上。原史料は同じく『自明治十八年 農工商例規』「素綿布販売起源及其沿革盛衰等の取調書」。
- (17) 同上113、115頁。原史料は糸原家文書。
- (18) 同上116頁。
- (19) 具体的な検証作業は今後の課題であるが、さしあたって柚木学編『諸国御客船帳』上下(清文堂史料叢書第12・13巻、1977年) および拙稿「幕末・維新时期における出雲・大社地域廻船の交易空間—大社町・藤間家文書の仕切状から—」(頼祺一代表科学研究費補助金研究成果報告書『「近代」社会の形成と時間・空間・生活』2002年) 参照。
- (20) 簸川郡大社町藤間家文書「明治三己巳八月 杵築六か村・塩盛業之ため塩竈興行御免被仰付度願書」。
- (21) 『日本地名大辞典 島根県』(角川書店、1979年) 923頁。
- (22) 『法規分類大全』二六社寺門(原書房復刻版、1979年) 338頁。
- (23) 同上。なお東京府のこの布達では、社寺修復のため「其筋へ出願モ不致、富興行同様」の頼母子を行うことが、「社人僧侶ニ有之間敷所業、不埒ノ至」として禁止されている。

- (24)前掲角川『日本地名辞典 島根県』924頁に、ごく簡単な解説がある。
- (25)藤間家文書「藤間家代々記稿」による。なお同文書では、5代目源左衛門栄久を「元祖」として、以後「二世」「三世」…とも記しているが、ここではそれぞれを「五代目」「六代目」「七代目」として統一しておくこととする。
- (26)前掲拙稿参照。
- (27)藤間家所蔵関板および箱裏書。
- (28)藤間家文書「覚」(巳五月廿七日民政局)。
- (29)『平田市誌』(平田市教育委員会、1969年)242～243頁。
- (30)前掲「藤間家代々記稿」、藤間家文書「出雲国意宇郡宍道町 木幡家系図」(昭和八年写取)・「出雲国楯縫郡平田町 木佐家系図」(同)。
- (31)『八束郡誌』(島根県八束郡自治協会、1926年)510頁。
- (32)十月十四日付竹林亭宛久右衛門書状。
- (33)十月七日付久右衛門書状。
- (34)『太政官日誌』第五卷(石井良助編、東京堂出版、1981年)312頁。
- (35)『明治天皇記』第二卷(吉川弘文館、1969年)522頁。
- (36)前掲『明治事物起源』91頁。
- (37)同上96頁。
- (38)同上95～96頁。
- なお、牧原憲夫前掲論文では、こうした動きに対して若者などが結髪で抵抗した動きを指摘している(267頁)。
- (39)前掲十月七日付書状。
- (40)前掲十月十四日付書状。
- (41)藤間家現御当主である藤間亨氏のご教示による。
- (42)前掲十月十四日付書状。
- (43)同上。
- (44)(明治五年カ)十一月六日付藤間寛左衛門・穂左衛門宛久右衛門書状。
- (45)(明治五年カ)十月廿九日付竹林亭宛久右衛門書状。
- (46)(明治六年カ)一月八日付藤間寛左衛門宛久右衛門書状。
- (47)前掲『八束郡志』では、大正末期に宍道町で戸数400、宍道村が840余となっている(477～479頁)。
- 明治初年からどれほど増加を見せたのか、あるいは宍道町に居住した久右衛門が「当地只今迄百四五十人」と言うときに宍道村までを含めていたのか定かでないが、宍道町・宍道村をあわせても当時は1,000戸前後ではなかったかと推測される。
- (48)劉香織前掲『断髪—近代東アジアの文化衝突—』第4章、終わりに。

回船問屋藤間家経済活動の歴史的背景

相良英輔

はじめに

北前船としての帆船は逆風や強風を避け、順風や汐の流れを待つために風待港が必要であり、これらの港として島根県域では、近世紀から石州浜田、石州温泉津、雲州宇龍、雲州加賀、雲州雲津、雲州美保関があった（柚木学編『諸国御客船帳』解説）。また、河村瑞賢により開発された西回り航路の寄港地として、石見では温泉津が指定されていた。一方、雲州鷺浦（現・大社町）も湊口に柏島という小さな島があり、帆船時代の風待港にふさわしい地形になっており、近世期から各地の廻船が入港し、船宿＝船問屋も成立していた。

ところで、柚木学著『近世海運史の研究』によると、文久元年（1861）から大正十年（1921）までの「出雲鷺浦入津廻船数（米屋・和泉屋）」は、明治五年から十五年までが最も多く、そのピークは同十二年の140艘である。この時期が北前船の繁栄期といえることができる。その後、明治三十三年には63艘になり、しだいにその機能を失っていく。また、前述の『諸国御客船帳』下巻の解説によると、延享元年（1744）から明治三十四年（1901）までの石州浜田の外ノ浦清水屋入津の諸国船を時期別に見て、最も入港船数が多いのは、安政六年（1859）から明治十一年（1878）の2,048艘であり、次いで天保十年（1839）から安政五年（1858）の1,448艘、その次は明治十二年から三十四年までの1,354艘である。

北前船入港のピークは幕末から明治二十年代までで、三十年代にはいと減少傾向をたどっていくのである。

1. 美保関港

美保関は近世期から諸国廻船の入津する港として栄えたところである。美保関湊の近世紀船問屋数をみると、元禄九年（1696）38軒、文化十年（1813）38軒、嘉永三年（1850）42軒となっており（『新修島根県史』通史編Ⅰ）、その繁栄ぶりを知ることができる。これら廻船は奥出雲産の鉄を購入するために入津したことは容易に推測できる。奥出雲町大谷絲原家の鉄は化政期（1804～1829）までは大阪鉄問屋を主要な販売先にしてきた。しかし、明治初年の段階においては出雲仁多郡の大部分は北国売りか松江入港船への販売であって大阪登せは少ない。明治二年、松江藩は産物方による鉄の流通統制を試みようとして、仁多郡鉄小経営者に鋼を除く小割鉄・鉄の売捌先を書出させているが、それによると、奥出雲上阿井の櫻井家は残らず北国売りになっており、横田町の絲原家は北国売りが好調で、年々但馬船が積下っている。さらにト蔵家野土御産鉄は松江売り、石原家産鉄は松江船手及び近辺の小鍛冶・千歯鍛冶へ売捌かれている（武井博明『近世製鉄史論』）。

絲原家の「明治九年鉦鍛冶場出鉦諸費書出目録」によると、明治七年絲原家産鉄のうち、73%は松江にて他県へ販売し、25%は「管内中買人売」、残り2%が「管内小鍛冶売」となっている。奥出雲産鉄は、斐伊川から宍道湖を通って松江に運ばれ、松江から小舟で美保関港まで運び、ここから外洋船である北国廻船に積みかえられ、北陸方面へ販売されていたのである。

奥出雲町上阿井櫻井家の史料によると、明治十二年（1879）四月十九日山形県酒田の本間幸四郎は大黒丸惣三郎より櫻井家の鉄「雲州雲一鉄」40束（一束12貫入）を代価172円、売捌代価151円20銭で購入している。

このように、明治十年代は盛んに北前船による物資の流通が行われ、美保関港は出雲地域の物資を積出す重要な機能を果たしていたのである。

2. 宇龍港

宇龍港は近世期、出雲大社を背景にして木綿や鉄の積出港として栄えていた。大社神領であった杵築6ヶ村（越峠・大土地・中村・仮の宮・赤塚・市場）の大庄屋であった藤間家はこの宇龍港を本拠地として廻船業を営み、一時酒造業をも行っていた。藤間家は明治五年「柱替普請」を行っており、その時の棟札には同家の廻船として「坤厚丸」「明神丸」「寛宝丸」「寛幸丸」「寛栄丸」「明治丸」「松尾丸」の7艘が記されている。他に川舟として「通居丸」があった。そして手代又兵衛、手代頭又市のほか、手代6人を抱え、「野良」3人、下男5人、下女4人がいる。出店が3軒あり、「越峠出棚」支配は米原善八、他に手代2人がいた。他に「四ツ角出棚」もあった。そして宇龍浦には5棟の蔵を持ち、沖出浦支配には山崎為市が記されている。また、明治四年の「田畑質入仕出帳」によると、東神西、西神西、三郡、萩原、福岡の5カ村に合計16町5反余の田畑を所有しており、「棟札」には米取引をしていたことが記され、「四ツ角出棚」に5棟、「今市出棚」に7棟あることが記されているが米蔵であろう。この時の当主は藤間寛左衛門（58才）で、長男穂左衛門（31才）がその跡を継ぐことになる。

以上のことを勘案すると、藤間家が廻船事業によっていかに栄えていたかをうかがい知ることができる。

藤間家の廻船業の具体的活動を示す史料をして、慶応二年（1866）～明治八年（1875）の仕切状が110通残されており、いくらかその実状を知ることができる（勝部真人「幕末・維新时期における出雲・大社地域廻船の交易空間」頼祺一代表1999～2001年科学研究費補助金基盤研究(A)(2)研究成果報告書『「近代」社会の形成と時間・空間・生活』2002年所収）。それによると、庄内・新潟・小樽から下関・長崎ないし備後松永や土佐など極めて広範囲の交易を行っていた。交易物資は、東北・北陸・北海道から米・大豆などの農産物やいか・昆布などの海産物を購入し、地元の木綿・鉄などを中心に販売していた。また、長崎で砂糖を、松永など瀬戸内で塩を買い入れ、境津（境港）や美保関・宇龍など地元へそれらを販売していた。

このように、廻船業者藤間家の交易活動を通して、宇龍港が明治前期まで北前船の寄港地として栄えていたことを知ることができる。

3. 田儀浦

出雲市多伎町田儀櫻井家は、奥出雲町の櫻井家と同様、近世中期からたたら製鉄業を営み、神門郡一帯の地域に大きな経済的影響力を持っていた。田儀櫻井家の産鉄は、口田儀浦を主な積出港として他国へ販売された。田儀櫻井家産鉄のうち他国売は、同家の所有する手船に産鉄を積み、入津した港で船頭が販売していた。田儀櫻井家が所有する廻船は、幕末から明治初期にかけて幸徳丸・彰徳丸などを史料によって確認できるが、他に同家に関する廻船として、春徳丸（豆腐屋）・亀吉丸（豆腐屋）・春磐丸（中川屋）・鉄栄丸（吉出屋）・承運丸などがみえ、いずれも田儀櫻井家の屋号である宮本屋の「宮」を帆印につけていた（『田儀櫻井家―田儀櫻井家のたたら製鉄に関する基礎調査報告書―』所収、仲野義文「田儀櫻井家の産鉄流通について」）。以下、仲野義文氏の分析に従って田儀櫻井家と田儀浦の関係を見ていこう。

越後国出雲崎の廻船問屋泊屋の「御客入船帳」（『出雲崎町史』海運史料三）は、弘化三年（1846）から明治二十年（1887）の41年間の客船記録である。田儀櫻井家の廻船が出雲崎港に入津してきたのは、およそ安政七年（1860）から慶応二年（1866）迄の都合10回である。入津船はいずれも幸徳丸であり、帆の大きさから推定して二〇〇石積程度の廻船と思われる。他に明治以降口田儀廻船の入津状況を見ると、明治三年九月豆腐屋春徳丸、同四年七月伊勢屋久徳丸、同十一年油屋勝福丸などが、木綿・鉄・生蠟・天草砂糖などの荷を積んでいる。

鳥屋尾家は口田儀浦を拠点に活躍した廻船業者であるが、幕末から明治にかけて鳥屋尾家では幾徳丸・幾重丸などの廻船を所有しており、買積形態による広域的な廻船活動を展開していた。鳥屋尾家には廻船活動を示す古文書が443通残されているが、仲野義文氏はそのうち205通を分析している。それによると、鳥屋尾家の交易地は、日本海及び瀬戸内の沿岸諸国を中心に合計21ヶ国に及んでいるが、そのうち最も件数が多いのが地元出雲と能登で、いずれも29件（14%）、次いで長門23件（11%）、越後20件（10%）、越中16件（8%）となっている。能登・越後・越中の3ヶ国で全体の役30%を占めており、鳥屋尾家の廻船業にとって北国が主要な交易地であったことが窺われる。

鳥屋尾家の購入した品目をみると、越後・羽後の米、周防・備後の塩、摂津・出雲の繰綿などが目を引く。販売先は能登・出雲・越中・長門・石見・越後が上位6ヶ国である。販売品をみると、出雲の場合では越後米・尾道塩・素麺・黒砂糖・白砂糖・土佐鯉節・佐渡烏賊などがあり、これらはいずれも同家の廻船が各地で購入した商品で、主に宇龍や美保関などの港で販売された。石見や長門でも出雲と同様各地で購入した品物を再移出する形で販売している。これら交易地のうち能登の売仕切は28通存在するが、そのうち24通は鉄であり、鉄が同国への主な販売品であったことがわかる。

4. 石州浜田外ノ浦

外ノ浦の廻船問屋清水屋には延享元年（1744）から明治三十四年（1901）まで158年間の入津廻船を記載した客船帳があり、柚木学編『諸国御客船帳』上・下として公刊されている。外ノ浦は海岸筋より入り組んでおり、風待ちには最適の良港であった。外ノ浦の船問屋は、文政八年（1825）に21軒あった。浜田藩領の港としては、松原浦・外ノ浦・瀬戸ヶ島・長浜浦があり、松原・外ノ浦の両浦は地続きの海岸線で、直接浜田の港口としての役割を担っており、廻船が多く入港し、海運の発展に伴って栄えた。しかし、嘉永頃（1850年代）から外ノ浦は水深も浅くなり、しかも大敷網が仕掛けられて、廻船の出港・入港が困難となり、それに代わって瀬戸ヶ島へ入港する他国船が増加していった。そして、嘉永六年（1853）の外ノ浦船問屋はわずか10軒に減少している（柚木学編『諸国御客船帳』下巻解説）。柚木氏によってまとめられた清水屋「客船帳」の「時期区分別諸国廻船入港船数」によると、入港船数が最も多い時期は安政六年（1859）から明治十一年（1878）迄の2,048艘であり、次いで天保十年（1839）から安政五年（1858）の1,448艘、明治十二年（1879）から同三十四年（1901）の1,354艘とつづく。客船の船主をみると、寛政十年（1798）頃までは近畿・四国が圧倒的に多かったが、しだいに山陰・北陸地方の廻船が増加し、安政六年から明治十一年には北陸が最多の751艘、次いで山陰の412艘となり、この二地域で57%を占めている。

廻船問屋清水屋の購入品の主なものは、米、塩、砂糖、種油、酒などであり、販売品は扱苧（麻製品）、干鰯、銑鉄、半紙、塩鯖などである。

おわりに

このように山陰・北陸地方を舞台に幕末から明治十年代にかけて北前船は大いに活躍し、日本海時代といわれるほどであった。しかし、明治以降鉄道が敷設され始めると同時に北前船は徐々に衰微していくのである。明治五年新橋―横浜間、同二十二年東京―神戸間、同二十四年東京―青森間、そして三十二年には東京―新潟間とつぎつぎに敷かれ、同四十五年には東京―出雲間の山陰本線が敷設されて、経済的に活気あふれていた日本海はしだいに静かな海になっていくのである。

産業関係史料翻刻

相良英輔
和田美幸

(表書)
「嘉永四年亥正月 荒木川方塩一条書出し帳 荒木源左衛門」

(後掲史料目録：箱26文書番号31002)

御間ニ奉伺演説之覚

杵築四ヶ浦ハ多分漁師とも斗リニ御座候處、近来兎角不漁ニ而追々衰微仕、一統困窮之央、去秋前代未聞之大風ニ而無比類凶作ニ相成、難洩者江ハ格別之御恵ヲ以衣類夜具等を御仕向被下置、御国恩者誠ニ以重々難有仕合冥加至極奉存候、此上者銘々働を以渡世仕度様色々申口候得とも、元来漁師共ハ藁仕事等共甚不得手、就中妻子ともハ木綿稼第一之業向ニ候得者、浦々ハ不手馴事ニ付、差引ニ合兼候仕合ニ付、急場ニ可便様之増稼俄ニ出来不申、捨置候而者弥増ニ難洩もの多く相成、何共歎ヶ敷事ニ而私共始村役人中是のみ通心痛罷在候、依之私存寄ハ近来少々宛焼塩仕相当之差引ニ引合候趣ニ相聞候處、当時塩拵候道具所持不仕様之極難者も多分ニ御座候間、大元入錢当分取替諸道具拵遣候而、漁事ニ罷出候節、并妻子老人とも手明ニ居候時者塩稼為致候得者、日毎ニ休なく日々之賃錢相応之手取ニ相成、当口を相凌一廉之渡世ニ仕、其上萬一程能塩高余分ニ出来立候得者、乍恐御国益ニも可相成候哉、旁以右様仕度之上候處、諸道具并諸事之懸引人夫之費雜用も可有之儀、猶又出来立候塩者不残買受遣し候積ニ御座候、彼是惣方ニ而式千貫文余之入用相懸り候見込ニ御座候得とも、しかし不残捨ニも相成間敷哉、たとへ損分ニ相成候とも萬民勞り錢ニ遣し候心得ニ而、其儀私ニおみて少しも不苦奉存候、若又少々口錢出来候差引振ニ相成候得者、重而養米之備錢ニ引当置度儀心組も御座候處、銘々任せいたし置候而ハ大切之金銀無益之事ニ相成、就而者萬民江為御助不頭勘定不都詰候而ハ難相濟、中々夥敷手数之懸候事ニ付、差引入絶縁ニ御座候間、容易之事ニハ無御座諸事殿り合も大切至極ニ御座候与、荒木川方近邊ニ御座候間、御役人様之内萬ニ御懸引被下候ハ、萬端嚴重引届難洩者ハ御口口ニ差懸り、糺命を取統一統難有仕合奉存候處、頗ニ二三月頭者塩之取口別而宜敷候時節ニ相成、猶又道具手合も仕候間、被持成候御事ニ御座候ハ、時節後ニ不相成中々急々御許容被下置候様、御取扱之程偏ニ奉願上候、以上

嘉永四 亥正月 大年寄太郎右衛門

荒木川方御役所当テ 壱本

吟味御役所当テ 壺本
郡方御役場当テ 壺本

一筆申入候、貴殿御元入錢御取替貧民江塩為焼度旨、御願之通御聞届相済候条、此段御承知可有之候、以上

正月廿六日 原田貞五郎

藤間太郎右衛門殿

追加委細之儀者、元々藤蔵より御示談可申候条、左様御承知可有之候、以上

杵築四ヶ浦難渋者増、稼之為元入いたし置塩焼をたき候旨、委曲伺之趣申達候処、伺之通御聞届候条、此段令承知可取斗候、以上

正月廿六日 小川太祖右衛門

大年寄太郎右衛門殿

塩受取方之儀者、毎月三日其外五節句を除キ月二丁之日九ツ時迄受取方いたし候事、尤小
ミ月ハ廿九日ニも受取可之もの也

一筆奉啓上候、先日者久々振りニ奉得尊顔、難有仕合奉存候、御帰館被遊候ても御障共不被為在候哉、奉伺候、然者其節塩拵寄書差出候様被仰聞候処、如何様之儀を書替被上候而宜敷御座候哉、其儀御伺度示被上折角相考被上候内ニ承り候得者、川方御役所江御書寄被遊、中村種助様よりも口塩之儀御演説御座候趣、依而何角御承知も被遊候儀と相口不申上候、然處口口下男へ御同伝意之趣被仰付奉恐入候、乍延引口存被上候間、御承知可被下候、何角御伺ニ上候間、書付証差上候口者、延引ニ相口候にニ付荒々申上候間、口之儀も御座候ハ、無御用捨可被仰聞候、尚又諸郡人別へ塩買取候様郡方御役場江願出候間、宜敷奉願上候、御伺旁ニ如願御座候、恐惶謹言

四月晦日 藤間太郎右衛門

板垣幸助様

演説代

- 一塩薪木当年之處松葉落葉山からきニ而行届候様奉存候、左候得ハ日用之薪木ふひき候儀ハ無御座候儀と奉存候
- 一川方御役所江塩買入直段貫ニ付、十五六文より八文位迄之處ニ而御買入被成度訳ニ御座候得共、左候而者自然与塩焼相止候ことも可有候様成行候而ハ不宜候様奉存候ツゝニ付、先ツ貫ニ付貳拾文ニして御買入之御儀定ニ相来被上候
- 一今年之處、塩高のみ御試ニ可被成様ニ奉存候
- 一弥来年も塩焼立候様相成候被上候ハ、五年太と申候石炭無御座候而ハ、薪木行届かたく奉存候、仍而石炭試之為此中手当リニ遣し被上候間、急ニ取帰り可被上候
- 一外園差海板津塩焼立候様承り候処、いつれ釜間ニ合兼可得候得者、先ツたこかわ半座漁桶火急ニ入用之所ニ御座候間、御用意可被成候、此節之天一日ニ而も取放し而ハ残念至極奉存候、

一かわ半座

代壹貫文

一たこ 壹荷

代三百文

一漁桶 壹ツ

代五百文

但 此分四斗桶之古物を町場ニ而買調候ハ、貳百貳拾文位之ものニ御座候、外ニ直し賃雑用何角相懸り候ニ而貳百六七拾文位之直段ニ而手口出来可仕候

- 一水塩取入候得ハ、釜出来候上雨天之節焼立可仕候
- 一塩溜桶酒屋之古桶品々御座候間、是を組合ニして買受遣し候ハ、至而御口当宜敷、三尺五寸新出来之分ハ代四貫五百文入味五石余り五尺桶入味、拾五石余り之分ハ代錢六貫五百文位ニ而買入出来可仕候
- 一大桶ニ相成候得ハ、小家ニ而ハ入処無御座候間、浦邊江組合ニ而小屋懸いたし、可燃様奉存候、左様無御座ニ而ハ何万表塩出来不仕候様、相成被上候
- 一塩濱へ水打様ニ寄口候而ハ、壹釜ニ塩取味貳三升より四五升位も増減御座候、其上薪木□□外入用相増被上候
- 一赤塚村ニ年来塩焚立方心得居候もの御座候得とも、塩水取様之儀ハ荒木川方御役所下役手伝中村種助様年来之心懸ニ而種々工風被致、釜之築様水之打様ニ寄水塩并焚立候取味増減有之、薪木相減候儀不少儀と奉存候、御同人外園浦へ被参候間、人別へ為見習被致候得ハ、人別不輕為筋ニ而奉存候

右荒々被上度如此ニ御座候、以上

四月晦日

藤間太郎右衛門

一塩五千表辻出来仕候間、入梅ニ不相成候内ニ賣捌不仕候而ハ曾太之欠等相立、勿論表ぶり見苦敷相成被上候間、出雲楯縫神門郡頭分ハ不及申、小前之もの迄も買取候様火急ニ被仰付候様、偏奉願上候、塩賣捌人別左ニ被上候

松江末次

小豆澤浅右衛門

楯縫郡平田町

木佐徳三郎

神門郡杵築町

藤間太郎右衛門

同今市町

松浦屋 夫八郎

岸本屋 半右衛門

一塩壺斗入壺表川方居放し貳百五拾文ニ御座候、左候得ハ今市町迄取越被上候得ハ、貳百七拾五文八拾文位ニ賣捌積ニ御座候、松江迄運送入用ハ表ニ付拾五文余も相懸り被上候、以上

右之通相認幸助様へ差出し

郡方江

右同文壺通外ニ左之通書状認差出

一筆致啓上候、然者杵築浦ニ而焼立候塩五千表辻出来仕候ニ付、別紙人別方ニ而賣捌仕度奉存候間、郡ニ人別江買取候様被仰付被下置候様奉願候、入梅ニ相成候而ハ余程欠等相立、其上表様にも見苦敷相成被上候間、火急ニ被仰渡候様偏ニ奉希候、恐惶謹言

藤間太郎右衛門

森山武七様

武部種十様

内田忠蔵様

余村孫市様

右之通認差出し

其方江此度杵築灘ニ而焼立候塩賣捌人申付候条、左様相心得候、以上

五月十二日

小川太祖右衛門

藤間太郎右衛門殿

一筆急啓被上候、御国塩捌口之儀ニ付、他国塩買入之儀内々井上公へ相伺候處、御手船開通丸ニ塩七千何百表積戻り被仰付、此節宇龍浦へ入津罷在候由□而右之塩荒木引受候而、可然との事御座候間、下役人衆之内御老人宇龍江御差向被成、開通丸舟頭右之趣御懸合、塩ハ荒木御取込御手□ニ被成度奉存候、藤蔵儀も右ニ付支度次第出立出郷可致候得とも、若風合ニより出帆松江積廻り之程難斗ニ付、先ツ飛脚を以被上候間、極急ニ下役人ヲ以御出御懸合被成度奉存候、書余者藤蔵出郷之上萬々御示合可申上候、恐々謹言

八月十五日 巳刻

三嶋藤蔵

原田貞五郎

服部幸右衛門様

別紙之旨御手船者甚差急松江帰り出帆いたし候手筈之由ニ候得ハ、塩取入候ニ付船手間□候而者不宜候間、其御心得ニ而早々御取扱可被成候、以上

尚々差急之訳ならハ、先ツ宇龍へ上ヶ置も可宜儀ニ奉存候

奉願演説之覚

去秋類外之凶作ニ付、郷中貧民とも難渋仕ニ付、御仁恵ヲ以産業等御仕向被下置候得共、杵築四ヶ浦漁師とも之儀藁仕事木綿稼不馴ニ付、渡世難相成、依而塩稼之儀拵付道具等元入致し、川方御役所江御懸引奉願候処、願之通御聞届被下置候ニ付、見込通塩高出来候、貧民とも御恵ヲ以渡世仕、難有仕合冥加至極奉存候、然處杵築浦塩取入業向より別段模様代り候而、外園浦へ試ニ川方御役人様塩取入之儀御扱被成候處、見込通雑用相減算当向至極宜敷永続之見込ニ奉存候、仍而百貫匁位元入仕度奉存候、若塩出来仕候ハ、御国益尚又御軍用之御手当ニも相成、其上出目銭ニ相成候ハ、其俣御上江寸志ニ差出度奉存候、弥永続之場ニ至候得ハ、御上之御趣向ニ奉願上候、尤右様之大金御承知之上、私より費を不厭被上候儀、甚奉恐入候得とも、私方□方之外、手々ニ出目銭を以右様奉願候儀ニ御座候得とも、若又百貫匁錢不益ニ相成候而も不苦奉存候間、何卒願之通御手早く御聞届被仰付候得共、来春之手廻ニ相成候間、急々御許容之程奉願候、以上

亥十月五日

藤間太郎右衛門

勝井順助様
須山丹三郎様

一筆奉啓上候、然者別紙を以願出被上候間、宜敷候様被仰上可被下奉願上候、以上

十月五日 藤間太郎右衛門

須山丹三郎様

右願書写老通

郡奉行様江
同 老通
郡方御控

一筆致啓上候、別紙演説書を以御勝手方御役所江御願被上候ニ付、別紙ヲ以御願被上候間、
宜敷被仰上可被下奉願上候、右御願届被上度如此ニ御座候、恐惶謹言

十月廿一日 藤間太郎右衛門

下部素蔵様
与頭良三郎様

一筆啓上仕候、寒氣向増ニ御口候得共口御安全被成御座候、私方不斜口ニ奉存候、外者心
底別紙之通御勝手方御役所へ願出候ニ付、加田才蔵様江も御咄被上候處、何分郡奉行様御
方へも届出候様被仰聞候ニ付、別紙ヲ以御届被上候間、奥書を被成此ものへ御渡可被下ニ
奉願上候、以上

十月廿一日 太郎右衛門

素蔵様
良三郎様

演説代

去秋風難ニ而無比類凶作ニ相成、郷中貧民之者難渋仕飢扶持等被仰付、追々御仁恵之御仕
向被下置、尚又産業出精いたし候様被仰渡、御元入等被仰付候所、杵築四ヶ浦人別藁仕事

等甚不得手、就中妻子ともハ木綿営ミ第一之業向ニ候得共、浦々ハ不手馴事ニ而差引ニ合兼、急場ニ可便様之増稼俄ニ出来不申、然所近年灘四ヶ浦人別焼塩少し宛いたし候處、道具等所持不仕難渋ものニ候得ハ、元入等致し遣不申候而ハ焼塩□□出来難渋仕候ニ付、太郎右衛門より勞之心配ニ而諸道具并ニ元入等いたし遣、焼塩等出来候ハ、塩買取遣追々塩焼出来増ニ相成候様仕向仕度、其段松江表江願立候處、願之通御聞届被仰付候、依而荒木川方御役所江焼塩御懸引被仰付候所、是迄御社頭より地割も被成置候由ニ而、人別手当り仕候處、大分人数増ニ相成ヶ所等増減之儀も有之、此度地割川方御役所ニ而相改、人別江申付度旨ニ付、太郎右衛門より御挨拶申上候而、川方御役所江御任ニ相成候様奉願候、塩上納之儀ハ是まで仕来之通御両殿様江人別より上納為致候間、此度之儀四ヶ浦難渋もの為御恵右様被仰付候様、前条之次第宜敷奉願候、以上

亥二月

藤間太郎右衛門

佐草尚書殿

嶋 弾正殿

島根県簸川郡(現出雲市)大社町

藤間家文書目録

2005年3月現在

[凡例]

1. 本目録は、藤間家所蔵文書のうち、平成16年3月整理作業済みのものについて一覧表にしたものである。

一枚ものの史料を中心に、なお未目録のものが少なからず残ってしまった。今後の作業にゆだねたい。

2. 原文書の伝存形態としては、ある程度のまとまりごとにタンスの引き出し等に収められていたが、しばしば分類上明らかに別のところにあったり、別場所に保管されていたものも存在していた等の事情もあり、整理作業ではできる限り伝存形態を崩さないように留意しつつも、やむをえず一定の入れ替えを行っている。

3. 全体を大きく家文書(経営・証書類)と公的文書(支配・地域の状況・出雲大社関係等に関わるもの)、その他(新聞切り抜き・書簡類)に分け、下記項目ごとに順に番号を付して、文書各点に対応する番号の付箋をはさんでいった。

各項目は、以下のとおりである。

家文書

- | | | |
|----------|----------|---------|
| ①廻船・交易関係 | ②貸借・証文関係 | ③系図関係 |
| ④金銭出入関係 | ⑤土地・資産関係 | ⑥講・趣法関係 |
| ⑦寺関係 | ⑧交際関係 | |

公的文書

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| ①藩・県支配関係 | ②郡中役方 | ③出雲大社関係 |
| ④町村関係 | ⑤巡見使・山陰鎮撫使関係 | ⑥租税・貢租関係 |
| ⑦争論・騒動関係 | ⑧産業関係 | ⑨杵築郵便局関係 |
| ⑩大根島義田関係 | ⑪日記・記録関係 | |

その他

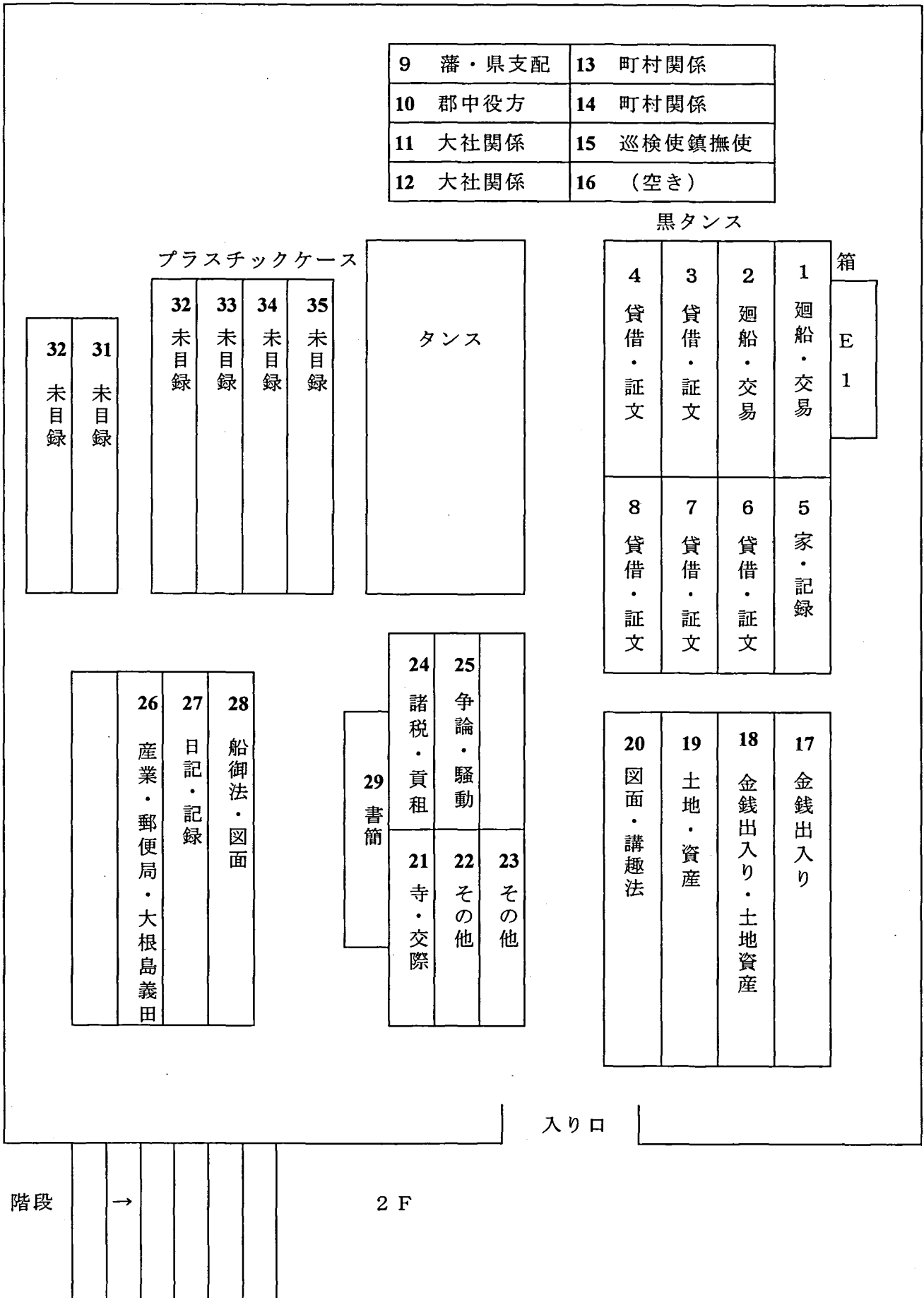
- | | |
|------|----------------------|
| ①書簡類 | ②その他(新聞切り抜き・諸記録類・雑記) |
|------|----------------------|

いちおう上記の形で分類して整理したが、判断が明確にはつかなかったり、原形態を残すためにひとまとまりのものを一括して「その他」等に入れている場合もある。残りの整理作業とともに、課題として残ってしまった。

4. 上記項目ごとのまとまりを中心にして、2階蔵の各箱(タンス引き出し)に収めていったが、その箱に番号を付し箱1～29とした。目録中の「箱NO.」の数字と、収めている箱番号とは、対応するようになっている。

その箱(タンス)の配置は、次ページの図の如くである。

2階所蔵室配置図



文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
箱1							
11001	卯九月川方他国出しの事	卯9月		長帳	1	廻船・交	
11002	甲子九月十六日出屋候の節	甲子9月16日		長帳	1	廻船・交	
11003	寛宝丸船頭卯一郎病氣ニ付代理勘 飯塚重蔵伴為太郎差下処惣計 定詰ニテ同人引受致親重蔵へ打 出其節入詰勘定記載控藤間見 世	明治9年子 7月10日	1876	長帳	1	廻船・交	
11004	西六月ヨリ入用勘定帳 寛幸丸	明治6年	1873	長帳	1	廻船・交	
11005	船手利勘定扣 穂左エ門扣			横半	1	廻船・交	
11006	杵築藤間太郎右衛門・藤間源左 衛門宛板垣円兵衛書状	8月8日		紙	1	廻船・交	
11007	杵築大年寄太郎右衛門宛 岡林 次・渡部藤七書状	6月23日西 刻		紙	1	廻船・交	
11008	藤間源左衛門宛 大賀又兵衛書 状 2通在中	6月6,7日		紙	2	廻船・交	
11009	奉願演説頭書 (藤間太郎右衛 門)	(嘉永6年) 丑6月		紙	1	廻船・交	
11010	奉願上口上頭書之覚(両村船頭 中)	嘉永6年6 月	1853	紙	1	廻船・交	
11011	(隠州出漁一件)			紙	1	廻船・交	後部欠 損
11012	藤間太郎右衛門宛 板垣円兵衛 書状(仮宮中両村頭列出漁一件)	9月4日		紙	2	廻船・交	
11013 01	御売仕切[白木綿, 新潟大月屋 藤蔵→藤間源七]	慶応4辰6 月29日	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 02	御売仕切[白木綿, 新潟大月屋 藤蔵→藤間源七]	慶応4辰6 月29日	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 03	(欠)					廻船・交	現物未 確認
11013 04	御売目録[白梅印木綿ほか, 香 奥屋清右衛門→藤間源七]	慶応4年6 月	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 05	御売仕切[米子綿, 吉田屋→藤 間源七]	慶応4辰5 月10日	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一 括(白紙 包中)
11013 06	(欠)					廻船・交	現物未 確認
11013 07	御売仕切[白梅・立小判・日之出 印白木綿, 吉田屋→藤間源七]	慶応4辰6 月	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 08	御売仕切[生蠟, 庄内加茂泉屋 半兵衛→藤間源七]	明治2巳5 月23日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一 括(白紙 包中)
11013 09	売仕切[白梅・立小判・日之出印 白木綿, 庄内加茂白水屋半兵衛 →藤間源七]	明治2巳5 月23日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 10	御売仕切[御蔵物生蠟, 新潟出 雲崎屋伝七→藤間源七]	巳8月22日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一 括(白紙 包中)
11013 11	御売仕切[順印等木綿, 新潟小 熊屋春五郎→藤間源七]	巳8月17日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 12	売仕切[越後小麦, 伯州境津川 西屋源蔵→明神丸源七]	巳10月1日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 13	御売仕切[浅黄地, 庄内加茂白 水半店伝四郎→藤間源七]	巳5月26日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 14	売仕切[綿, 長崎茶屋弥市→藤 間源七]	未2月22日	1871	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 15	売仕切[式番烏賊, 長崎枕嶋町 出雲屋源左衛門→明神丸源七]	午2月	1870	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 16	売仕切[大豆・唐白砂糖, 石州浜 田江津屋源左衛門→明神丸源 七]	午3月13日	1870	紙	1	廻船・交	紙箱一 括
11013 17	売仕切[河内・庄内・越後米, 石 州温泉津油屋亀治→明神丸源 七]	午2月11日	1870	紙	1	廻船・交	紙箱一 括

文書番号		史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
11013	18	売目録〔越後小豆，越前敦賀堺屋久兵衛→明神丸藤間源七〕	巳3月10日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	19	売仕切〔白梅・日出・立小判印木綿，赤間関室津屋常右衛門→明神丸文蔵〕	未8月28日	1871	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	20	売仕切〔飛白梅・白梅・日出印木綿，赤間関室津屋常右衛門→明神丸文蔵〕	未12月24日	1871	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	21	御売仕切〔白梅・日出・立小判印木綿，越後新潟小熊屋頼五郎→藤間源七〕	辰6月	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	22	買目録〔作徳米，庄内酒田尾関久兵衛→藤間源七〕	卯9月20日	1867	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	23	御買仕切〔小豆，新潟吉田屋千治之丞→藤間源七〕	慶応4辰6月	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	24	買仕切〔米子御蔵米，伯州境津川西屋源蔵→藤間内長嶋屋源七〕	寅6月6日	1866	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	25	買仕切〔上木綿，伯州境津川西屋源蔵→長嶋屋源七〕	寅11月5日	1866	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	26	買仕切〔越後長岡米，伯州境津川西屋源蔵→長嶋屋源七〕	寅11月5日	1866	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	27	買仕切〔由良御蔵米，伯州境津川西屋源蔵→長嶋屋源七〕	寅11月5日	1866	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	28	買仕切〔鶴・松印木綿，伯州境津川西屋源蔵→長嶋屋源七〕	辰3月19日	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	29	買仕切〔冬烏賊，佐州堀切屋長五郎→明神丸源七〕	巳2月26日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	30	買仕切〔冬烏賊，佐州堀切屋長五郎→明神丸源七〕	巳2月28日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	31	買仕切〔海・上・安印木綿，伯州境津川西屋源蔵→長嶋屋源七〕	巳7月15日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	32	買仕切〔越後国米，伯州境津川西屋源蔵→藤間源七〕	巳10月1日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	33	買仕切〔越後国米，伯州境津川西屋源蔵→藤間源七〕	巳10月1日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	34	買仕切〔河内米，ヲキ八尾栗屋久平→明神丸源七〕	巳12月24日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	35	買目録〔刻昆布，越前敦賀堺屋久兵衛(夫カ)→明神丸藤間源七〕	巳3月23日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	36	御買仕切〔天朝御米，新潟小川屋長右衛門→藤間源七〕	明治3年午7月11日	1870	紙	1	廻船・交	紙箱一(白紙包中)
11013	37	買仕切〔筑前今引米，赤間関室津屋常右衛門→明神丸文蔵〕	未8月28日	1871	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	38	買目録〔刻昆布，越前敦賀堺屋久兵衛(夫カ)→明神丸藤間源七〕	巳3月16日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	39	覚〔七嶋入繰綿，伯州境津川西屋源蔵→明神丸源七〕	明治元年辰2月	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	40	覚〔越後・庄内米，伯州境津川西屋源蔵→藤間源七〕	明治2年巳9月23日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	41	売仕切〔砂糖，伯州境津川西屋源蔵→坤厚丸重蔵〕	辰7月8日	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一(白紙包中)
11013	42	売仕切〔濡米，伯州境港川端屋半七→坤厚丸重蔵〕	7月11日		紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	43	御売仕切〔極鉄五十束，新潟小熊屋→藤間重蔵〕	明治7年8月29日	1875	仮綴	1	廻船・交	紙箱一
11013	44	売目録〔越後玄米，小樽嶋森三治郎→坤厚丸重蔵〕	明治7年10月	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	45	売目録〔越後酒，小樽嶋森三治郎→坤厚丸重蔵〕	明治7戌10月	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	46	売目録〔古手，松前大野良助→藤間重蔵〕	戌〔明治7〕10月27日	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	47	売目録〔越後玄米百俵，小樽嶋森三治郎→坤厚丸重蔵〕	明治7年10月	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	48	御売仕物〔極鉄五十束，新潟小熊屋→藤間重蔵〕	明治7年11月3日	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一(白紙包中)
11013	49	御売仕物〔極鉄五十束，新潟小熊屋→藤間重蔵〕	明治7年11月	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	50	売仕切之事〔越後種140俵，魚屋清右衛門→坤厚丸重蔵〕	明治8年7月10日	1875	紙	1	廻船・交	紙箱一

文書番号		史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
11013	51	記〔繰綿拾本，魚屋清右衛門→ 坤厚丸重藏〕	明治8年7 月11日	1875	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	52	売仕切〔塩，雲州三保関権藏→ 坤厚丸重藏〕	明治8年9 月18日	1875	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	53	売仕切〔唐砂糖，大浦屋為十→ 坤厚丸重藏〕	11月28日		紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	54	買仕切之覚〔別白梅七十反ほか， 藤間只四郎→坤厚丸重藏〕	明治7年7 月	1874	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	55	買仕切〔平金極鉄，松江持田屋 徳右衛門→坤厚丸重藏〕	明治7年7 月25日	1874	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	56	買仕切〔古手，伯州境港川端屋 半七→坤厚丸重藏〕	戊〔明治7〕 7月27日	1874	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	57	買目録〔鉄，小樽嶋森三治郎→ 坤厚丸重藏〕	明治7年10 月	1874	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	58	買目録〔鮮粕，小樽嶋森三治郎 →坤厚丸重藏〕	明治7年10 月	1874	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	59	買目録〔荏種，小樽嶋森三治郎 →坤厚丸重藏〕	明治7年10 月	1874	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	60	売仕切〔氷砂糖6俵，→坤厚丸 重藏(後欠)〕	欠		紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	61	売仕切〔白砂糖・氷砂糖，長崎石 見屋善右衛門→明神丸吉太郎〕	卯6月7日	1867	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一括 (白紙包中)
11013	62	売仕切〔氷砂糖，伯州境津川西 屋源蔵→坤厚丸茂太郎〕	卯9月22日		紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	63	売仕切〔越後大豆，赤間関室津 屋常太郎→明神丸文蔵〕	戊6月3日	1874	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	64	売仕切〔蒲原米，雲州三保関柏 屋権蔵→明神丸文蔵〕	午9月29日	1870	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	65	買仕切〔上〇印半紙，赤間関室 津屋常太郎→明神丸文蔵〕	戊6月3日	1874	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	66	買仕切〔島原小麦，赤間関室津 屋常太郎→明神丸文蔵〕	戊6月3日	1874	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	67	御買仕切〔塩，周防上関布屋平 左衛門→藤間文蔵〕	明治4年12 月5日	1871	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	68	買仕切〔筑前米，土佐清水新屋 梅治郎→明神丸文蔵〕	明治4年9 月17日	1871	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	69	仕切〔吉米，土佐須崎辻忠左衛 門→明神丸文蔵〕	未9月23日	1871	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	70	覚〔越後蒲原米，雲州三保関柏 屋権蔵→明神丸文蔵〕	明治3年年 8月4日	1870	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	71	売仕切〔越前種子油，赤間関室 津屋常太郎→松尾丸儀右衛門〕	申9月29日	1872	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	72	売仕切〔米子・淀江米，長崎茶屋 弥市→松尾丸惣右衛門〕	卯8月24日	1867	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	73	売仕切〔因幡古米，赤間関室津 屋常右衛門→松尾丸惣右衛門〕	卯3月15日	1867	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	74	売仕切〔木の実，萩浜崎町増野 屋張兵衛→松尾丸儀右衛門〕	未9月11日	1872	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	75	売仕切〔酒粕，江角浦問屋権蔵 →松尾丸義右衛門〕	明治5年6 月	1872	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	76	御売仕切〔米，石見三隅俣浦増 田屋瀧造→松尾丸儀右衛門〕	明治6年8 月	1873	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	77	売仕切〔雲州米，中村屋市五郎 →松尾丸儀右衛門〕	酉5月18日	1873	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	78	御売仕切〔米，石見三隅俣浦増 田屋瀧造→松尾丸儀右衛門〕	明治6年8 月4日	1873	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	79	御売仕切〔買切塩，雲州宇龍湊 御板屋市郎兵衛→松尾丸儀右衛 門〕	明治6年酉 6月19日	1873	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	80	買仕切之事〔塩，魚屋清右衛門 →松尾丸儀右衛門〕	明治4年10 月2日	1871	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	81	買仕切之事〔繰綿，魚屋清右衛 門→松尾丸儀右衛門〕	明治4年10 月2日	1871	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	82	買仕切之事〔肥浜塩，魚屋清右 衛門→松尾丸儀右衛門〕	未3月26日	1871	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	83	買仕切〔塩五合入，赤間関室津 屋常右衛門→松尾丸儀右衛門〕	酉5月22日	1873	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括
11013	84	買仕切之事〔塩，魚屋清右衛門 →松尾丸惣右衛門〕	卯11月24 日	1867	紙	1	廻船・交 廻易	紙箱一 括

文書番号		史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
11013	85	売仕切〔古手, 越前三国湊紅屋喜兵衛→藤間屋伊右衛門〕	戊8月朔日	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	86	売仕切〔古手, 越前三国湊紅屋喜兵衛→藤間屋伊右衛門〕	戊8月朔日	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	87	売仕切〔絹古手, 越前三国湊紅屋喜兵衛→藤間屋伊右衛門〕	戊8月朔日	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	88	(欠)					廻船・交	現物未確認
11013	89	売仕切〔古手, 越前三国湊紅屋喜兵衛→藤間屋伊右衛門〕	戊8月朔日	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	90	売仕切〔夜着ふとん, 越前三国湊紅屋喜兵衛→藤間屋伊右衛門〕	戊8月朔日	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	91	覚〔木綿, 夜着ふとんほか, 越前三国湊紅屋喜兵衛→藤間屋伊右衛門〕	戊8月3日	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	92	買仕切之覚〔白梅七拾五反入ほか, 藤間只四郎→寛榮丸龍平〕	明治6年6月	1873	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	93	買仕切之覚〔白梅七拾五反入ほか, 藤間只四郎→寛榮丸龍平〕	明治6年4月	1873	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	94	買仕切之覚〔白梅七拾反入ほか, 藤間只四郎→明治丸久右衛門〕	明治6年9月	1873	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	95	仕切覚〔米, 五嶋佐尾橋本屋松蔵→出雲大社松尾丸〕	酉7月25日	1873	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	96	売仕切〔因幡米, 平戸山城屋伝左衛門→松尾丸惣右衛門〕	卯8月6日	1867	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	97	覚〔御蔵生蠟, 伯州境津川西屋源蔵→藤間様内龍蔵〕	巳5月3日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	98	記〔鯉節, 魚屋清右衛門→坤厚丸重蔵〕	明治8年亥7月11日	1875	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	99	(売)仕切状〔繰綿, 雲州鷺浦越前屋新三郎→藤間屋和助〕	巳9月23日	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	100	売目録〔玄米, 津軽青森大町布施三次郎→明佐七〕	酉8月27日	1873	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	101	(買)仕切状〔繰綿, 大和屋井助→藤間屋和助〕	巳9月晦日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	102	〔仕切〕〔極上金巾, 長崎(?)金沢屋千代蔵→雲州外口浦〕	慶応3年8月	1867	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	103	売仕切〔唐砂糖, 雲州松江但馬屋平左衛門→米原屋善八〕	卯11月28日	1867	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	104	売仕切〔出雲くりわた, 田村与三兵衛→吉田屋文吉〕	巳9月17日	1869	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	105	売仕切〔木綿, 越前三国湊紅屋喜兵衛→藤間屋伊右衛門〕	戊7月8日	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	106	御売仕切〔白梅印白木綿, 新瀨大月屋藤蔵→藤間源七〕	慶応4年辰2月29日	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	107	売仕切〔白砂糖, 伯州境津川西屋源蔵→(後欠)〕	卯7月(転記)	1867	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	108	御売仕切〔松・竹印古手, 新瀨→藤間源七(後欠)〕	欠		紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	109	(為替にて借用申金子之事)〔藤間口三郎代藤間七郎右衛門, 越前三国浜紅屋喜兵衛→藤間久左衛門代理伊右衛門〕	明和3年		紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	110	買仕切之覚〔白梅・日出・立小判木綿(後欠)〕	明治6年酉6月	1873	紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	111	御売仕切〔出雲蠟, 庄内加茂秋野権右衛門→藤間源七〕	慶応4年辰4月23日	1868	紙	1	廻船・交	紙箱一(紙包中)
11013	112	永徳丸積入塩売払目録仕出帳 藤間源左衛門	元治元年9月	1864	長帳	1	廻船・交	紙箱一
11013	113	買仕切〔松永塩, 備後松永塩問屋月本箴右衛門→坤厚丸重蔵〕	明治8年7月7日	1875	長帳	1	廻船・交	紙箱一
11013	114	坤厚丸・明神丸 船道具売捌代価諸入費扣簿 加地團造	明治11年2月	1878	長帳	1	廻船・交	紙箱一
11013	115	御高札写 鶴峠浦	辰8月		紙	1	廻船・交	紙箱一
11013	116	(金銭受渡に関する)覚	明治3年4月20日~ 明治4年2月19日	1870~1871	仮綴	1	廻船・交	(他に年月不詳のものあり)

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
11014	買目録〔鉄，嶋森三治郎→坤厚丸重蔵〕	明治7年10月	1874	紙	1	廻船・交	紙箱一物 括・現物 未確認
11015	御売仕切〔別白梅木綿ほか，小熊屋→藤間重蔵〕	明治7年8月25日	1874	綴	1	廻船・交	紙箱一物 括・現物 未確認
11016	未二月坤厚丸北国下り荷物			長帳	1	廻船・交	紙箱一
11017	記〔坤厚丸・明神丸 船道具売払代，加地團造→藤間〕	11月18日		紙	1	廻船・交	紙箱一 括 道具 船売 より
11018	記〔坤厚丸 船道具売払代，小熊屋春五郎→藤間徳左衛門ほか〕	明治10年9月14日	1877	紙	1	廻船・交	船道具 売払 より
11019	航海船売譲証〔坤厚丸，藤間寛左衛門→石津三十郎〕	明治10年8月20日	1877	綴	1	廻船・交	
11020	航海船売譲解船ノ義ニ付御届〔坤厚丸，買主・石津三十郎〕	明治10年8月	1877	綴	1	廻船・交	
11021	願上候事〔坤厚丸売譲ニ付〕	明治10年8月	1877	綴	1	廻船・交	
箱2							
11025	明治丸久門船塀ヲ為預(カ)目録			紙	1	廻船・交	
11026	01 [袋「証拠物図面入」 藤間]			袋	1	廻船・交	
11026	02 [出席人名書付]			紙	1	廻船・交	
11026	03 買物帳	明治9年9月日	1876	横半	1	廻船・交	
11026	04 進物金門帳	元治2年3月	1865	横半	1	廻船・交	
11026	05 [名前書付]			紙	1	廻船・交	
11026	06 [料理献立]			紙	2	廻船・交	
11026	07 [雑用銀・鷺浦廻り運賃・他国米買入諸入用銀渡し覚]藤間源左衛門宛			綴	1	廻船・交	
11026	08 乍恐御内奉伺演説之覚(帯刀御免ニ付)	西9月		紙	1	廻船・交	
11026	09 [名字・帯刀御免、格ニ付]			紙	1	廻船・交	
11026	10 集配人証書〔杵築郵便局内〕	明治40年頃	1908	罫紙	7	廻船・交	
11026	11 杵築神領人別養米代錢上納口之儀ニ付歎願	明治□年7月		紙	1	廻船・交	(原書) 虫損大
11026	12 [藤間陽・博史宛仁多郡糸原諒葉書]	昭和8年2月26日	1933	葉書	1	廻船・交	
11026	13 [藤間亨宛松江相見香島葉書]	昭和26年	1951	葉書	1	廻船・交	
11026	14 申十一月二日勤役八人書状写(藤間源左衛門宛)	申11月2日		紙	1	廻船・交	
11026	15 神門郡杵築藤間徳左衛門ヨリ酒三拾石他国出し願	明治4年6月29日	1870	紙	1	廻船・交	半損
11026	16 買仕切〔久留米御城米百五口(拾カ)…〕			紙	1	廻船・交	断簡
11026	17 奉願御事〔藤間源左衛門持来小間物屋老軒運上等ニ付〕			紙	1	廻船・交	断簡
11026	18 [破船引払関係断簡]	(明治)		紙	1	廻船・交	断簡
11026	19 石州半野 藤間ヨリ一件(石州銀、杵築賑当日札料錢等ニ付)					廻船・交	一括
11026	20 大宝口(入払雇)	明治十□年		横半	1	廻船・交	
11026	21 [見取図]	不明		紙	1	廻船・交	
11026	22 [墓地見取図]	不明		紙	1	廻船・交	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
11026	23	[藤間只四郎書簡断簡]	不明		紙	1	廻易船・交
11026	24	[名前書付](合点アリ)	不明		紙	1	廻易船・交
11026	25	[金額書付断簡]	不明		紙	1	廻易船・交
11026	26	[名前書付]	不明		紙	1	廻易船・交
							郵便局用紙
11027	01	[買仕切 津軽米 鷺浦]	戊8月18日		紙	1	廻易船・交
11027	02	[津軽米百俵ほか代銀受取覚]	8月17日		紙	1	廻易船・交
11027	03	[藤間太郎右衛門宛目代次郎太夫書簡「日御碕他国米百五拾俵証文」]	亥8月21日		紙	1	廻易船・交
11028		大村覚三郎ヨリ逼塞願書	明治3年8月	1870	紙	1	廻易船・交
11029		[買取酒場老軒之事 藤間源左衛門願聞届]	元治元年1月	1864	紙	1	廻易船・交
							裏書アリ、虫損大
11030		[金拾七円受取証文(破船二付人夫賃。夜番等)]	明治7年9月8日	1874	罫紙	1	廻易船・交
11031		生蠟領書入			紙	2	廻易船・交
11032		(備後鉄山に付)奉伺演説之覚	寅4月		切紙	1	廻易船・交
							別紙あり
11033		(木綿灘出に付)内々演説之覚	安政5年10月	1858	切紙	1	廻易船・交
11034		(木綿灘出に付)奉伺演説之覚	安政5年11月	1858	切紙	1	廻易船・交
11035		(木綿灘出に付)奉伺演説之覚	安政5年11月	1858	切紙	1	廻易船・交
11036		(木綿一件に付)奉伺演説之覚	安政5年11月	1858	切紙	1	廻易船・交
11037		(木綿灘出に付)演説之覚	安政6年6月	1859	切紙	1	廻易船・交
11038		(木綿船他国出に付)願書	不明	1859	切紙	1	廻易船・交
11039		(木綿灘出に付)高橋太右衛門書状	4月19日	1859	封書	1	廻易船・交
							書状2通
11040		御買入他国米仕切写	嘉永3年12月	1850	横帳	1	
箱 3							
12001		(証文の束)	文久2年3月	1862	紙	31	貸借・証文
12002	01	取調書類			袋	1	貸借・証文
							山根十兵衛、渡部孫左衛門
12002	02	(貸付受取覚 その他)	卯8月		長帳	1	貸借・証文
12002	03	01 (貸付受取覚 その他)			長帳	1	貸借・証文
12002	03	02 (貸付受取覚)	明治12年8月	1879	紙	1	貸借・証文
12002	03	03 (貸付受取覚)			紙	1	貸借・証文
12002	03	04 (貸付金証文)	文久2年12月	1862	綴	1	貸借・証文
12002	03	05 (志儀錢預証文)	文久3年4月	1863	紙	1	貸借・証文
12002	03	06 (諸品払方書付)			紙	1	貸借・証文
12002	03	07 (貸付及び利金書付)			紙	1	貸借・証文
12002	03	08 (志儀錢預の件)			紙	1	貸借・証文
12003		借付			長帳	1	貸借・証文

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
12004	(貸付金書付)書出し			長帳	1	貸借・証 貸文	
12005	(貸付金書付)			長帳	1	貸借・証 貸文	
12006	志儀利廻り帖			長帳	1	貸借・証 貸文	
12007	荒木や孫左衛門預口	明治9年子 9月	1876	長帳	1	貸借・証 貸文	
12008	岡垣ヨリ当用金差引詰			長帳	1	貸借・証 貸文	
12009	(各人金銭払方書付)			長帳	1	貸借・証 貸文	
12010	(貸付金書付)			長帳	1	貸借・証 貸文	
12011	(貸付金書付)			長帳	1	貸借・証 貸文	
12012	(貸付金書付)			長帳	1	貸借・証 貸文	
12013	(貸付金書付)			長帳	1	貸借・証 貸文	
12014	(貸付金書付)記			長帳	1	貸借・証 貸文	
12015	(金出入書留帳)			長帳	1	貸借・証 貸文	
12016	(金出入書留帳)			長帳	1	貸借・証 貸文	
12017	(貸付金書付)記			紙	3	貸借・証 貸文	
12018	明治三庚午八月借用差引控	明治3年8 月	1870	長帳	1	貸借・証 貸文	
12019	□□午三月ヨリ五月迄借用書出し 控			長帳	1	貸借・証 貸文	
12020	(貸付金書付)			長帳	1	貸借・証 貸文	
12021	証書目録	明治30年4 月	1897	綴	1	貸借・証 貸文	罫紙
12022	01 (雲州杵築郵便局宛封筒)			袋	1	貸借・証 貸文	
12022	02 預り金増抵当証	明治13年9 月	1880	綴	1	貸借・証 貸文	罫紙、明 治18年9 月消印の 朱書あり
12022	03 訂約証	明治19年3 月	1886	紙	1	貸借・証 貸文	罫紙
12022	04 土地売渡証	明治19年3 月	1886	紙	1	貸借・証 貸文	罫紙
12023	(預り金書付)			紙	37	貸借・証 貸文	
12024	01 (諸品払方書付)	子2月		長帳	1	貸借・証 貸文	
12024	02 (貸付預り書付)	子2月		紙	4	貸借・証 貸文	
12024	03 (米収高差引書付)	未11月		紙	1	貸借・証 貸文	藤間 穂 左 衛 門 木 → 荒 孫 右 屋 衛 門
12024	04 (年賦払書付)	3月		紙	1	貸借・証 貸文	藤間 穂 左 衛 門 木 → 荒 孫 右 屋 衛 門
12024	05 (年賦払書付)			紙	1	貸借・証 貸文	
12024	06 (年賦払書付)			紙	1	貸借・証 貸文	
12025	(米預け証文)	明治3年午 2月	1870	紙	1	貸借・証 貸文	
12026	(諸入用貸付払書付)			長帳	1	貸借・証 貸文	朱書

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
12027	借用分未之元利払出し扣			紙	1	貸借・証 文	
12028	借金借用分 未十二月二日控	12月2日		紙	1	貸借・証 文	
12029	十一月晦日歳元書状	11月		紙	1	貸借・証 文	
12030	(預り借用証文願)			紙・綴	7	貸借・証 文	
12031	(諸品受取注文)	6月3日		紙	1	貸借・証 文	
12032	(金銭受取証文)	明治15年1月	1872	紙	1	貸借・証 文	
12033	(金銭受取証文)	6月4日		紙	1	貸借・証 文	
12034	(証書について書簡)	5月		紙	1	貸借・証 文	
12035	九ヶ年間払捨書出し			紙	1	貸借・証 文	
12036	藤間源左衛門方証文之写 礼次郎			綴	1	貸借・証 文	
12037	大宝恵 藤間藤愛	明治3年10月	1870	横帳	1	貸借・証 文	
12038	万記 藤間	明治10年5月	1877	横帳	1	貸借・証 文	
12039	(貸金帳)			横帳	1	貸借・証 文	
12040	年賦金返納延期願	明治19年1月	1886	綴	1	貸借・証 文	
12041	副議定確証	明治9年12月	1876	紙	1	貸借・証 文	
12042	金子借用耕地書入証書	明治9年12月	1876	書冊	1	貸借・証 文	
12043	借入金之証	明治12年6月	1879	綴	1	貸借・証 文	
12044	諸方貸方証文	安永5申～安永9子	1776-1780	書冊	1	貸借・証 文	
12045	証文	文化1子～7午	1804-1810	書冊	1	貸借・証 文	
12046	証文	寛政6寅～10午	1794-1798	書冊	1	貸借・証 文	
12047	(金銭貸借一紙文書)			紙	48	貸借・証 文	
12048	(金銭貸借一紙文書)			紙	68	貸借・証 文	
12049	(金銭貸借一紙文書)			紙	22	貸借・証 文	
12050	(金銭貸借一紙文書)			紙	34	貸借・証 文	
12051	預金証書	明治7年10月	1874	紙	1	貸借・証 文	
12052	覚(出雲米拾二表預り)			紙	1	貸借・証 文	
12053	借入金証	明治17年10月21日	1884	紙	1	貸借・証 文	
12054	借用申金之事	9年3月27日	1876	紙	2	貸借・証 文	
12055	借入金記	明治9年7月	1876	紙	1	貸借・証 文	
12056	借用証	明治9年5月	1876	紙	1	貸借・証 文	
12057	借用証	明治9年3月	1876	紙	1	貸借・証 文	
12058	覚(金札百両預け)	明治4年4月	1871	紙	1	貸借・証 文	
12059	(岩見屋平蔵請求覚)	11月3日		紙	1	貸借・証 文	一括

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
12060	(請求覚)			紙	1	貸借・証 文	
12061	金子借受証書	明治9年6月	1876	紙	1	貸借・証 文	
12062	借用申金之事	明治9年6月	1876	紙	1	貸借・証 文	
12063	借用証	明治9年5月20日	1876	紙	1	貸借・証 文	
12064	(金錢貸借一紙文書)			紙	22	貸借・証 文	
12065	(金錢貸借一紙文書)			紙	11	貸借・証 文	
12066	(金錢貸借一紙文書)			紙	10	貸借・証 文	
12067	借用金証書	明治9年12月3日	1876	紙	1	貸借・証 文	
12068	借用申錢之事	明治6癸酉2月	1873	紙	1	貸借・証 文	
12069	借用申金之事	明治8年亥12月	1875	紙	1	貸借・証 文	
12070	借用申錢之事	明治5壬申11月	1872	紙	1	貸借・証 文	
12071	借用金証	明治8年亥12月	1875	紙	1	貸借・証 文	
12072	借用申錢之事	明治5申11月	1872	紙	1	貸借・証 文	
12073	借用申錢之事	明治5壬申11月	1872	紙	1	貸借・証 文	
12074	覚(借用金取立に付)	嘉永2年西12月	1849	紙	1	貸借・証 文	
12075	預申銀子之事	宝曆11年5月3日	1761	紙	1	貸借・証 文	
12076	借用申上錢之事	午2月		紙	1	貸借・証 文	
12077	借用借居申添証文之事	明治7年戌1月	1874	紙	1	貸借・証 文	
12078	(金錢貸借一紙文書)			袋	1	貸借・証 文	紙24
12079	(金錢貸借一紙文書)			紙	28	貸借・証 文	
箱 4							
12080	(金錢貸借一紙文書)			紙	33	貸借・証 文	
12081	(金錢貸借一紙文書)			紙	18	貸借・証 文	
12082	(金錢貸借一紙文書)	明治4年7月8日	1871	紙	35	貸借・証 文	
12083	(金錢貸借一紙文書)			紙	12	貸借・証 文	
12084	(金錢貸借一紙文書)			紙	46	貸借・証 文	
12085	(金錢貸借一紙文書)	明治5年	1872	紙	43	貸借・証 文	
12086	(金錢貸借一紙文書)	慶応3~明治7年	1867-74	紙	51	貸借・証 文	
12087	(金錢貸借一紙文書)	明治5~7年	1872-74	紙	48	貸借・証 文	
12088	(金錢貸借一紙文書)	明治3~7年	1870-74	紙	31	貸借・証 文	
12089	(金錢貸借一紙文書)			紙	47	貸借・証 文	
12090	(金錢貸借一紙文書)			紙	17	貸借・証 文	
12091	(金錢貸借一紙文書)			紙	14	貸借・証 文	
12092	(金錢貸借一紙文書)			紙	17	貸借・証 文	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
12093	(金銭貸借一紙文書)			紙	4	貸借・証文	
12094	貸方并諸証拋物 差紙類入	寛政酉元 ～戊年	1789 -80	豎	1	貸借・証文	
12095	貸方一切証文入 藤間屋久左エ門	宝暦7中之分	1757	豎・綴	1	貸借・証文	
12096	明和六年丑年 貸証文入・明和七年 寅年 証文入	明和6、7	1769 -70	豎	1	貸借・証文	
12097	貸方証文入 藤間久左エ門	宝暦13、明和元	1763 -64	豎	1	貸借・証文	
12098	証文入 未年ヨリ申年、酉年	寛政11,12,享和元	1799 -1801	豎	1	貸借・証文	
12099	諸方貸方証文 并何角証拋書も入 在町共ニ(藤間儀兵エ)	安永3～4	1774 -75	豎	1	貸借・証文	
12100	貸方一切証文入 在町共ニ 藤間屋久左エ門	宝暦9中	1759	豎	1	貸借・証文	
箱 5							
1059	出雲国意字郡完道町 木幡家系 図 藤間源左衛門 藤愛写取	明治8年12月	1875	書冊	1	系図	
1060	西森脇家系図 藤間源左衛門 藤愛写之	明治9年3月	1876	書冊	1	系図	
1061	石州銀山藤間太郎右衛門古書方古書写	安政2年5月17日	1855	書冊	1	系図	手代久市写取帰
1062	藤間家代々記稿	(大正期カ)		書冊	1	系図	
1063	平田町儀満家系図 藤間源左衛門 藤愛写之	明治8年12月	1875	書冊	1	系図	
1064	出雲国楯縫郡平田町 木佐家系 図 神門郡杵築町藤間源左衛門 藤愛写之	明治8年12月	1875	書冊	1	系図	
1065	藤間家遠祖神霊(巻)			卷子	1	系図	
箱 6							
12101	貸方証文 藤間屋久左エ門	明和4	1767	豎	1	貸借・証文	
12102	在町貸方証文(諸書付・田地証文)	天明元～3年	1781 -83	豎	1	貸借・証文	
12103	年々貸付証文 藤間源左エ門	安政5～明治4	1858 -71	一括帳	1	貸借・証文	
12104	覚(銭六貫三文…)	5月24日		紙	1	貸借・証文	
12105	覚(銭貳拾貫文)	申4月9日		紙	1	貸借・証文	
12106	(頼申銭の事 儀兵衛様 左琴)	7月27日		紙	1	貸借・証文	
12107	覚(銭拾貫文)	申8月27日		紙	1	貸借・証文	
12108	(頼申銭の事 儀兵衛様 稲岡左琴)	戊申7月13日	1788	紙	1	貸借・証文	
12109	覚(米千五百俵証文引替の件)	午11月		紙	1	貸借・証文	
12110	覚(御内証納銭之御渡)	天明8年12月大晦日	1788	紙	1	貸借・証文	
12111	覚(御内証納銭之御渡)	天明8申年12月	1788	紙	1	貸借・証文	
12112	覚(御内証納銭之御渡)	申8月3日		紙	1	貸借・証文	
12113	預申上候銀之事	宝暦11年辛巳12月	1761	紙	1	貸借・証文	
12114	預り書一通	明治3年7月2,11日	1870	包		貸借・証文	
12115	01 覚	明治3年7月11日	1870	紙	1	貸借・証文	包入り
12115	02 預り申金子之事	明治3年7月2日	1870	紙	1	貸借・証文	包入り
12115	03 預り申金子之事	明治3年7月11日	1870	紙	1	貸借・証文	包入り
12116	寛政三亥年寛政四壬子年諸証文入 癸丑年寅年	寛政3～6年	1791	綴	1	貸借・証文	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
12117	証文并大切書付	延享4~天保2年	1747 -183 1	綴	1	貸借・証文	
箱7							
12118	01 山根久右衛門一件取引証書入	明治13年10月17日	1880	袋	1	貸借・証文	
12118	02 荻柄高稲岡諸上納差引帳 山根久右エ門	明治7年~己卯	1874 -79	長帳	1	貸借・証文	
12118	03 (荻柄村租税取立関係綴)	明治8年2月4日~9年1月13日	1875 -76	綴	1	貸借・証文	
12118	04 (荻稻高三カ村納支配目録)	明治9~12年	1876 -79	長帳	1	貸借・証文	
12118	05 荻柄高岡稲岡諸上納差引帳	明治7~12年	1874 -79	長帳	1	貸借・証文	
12118	06 荻柄高岡稲岡中作山根久右エ門へ係ル米請取并ニ金渡シ書上ケ	明治6年1月~	1873	長帳	1	貸借・証文	
12118	07 (納税収納証綴)	明治10~12年	1877 -79	綴	1	貸借・証文	
12118	08 (藤間店賀藤又市宛封筒)[租税関係書類入]	明治13年	1880	袋	1	貸借・証文	
12118	09 上 明治丸久右衛門			包紙	1	貸借・証文	
12118	09 01 記(明治丸久右衛門差引残銭引替手形)	明治7年6月19日	1874	紙	1	貸借・証文	
12118	09 02 記(寛栄丸然兵衛差引残銭引替手形)	明治7年6月19日	1874	紙	1	貸借・証文	
12118	10 01 請合書付覚	明和2年3月24日	1765	紙	1	貸借・証文	
12118	10 02 (遠所恵六志儀に付)覚	享和元年12月	1801	紙	1	貸借・証文	
12118	10 03 預申銀子之事	明和2年正月	1765	紙	1	貸借・証文	
12118	10 04 借用申銭之事	明和2年9月	1765	紙	1	貸借・証文	
12118	11 御蔵米預入 式通 川西屋源蔵			包紙	1	貸借・証文	
12118	11 01 申正月廿日明神丸文蔵境川源方にて米子御蔵米貳百石買入仕切	申正月20日		紙	1	貸借・証文	
12118	11 02 申正月廿日明神丸文蔵境川西屋源蔵方にて米子御蔵米三百石買入仕切	申正月20日		紙	1	貸借・証文	
12118	11 03 戌七月明神丸住入(鉄請取証文)	戌7月1日		紙	1	貸借・証文	
12118	12 01 (借用証文)覚 「子六月廿九日返済引替消し」	文久4年3月4日	1864	紙	1	貸借・証文	
12118	12 02 (借用証文)覚	安政5年6月12日	1858	紙	1	貸借・証文	
12118	12 03 (借用証文)覚 「子三月十一日返し」	甲子3月1日	1864	紙	1	貸借・証文	
12118	12 04 (借用証文)覚 「子三月十一日返し」	文久4年3月4日	1864	紙	1	貸借・証文	
12118	13 (御差紙代請求書)覚	正月5日		紙	1	貸借・証文	
12118	14 船壳渡願	明治7年9月18日	1874	紙	1	貸借・証文	
12118	15 預り申一銀之事 「天保十四年卯十一月分卯納延御用米証文高貳千俵」	天保14年1月	1843	紙	1	貸借・証文	
12118	16 01 預申上御米代銭之事	元治元年6月	1864	紙	1	貸借・証文	
12118	16 02 預申銭之事	慶応4年2月	1868	紙	1	貸借・証文	
12118	16 03 預申上御米代銭之事	元治元年6月	1864	紙	1	貸借・証文	
12118	16 04 預申御米代銭之事	明治2年9月	1869	紙	1	貸借・証文	

文書番号			史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
12118	16	05	御預申上錢之事	明治2年6月25日	1869	紙	1	貸借・証文	
12118	16	06	預申上御米代錢之事	慶応3年10月	1867	紙	1	貸借・証文	
12118	16	07	預申上御米代錢之事「辰納御先売百弍拾五俵分已正月十九日上納皆済惣五郎ヲ以口決分」	慶応4年12月	1868	紙	1	貸借・証文	
12118	16	08	(生蠟代金証文)覚	明治2年3月	1869	紙	1	貸借・証文	
12118	16	09	(生蠟代金証文)覚	明治2年3月	1869	紙	1	貸借・証文	
12118	16	10	預申上御米代錢之事「収納御用米四百俵永井重兵衛引受之取分已正月十九日百俵分皆済返し三百俵之所上納辰に上納済惣五郎上納」	慶応3年10月	1867	紙	1	貸借・証文	
12118	16	11	預申上錢之事	慶応4年4月	1868	紙	1	貸借・証文	
12118	16	12	(生蠟代金証文)覚	慶応4年5月	1868	紙	1	貸借・証文	
12118	16	13	預申上御米代錢之事「寅納藤間」	慶応2年11月	1866	紙	1	貸借・証文	
12118	16	14	拝借仕手形之事	慶応4年4月	1868	紙	1	貸借・証文	
12118	16	15	拝借錢御目当証文之事	文久2年6月	1862	紙	1	貸借・証文	
12118	17		杵築潟間大敷網運上銀之事	天保11年4月	1840	紙	1	貸借・証文	
12118	18		年寄取替并断書	已10月		紙	1	貸借・証文	
12118	19		越峠村恵比須遷宮ニ付大黒尊御抱守口願	嘉永2年8月29日	1849	紙	1	貸借・証文	
12118	20		藤間源左衛門殿 旧借一条書類在中	5月11日		袋	1	貸借・証文	罫紙1、紙3在中
12118	21		(差引書付)覚	辰口月		紙	1	貸借・証文	
12118	22		高岡村古江屋啓助御用米口合一 件ニ付同村役人三人引受合書状	寅1月20日		紙	1	貸借・証文	
12118	23	01	(木村蔵一借用金返済証書下書)	明治13年3月	1880	紙	1	貸借・証文	
12118	23	02	記(船仕切金請求書)	子12月22日		紙	1	貸借・証文	
12118	23	03	(年賀および返済金につき書簡)	明治12年1月14日	1879	紙	1	貸借・証文	
12118	23	04	(藤間穂左衛門宛 木村蔵一借用金返済につき書簡)	明治11年1月21日	1878	紙	1	貸借・証文	
12118	23	05	(藤間穂左衛門宛 木村蔵一書簡)	2月4日		紙	1	貸借・証文	
12118	23	06	(藤間穂左衛門宛 木村蔵一書簡)			封筒	1	貸借・証文	封筒のみ
12118	24	01	(借用証文)覚	丑9月26日		紙	1	貸借・証文	
12118	24	02	(米預り証文)覚	酉12月14日		紙	1	貸借・証文	
12118	24	03	御拝借申上錢之事	酉閏4月24日		紙	1	貸借・証文	
12118	24	04	(借用証文)覚	天保15年1月2月	1844	紙	1	貸借・証文	
12118	24	05	(米代証文)覚	戌6月28日		紙	1	貸借・証文	
12118	24	06	預り申上金札之事	明治3年閏10月20日	1870	紙	1	貸借・証文	
12118	24	07	(借用金引替手形)覚	壬午7月24日	1882	紙	1	貸借・証文	
12118	24	08	(借用金引替手形)覚	未7月22日		紙	1	貸借・証文	
12118	24	09	(借用金引替手形)覚	嘉永3年12月27日	1850	紙	1	貸借・証文	

文書番号			史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
12118	24	10	(借用金引替手形)覚	嘉永3年2月	1850	紙	1	貸借・証文	
12118	24	11	(借用証文)覚	西5月7日		紙	1	貸借・証文	
12118	24	12	(受取証文)覚	宝曆11年1月	1761	紙	1	貸借・証文	
12118	24	13	(受取証文)覚	丑口月3日		紙	1	貸借・証文	
12118	24	14	(預り証文)覚	丑6月8日		紙	1	貸借・証文	
12118	24	15	(寛左衛門宛得三郎願書)	9月15日		紙	1	貸借・証文	
12119			米千俵寸志願面扣	嘉永4年7月	1851	紙	1	貸借・証文	
12120			御預申上金子之事	明治4年	1871	紙	1	貸借・証文	
12121			(生蠟代錢上納の事覚)	明治3年9月	1870	紙	1	貸借・証文	
12122			覚(生蠟代錢上納の事)	明治3年3月	1870	紙	1	貸借・証文	
12123			居家屋敷質入証文	明治5年7月	1872	紙	1	貸借・証文	
12124			借用申延米証文之事	明治8年1月	1875	紙	1	貸借・証文	
12125			(年々諸払留帳)	天保1~13年	1830-42	綴帳	合1	貸借・証文	
12126			大社御備金目当書入証之事	明治8年5月	1875	綴帳	1	貸借・証文	
12127			(金錢貸借証文)			紙	67	貸借・証文	
12128			(金錢貸借証文)			紙	62	貸借・証文	
12129			(金錢貸借証文)			紙	27	貸借・証文	
12130			(金錢貸借証文)			紙	24	貸借・証文	
12131			(金錢貸借証文)			紙	20	貸借・証文	
12132			(金錢貸借証文)			紙	12	貸借・証文	
12133			(金錢貸借証文)			紙	8	貸借・証文	
12134			(金錢貸借証文)			紙	6	貸借・証文	
12135			年中貸方諸証文 証拠物入	天明4~8年	1784-88	綴帳	1	貸借・証文	
12136			(金出入書留帳)			長帳	1	貸借・証文	落丁
12137			(金出入書留帳)			長帳	1	貸借・証文	
12138			年賦借用証文 三部村栄左衛門・豊蔵	不明		紙	1	貸借・証文	虫損大、未開
12139			[極難者養米代錢猶予願](神在沖村→大年寄太郎右衛門)	嘉永3年8月	1850	紙	1	貸借・証文	
12140			社中支配人別証文(養米差支二付買入金貸渡之件)	嘉永3年7月	1850	紙	1	貸借・証文	
12141			[嶋義田御礼錢請取覚](藤間久左衛門宛)	宝曆13年正月	1763	紙	1	貸借・証文	
12142			借用証文(社中支配為養米借用)西社中支配	嘉永3年8月27日	1850	紙	1	貸借・証文	
12143			御拝借申上候錢之事(年柄二付)	嘉永3年8月	1850	紙	1	貸借・証文	
12144			養米証文 修理免村	嘉永3年7・8月	1850	紙	2	貸借・証文	
12145			[養米証文 御田儀村]	戊8月25日		紙	2	貸借・証文	
12146			[錢借用証文 仮宮村]	安政3年8月13日	1856	紙	1	貸借・証文	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
12147	養米貳百表証文 宇龍浦	嘉永3年7月	1856	紙	1	貸借・証文	
12148	[錢四貫百文預書 多岐村]米三十俵	安政4年6月22日	1857	紙	1	貸借・証文	
12149	[錢借用証文]	天保13年5月	1842	紙	1	貸借・証文	虫損大
12150	01 [錢借用証文(和泉屋助右衛門)]	天保13年3月	1842	紙	2	貸借・証文	
12150	02 預り申上御米代錢之事	嘉永5年12月	1852	紙	1	貸借・証文	
12151	為替錢預り手形申	慶応元年9月	1864	紙	1	貸借・証文	虫損大、未開
12152	[為替錢借用手形カ]	安政4年12月	1874	紙	1	貸借・証文	虫損大、未開
12153	為替錢預申上筆(繰綿貳拾本)	慶応元年10月	1865	紙	1	貸借・証文	
12154	拝借申上御米代錢之事(「荒木川方米貴家御引受之内…拝借」)	安政5年	1858	紙	1	貸借・証文	
12155	為替御願申上候事	慶応元年12月	1865	紙	1	貸借・証文	
12156	御拝借金子之事(養米払底高値ニ付)	弘化4年10月	1847	紙	1	貸借・証文	
箱 8							
12157	預り申上錢之事	嘉永6年10月	1853	紙	1	貸借・証文	
12158	01 借用申錢之事	安政5年12月	1858	紙	1	貸借・証文	
12158	02 演説之覚(藤間引受御用米ニ付) 藤間源左衛門			紙	1	貸借・証文	
12158	03 御内々演説之覚			紙	1	貸借・証文	
12158	04 高岡村御用米代懸り 勘左衛門受引書類	安政3年2月	1856	紙	1	貸借・証文	
12159	[借用証書類]			紙	68	貸借・証文	
12160	[借用証書類]			紙	55	貸借・証文	
箱 9							
21001	杵築仮宮中兩浦隱州江出漁難相成二付千家山城様へ漁師共願候二付出漁出来候様世話有之願筋成就二付諸書付写控	明治2年9月	1869	書冊		藩・県支配	
21002	文久元酉年 置屋中諸書控	文久元	1861	書冊		藩・県支配	
21003	文久二壬戌五月 修理免村大鳥居置屋宿屋差纏一件ニ付社方ヨリ罷差出候書類写し	文久2年	1862	書冊		藩・県支配	
21004	地下服忌令			書冊		藩・県支配	
21005	本願訴状并返答書写し	寛政10年	1798	書冊		藩・県支配	
21006	此度馬場先道替ニ付人別歎書写し	安政六未二月	1859	書冊		藩・県支配	
21007	芝居小屋新建日記	文久元辛酉	1861	書冊		藩・県支配	
21008	日御崎檢校様権恵社正遷宮ニ付松四御越し御先触并ニ諸手配御紙上扣	嘉永五年五月五日	1852	書冊		藩・県支配	
21009	御用留之内書抜扣	天明五	1785	書冊		藩・県支配	
21010	神門郡杵築六ヶ村万指出帳扣	寛政4年10月	1792	書冊		藩・県支配	
21011	神門郡杵築町御制札写	宝暦11年	1761	書冊		藩・県支配	
21012	神門郡杵築六ヶ村万指出帳	寛政4年10月	1792	書冊		藩・県支配	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
21013	山陰出雲国郡之區別戸長・副戸長性名録	明治五	1872	書冊		藩・県支	
21014	御改正御規則書写	明治4	1871		1	藩・県支	
21015	御藩制職員写	明治3	1870	書冊	1	藩・県支	
21016	演説書	安政5年8月	1858	綴	1	藩・県支	
21017	杵築御社頭御社領之者社法不犯様御仕向被下度願一途	文久3亥年(6月カ)	1863	綴	1	藩・県支	
21018	杵築医者先達而取払国造様ヨリ被仰付候ニ付御上ヨリ国造様江被再住之儀御沙汰御座候ニ付社役人ニ而大年寄村役人江被申付控	宝曆10辰6月26日	1760	綴	1	藩・県支	
21019	古来ヨリ大年寄江被仰渡候御用留之内抜書	天保15年甲辰3月	1844	書冊	1	藩・県支	
21020	先年大年寄灘役被仰付候ニ付格被仰付郡役御書附之写其外御役ニ式仰付候御書類之控	安永2巳12月25日	1773	書冊	1	藩・県支	
21021	先年大年寄灘役被仰付候ニ付格被仰付郡役御書附之写并ニ式仰付候御書類之控	寛政12年申6月	1800	書冊	1	藩・県支	
21022	神門郡杵築飯宮村勝左衛門長右衛門鮒漁ニ罷出行懸ヶ両人ととも溺死仕勝右衛門死骸板津村灘江流寄長左衛門死骸相見不申ニ懸り合之者吟味口上書	天保6未11月	1835	書冊	1	藩・県支	
21023	郵便切手及収入印紙売買下規則	明治32年3月25日	1899	書冊	1	藩・県支	
21024	島根県治一斑	明治23年11月1日	1890	書冊	1	藩・県支	
21025	改定鎮台条例	不明		書冊	1	藩・県支	
21026	会計方御用石差引の用	不明		長帳	1	藩・県支	
21027	石州掛り合松江行 諸書付入 [3庄屋から藤間屋武四郎宛書状等6点入り]	文化13年子6月	1816	袋	1	藩・県支	
21028	御用宿一件ニ付而書抜書類写	文久2年4月	1862	長帳	1	藩・県支	
21029	御作事方諸書附類	文化11年8月	1814	袋	1	藩・県支	書付等6点入り
21030	他国米買入一条御用留	嘉永3年7月	1850	書冊	1	藩・県支	
21031	大年寄灘役之儀御書付并御免被仰付旨且御役料被仰付候御書旨紙并断書写・大年寄御役被仰付候御書付写・方懸り合伺書御差図共・大年寄郡役人并ニ被仰付候御書付写・小年寄を社中より被仰付候写	不明		書冊	1	藩・県支	
21032	公御役人様御泊御立諸法事手配之儀御奉行様より之願出	不明		横帳	1	藩・県支	
21033	田畑山林売・買御規則書写	明治5年6月	1872	書冊	1	藩・県支	
21034	(御用留)	宝曆10年6月5日～元治元年10月	1760-1864	横帳	1	藩・県支	
21035	(檢校先触手配ニ付奉行より飛札写し)	不明		紙	1	藩・県支	
21036	有斐棧同人者規則書	不明		袋・仮綴	1	藩・県支	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
21037	隱州嶋後都万村直乘船頭万三郎船 水主共三人乗難風二逢赤塚灘二帆 上ケ候得共空船二而無破損船具等 散乱も無之無難船之旨願出取扱一 途 大年寄武右工門	文政5年9 月15日	1822	書冊	1	藩・県支 配	包紙あり
21038	杵築大土地・仮宮両村年寄正右 衛門儀従千家二被申付上京記	慶応2年正 月	1866	紙	1	藩・県支 配	
21039	(訴訟様子伺・要用書力)	5月28日		紙	1	藩・県支 配	包紙あり
21040	御用留	天明7年	1787	書冊	1	藩・県支 配	
21041	書附留	文政9年	1826	書冊	1	藩・県支 配	
21042	書付御用留 藤間久右工門	弘化3年	1846	書冊	1	藩・県支 配	
21043	明治二巳六月鰥寡孤独書出し扣 (大庄屋穂左工門)	明治2	1869	横帳	1	藩・県支 配	
21044	県用留 十二区戸長藤間穂左衛 門	明治5年8 月	1872	冊紙	1	藩・県支 配	
21045	県用留 戸長藤間穂左衛門	明治6年	1873	冊紙	1	藩・県支 配	
21046	御用留 書拔藤間太郎右衛門	弘化3年	1846	冊紙	1	藩・県支 配	
21047	(役職・役人等書上)			長帳	1	藩・県支 配	
21048	大鳥居前置屋一件御紙書上并書 類写 杵尾大四郎殿勤中控	文久元年1 0月	1861	書冊	1	藩・県支 配	
21049	第四回内国勸業博覧会島根県売 店日誌	明治28年3 月	1895	書冊	1		
箱10							
22001	杵築六ヶ村年寄目代并両支配下 庄屋役給申立書	明治三	1870	書冊		郡 中 役 方	
22002	郡中区別人高書出し	明治5壬申 3月	1872	横帳	1	郡 中 役 方	
22003	神門郡中社屋名前書出帳	安政7庚申 3月	1860	長帳	1	郡 中 役 方	
22004	大年寄役断書附書出し	文久4甲子 9月8日	1864	綴	1	郡 中 役 方	
22005	年寄又右衛門役成一途二付并二 住屋四郎左衛門住屋又右衛門醉 屋長之助居住屋敷一条二付御両 家役人衆贈善手代写願面書付類 写	慶応3丁卯 年	1867	綴	1	郡 中 役 方	
22006	(大年寄勤方二付歎願願い)			綴	1	郡 中 役 方	
22007	元文中ヨリ其後之書類写	文化9年申 6月	1812	綴	1	郡 中 役 方	
22008	元文中ヨリ其後之書類写 大年寄源左衛門控	安永9年4 月14日	1778	綴	1	郡 中 役 方	
22009	大年寄古来書出し番附控見合当 分入用帳	安政2卯1 0月吉日	1855	綴	1	郡 中 役 方	
22010	(御祢美に関する覚)	弘化4年5 月～明治 元年12月 8	1847 -186 8	綴	1	郡 中 役 方	
22011	今市町伝三郎万石簾類拵度二付 願面写	文久元年 西7月	1861	綴	1	郡 中 役 方	
22012	宇屋忠兵衛代々御目見義御奉書 演説書写し灘方諸問屋願二付	嘉永2年8 月	1849	綴	1	郡 中 役 方	
22013	村宇屋忠兵衛ヨリ万問屋并塩 間屋被仰付候由三付差障演説書	万延元申7 月	1860	綴	1	郡 中 役 方	
22014	明和元年申六月郡役人大年寄中 ヨリ御表社頭ヨリ調達指港杵築市 中難渋いたし候ニ付御公役半減 二被仰付度願并御聞届御紙上共	慶応4辰9 月4日	1868	綴	1	郡 中 役 方	
22015	午納神門郡灘山中御米売捌目録 帳	弘化4年未 8月	1847	綴	1	郡 中 役 方	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
22016	灘山中御用米取扱之儀ニ付与頭 四郎藏親宗十郎ヨリ取引願出下 郡良三郎内々致取扱候ニ付演説 書差出し御勝手方御尋ニ付書附 差出一條	文政6年未 11月	1823	綴	1	郡中役 方	
22017	奉願口上之覚	天明7丁未 6月	1787	綴	1	郡中役 方	
22018	十郡寄合伺書頭書御指令共	明治6年6 月1日	1873	綴	1	郡中役 方	
22019	大年寄差上候覚	寛保2壬戌 年12月2 日	1742	綴	1	郡中役 方	
22020	子三月ヨリ石列方詰合百貫目之 分	3月21日		綴	1	郡中役 方	
22021	修理免村忠左衛門与和助懸合書 付写			綴	1	郡中役 方	
22022	安来町ニおゐて木佐徳三郎出棚 諸書附写	正月29日		綴	1	郡中役 方	
22023	奉願上演説之覚	天保5年午 11月	1834	綴	1	郡中役 方	
22024	灘山中御米懸リ合一件書類写	安政6未1 1月	1859	綴	2	郡中役 方	
22025	官員録	明治20年 1月4日	1887	袋	1	郡中役 方	
22026	島根県官員録	明治8年7 月	1875	書冊	1	郡中役 方	
22027	神西村東分巳年桁直し山負人夫 書出し帳 中作人 布野半右エ 門	明治14年 6月	1881	長帳	1	郡中役 方	
22028	神西村東分日用賄書出し帳 布 野半右衛門	明治14年	1881	長帳	1	郡中役 方	
22029	神西村東分桁直し人夫山負書出 し帳 布野半右衛門	明治15年 5月	1882	長帳	1	郡中役 方	
22030	神西・東分道路改修ニ付実地調 野帳	明治18年 4月	1885	横半	1	郡中役 方	
22031	各郡々長郡役所其他一覽表			紙	1	郡中役 方	
22032	明治十二年乙卯一月改正島根県 下郡長	明治12年 力	1879	紙	1	郡中役 方	
22033	中出蔵為替方諸書付書状帳	文久3年1 月	1863	書冊	1	郡中役 方	
22034	午年頭廻勤帳 大年寄太郎右衛 門・大年寄善兵衛	弘化3	1846	横半	1	郡中役 方	
22035	卯夏暑中御見舞廻勤扣 藤堅	安政2年6 月13日	1855	横半	1	郡中役 方	
22036	酉歳末松江廻勤帳 藤間代	文久元年1 2月	1861	横半	1	郡中役 方	
22037	酉年十一月廿四日出府之節勤帳 藤堅	文久元年1 月24日	1861	横半	1	郡中役 方	
22038	酉九月松府萬扣 藤堅	文久元年9 月22日	1861	横半	1	郡中役 方	
22039	01 酉七月松府廻勤扣 藤間	文久元年7 月20日	1861	横半	1	郡中役 方	
22039	02 酉七月廿日出府之節勤帖	文久元年7 月20日	1861	横半	1	郡中役 方	
22040	酉暑中見舞帳 才賀町・藤間	文久元	1861	横半	1	郡中役 方	
22041	酉暑中勤扣并 藤堅	文久元年6 月	1861	横半	1	郡中役 方	
22042	酉年三月松府廻勤扣 藤間	万延2年3 月	1861	横半	1	郡中役 方	
22043	酉五月勇蔵出府之節扣	文久元年5 月	1861	横半	1	郡中役 方	
22044	大年寄御役蒙仰 御社中・郡役 人 廻勤帳			長帳	1	郡中役 方	
22045	未四月出府進物扣 龍丈受	明治4年4 月23日	1871	横半	1	郡中役 方	
22046	松江年頭扣 藤間源左衛門・二 年目大村覚三郎	安政6年	1859	横半	1	郡中役 方	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
22047	巳年松江勤差引物留 式番	弘化2年	1845	横半	1	郡中役	
22048	卯年始廻禮帖 初番大年寄権之助・大年寄勇蔵	慶応3年1月	1867	横半	1	郡中役	
22049	花菱御紋御被下被為仰付御免候二付進物廻勤帳	元治2年3月	1865	横半	1	郡中役	
22050	寅年始廻禮帖 初番大年寄源左衛門・大年寄権之助	慶応2年正月	1866	横半	1	郡中役	
22051	代々津田御目見被為仰候節到来帳 藤間源左衛門	安政3年11月26日	1856	長帳	1	郡中役	
22052	天明四甲辰三月儀兵衛江大年寄辰被仰付候廻勤扣并宝曆十庚辰被仰付御決上并御社中共廻勤扣源左衛門扣	安政3年6月16日	1856	長帳	1	郡中役	
22053	丑松府萬飛急 藤堅	嘉永6年正月吉日	1853	横半		郡中役	
22054	金錢預金帳 乙(朱) 大村政二郎・藤間穂左衛門	明治12年10月	1879	横半	1	郡中役	
22055	金錢上納帳 乙(朱) 大村政二郎・藤間穂左衛門	明治12年10月	1879	横半	1	郡中役	
22056	島根県廻勤帳 藤間穂左衛門	明治5年8月28日	1872	横半	1	郡中役	
22057	01 (差引証文)			切紙	1	郡中役	
22057	02 元受取覚(亥正月年頭出府之節又蔵分)	2月23日		切紙 継紙	1	郡中役	
22058	御出郷二付藤間家正太郎方誌弘大辻目録 此分郡江仕出し扣	享和3年10月6日	1803	長帳	1	郡中役	
22059	子三月津田御目見之節諸事扣帳	文久4年	1864	長帳	1	郡中役	
22060	大年寄被仰付候二付勤門帳	天明4年3月23日	1784	長帳	1	郡中役	
22061	文化七年松江江出府年頃勤帳 并郡方	文化7年	1810	長帳	1	郡中役	
22062	文化十一戌年松府年頃勤帳 外郡勤	文化11年	1814	長帳	1	郡中役	
22063	御用宿一件二付書拔書類写 藤間源左衛門	文久2年4月	1862	長帳	1	郡中役	
22064	御軍事方御用聞被仰付候二付廻勤帳 藤間源左衛門	文久元年7月	1861	長帳	1	郡中役	
22065	御家中年始廻礼帳 藤間太郎左衛門藤元	安政3年正月	1856	長帳	1	郡中役	
22066	御家中歳始廻礼帳 藤間源左衛門持堅	安政4年正月	1857	長帳	1	郡中役	
22067	御社参御宿割帳	安政7年2月	1860	長帳	1	郡中役	
22068	嘉永七年寅十一月地震二付倒家別書出帳 杵築六ヶ村	嘉永7年	1854	長帳	1	郡中役	
22069	大年寄御役儀仰松江廻勤帳 大年寄勇蔵藤登	慶応2年10月11日	1866	長帳	1	郡中役	
22070	小算用格被仰付候節廻勤帳 藤間寛左衛門	慶応3年4月	1867	長帳	1	郡中役	
22071	代々帯刀被仰付廻礼帳 藤間寛左衛門藤堅	慶応4年2月9日	1868	長帳	1	郡中役	
22072	慶応四戊辰六月十郡寸誌調達共書出	慶応4年6月	1868	長帳	1	郡中役	
22073	十郡結構并寸志調達書出し 藤間寛左衛門	明治元年10月	1868	長帳	1	郡中役	
22074	明治二巳巳二月雲藩 御改正 藤間庫内	明治2年2月	1869	長帳	1	郡中役	
22075	嘉永通 四月辛亥御用留ヨリ書拔左	嘉永4年	1851	長帳	1	郡中役	
22076	巳年松江年始廻礼帳 藤間寛左衛門藤堅	明治2年	1869	長帳	1	郡中役	
22077	午十年御出府之節諸勘定帳 藤間店佐七受	明治3年	1870	長帳	1	郡中役	
22078	作州表鶴田郷御藩并播州加古川?罷出雜用書出し帳	明治3年	1870	長帳	1	郡中役	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
22079	準士族可被仰付之處御改正二付廻堅 卒席被仰付并穂左衛門被仰付持堅 勤兩条兼帳 藤間寛左衛門藤愛 ・同穂左衛門藤愛	明治3年	1870	長帳	1	郡中役 方	
22080	松江御藩御役人様方名前帳 藤間	明治3年	1870	長帳	1	郡中役 方	
22081	午松江年始廻礼帳 藤間	明治3年	1870	長帳	1	郡中役 方	
22082	未松藩年始廻礼帳 藤間実左衛門藤堅	明治4年	1871	長帳	1	郡中役 方	
22083	松江県中御役人名前附 藤間	明治4年	1871	長帳	1	郡中役 方	
22084	被称人別並御書附写	安政3年(カ)	1856	長帳	1	郡中役 方	
22085	明和四丁亥年九月御立派已後御用留写	明和4年	1767	長帳	1	郡中役 方	
22086	御役勤帳	文化6年9月16日	1809	長帳	1	郡中役 方	
22087	(役向人名書付)			長帳	1	杵築郵 便局	
箱11							
23001	(千家家叙位申渡控)	明治2年	1869	紙	4	出雲大 社	
23002	00 杵築佐田争論国造家上官君臣之論 式入			袋		出雲大 社	
23002	01 国造ヨリ上官君臣争論ニ付宝曆十二正月上官別火ヨリ寺社へ差出シ書付拔書			書冊	1	出雲大 社	
23003	杵築大社(御造営一件)	慶応元	1865	長帳	1	出雲大 社	
23004	北島国造家系図			書冊	1	出雲大 社	
23005	出雲教会規則 神道出雲教本院			書冊	1	出雲大 社	
23006	出雲大社教会結集手續書概略	明治9年[カ]	1876	紙	4	出雲大 社	
23007	(寛文十一年の修理免に関する旧記写及び、延享御造営御旧記写)	延享元年1月26日	1744	綴	1	出雲大 社	
23008	神門・出雲兩郡之内杵築神領当已宗門御改村別人高目録	明治2年巳4月朔日	1869	綴	1	出雲大 社	
23009	(祭式諸役名簿)	不明		紙	1	出雲大 社	
23010	博覧会諸入用諸払目録	明治6年6月	1873	書冊	1	出雲大 社	
23011	01 出雲大社博覧会一途	明治6年5月	1872	袋	1	出雲大 社	
23011	02 (島根県権令宛博覧会開設)御願	明治6年4月8日	1873	綴	1	出雲大 社	
23011	03 出雲大社ニ於テ博覧会一途	明治6年4月5日	1873	綴	1	出雲大 社	
23011	04 出雲大社博覧会稟告(案文)	明治6年4月	1873	綴	1	出雲大 社	
23011	05 博覧会之儀ニ付御願(杵築町幹事惣代)	明治6年4月27日	1873	綴	1	出雲大 社	
23011	06 出雲大社博覧会稟告	明治6年5月	1873	綴	1	出雲大 社	
23011	07 出雲大社ニ於テ博覧会規則仕法入費撰名万稿	明治6年春	1873	綴	1	出雲大 社	
23011	08 記	明治6年	1873	紙	1	出雲大 社	
23011	09 出雲松江博覧会稟告	明治6年9月	1873	綴	1	出雲大 社	
23011	10 出雲大社博覧会品目表第一~十二号	明治6年	1873	紙	28	出雲大 社	
23012	杵築市場越峠兩村庄屋増之儀ニ而社方より歎願并社方一手ニ而取扱来候間旧例書出し書類写	慶応4年	1868	書冊	1	出雲大 社	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
23013	元禄年中以来御書附并御紙上写し	安政5年3月	1858	書冊	1	出雲大	
23014	御社頭より調達被仰付書附写し	慶応4年8月	1868	横帳	1	出雲大	
23015	第四大区	不明		綴	1	出雲大	
23016	社中之者市中住居ニ付役目歩并 修理免村ニ而店商売差縫愁約返 答之写し	文久2年7月	1862	書冊	1	出雲大	
23017	御出附 御紙上 写 杵築	安政5年3月	1858	書冊	1	出雲大	
23018	杵築六ヶ村神人其外社中懸合之 者御尋ニ付書出控・杵築大御引上 当一会御免被仰付置候を御所 ケ御紙上写・大村屋覚両家拂不 之松一条ニ付佐革嶋両家 被仰付候御書附写し	明治2年10月	1869	書冊	1	出雲大	
23019	寅殿り合御紙上写	天保13年7月	1842	横帳	1	出雲大	
23020	宿屋商売社中より客人□□ニ而 差縫一件 郡中頭分格式席順御守里て郡役 人共より返答写し共	戊辰年	1868	横帳	1	出雲大	
23021	杵築兩國造様御上京被為在候 一途并日御碇檢校様御上京一途 共	明治2年2月	1869	書冊	1	出雲大	
23022	大社御宮中御規則之扣	明治4年正月	1871	書冊	1	出雲大	
23023	延享四年卯七月五日国主源宗衍 朝臣大社江御立願々書写	安政7年2月	1860	書冊	1	出雲大	
23024	大社御修覆ニ付火消備御書出し 并手配願書扣	文化4年3月	1807	書冊	1	出雲大	
23025	知事様御社参之節御宝物 上	明治3年8月28日	1870	書冊	1	出雲大	
23026	当分十払扣	明治14年5月11日	1881	横半	1	出雲大	
23027	大村覚三郎社中初書出し扣			横帳	1	出雲大	
23028	大社御遷坐之諸費帳	明治14年5月15日	1881	横帳	1	出雲大	
23029	北御殿御修覆中御役人中差紙類 并皆済差出し目録	文化11年	1814	袋	1	出雲大	
23030	01 官幣出雲大社御修覆一件書類入	明治12年6月	1879	袋	1	出雲大	
23030	02 御預金受書進達日延御猶予願	明治12年9月9日	1879	綴	1	出雲大	
23030	03 御願	明治12年8月11日	1879	綴	1	出雲大	
23030	04 (金錢御預受負記・定約書等写し)	明治12年5月	1879	綴	1	出雲大	
23030	05 大社御修繕中金錢取引願	明治12年4月	1879	綴	1	出雲大	
23030	06 (大村政次郎・藤間穂左衛門宛 土木課書簡)	明治13年1月	1880	封筒	1	出雲大	
23030	07 (金錢受取記等)	明治13年	1880	紙	14	出雲大	
23030	08 (領収書綴)	3月		綴	1	出雲大	
23031	延享元甲子十月七日御遷宮御手 配并御行列式大年寄六左衛門日 記抜書	文化4年8月	1807	書冊	1	出雲大	
23032	01 杵築神領諸書付入	明治5年	1872	袋	1	出雲大	
23032	02 杵築神領被官神人名前人高書出 帳	明治3庚午7月	1870	長帳	1	出雲大	
23032	03 已正月より午二月五日? 杵築神 領極難澁者江勞候頭分中通書出	明治3年2月	1870	長帳	1	出雲大	
23032	04 已正月より午二月廿日?米錢勞書 上帳	明治3年午3月	1870	長帳	1	出雲大	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
23032	05	杵築神領中諸差引帳	明治2酉巳 5月～庚午 2月	1869	長帳	1	出社 雲 大
23032	06	杵築神領人別養料當巳十二月より 午五月喰延候見込書	明治2己巳 11月15日	1869	横帳	1	出社 雲 大
23032	07	覚(雛形)			折紙	1	出社 雲 大
23032	08	万留帳	明治3庚午 3月		横半	1	出社 雲 大
23032	09	米銭仕出手形宗門増減調印物控	明治2己巳 7月		横半	1	出社 雲 大
23032	10	出府中御用留	午3月		横半	1	出社 雲 大
23032	11	御内々奉伺上頭書	8月5日		長帳	1	出社 雲 大
23032	12	御用日記	明治2己3 月		横半	1	出社 雲 大
23033	01	大社御修覆御用聞被仰付候節御 礼之勤帳并無為濟候盃悦之勤帳 之外調物代目録松帳其々	文化3年	1806	袋	1	出社 雲 大
23033	02	御修覆二付御褒美として御銀式 枚・階具合覚被為仰付候節御礼 勤	文化6年10 月6日	1809	長帳	1	出社 雲 大
23033	03	御褒美被仰下候礼勤之節買物目 六(録)、大年寄役被仰下候節同 断、已暮卒勤之節目六共二数々	巳10月		封書	1	出社 雲 大
23033	04	買物代受取書	7月		封書	1	出社 雲 大
23033	05	御用聞被仰付候節進物仕候礼			紙	17 一括	出社 雲 大
23033	06	(役人名覚)			紙	1	出社 雲 大
23033	07	(進物覚カ)			紙	1	出社 雲 大
23033	08	(買物覚カ)			綴	1	出社 雲 大
23033	09	皆出来杯悦勤	文化7年9 月10日	1810	長帳	1	出社 雲 大
23034		社格昇進之義二付請願	明治24年	1891	罫紙	1	出社 雲 大
23035	01	御作事方江差出し証入扣并仕出 し	文化3年8 月8日	1806	袋	1	出社 雲 大
23035	02	神門郡大塚村田畑仕出し	文化3年	1806	書冊	1	出社 雲 大
23035	03	大塚村松寄下村田畑仕出し帳	文化3年	1806	書冊	1	出社 雲 大
23035	04	(大社御作事方御用聞被仰付一 件)	文化3年	1806	紙	1	出社 雲 大
23035	05	(田質入証文之事ほか)	文化3年	1806	紙	3	出社 雲 大
23035	06	(家屋敷質入証文雛形)			紙	1	出社 雲 大
23035	07	(藤間工太郎宛山田忠四郎書状)	申正月7日		紙・ 紙包	各 1	出社 雲 大
23035	08	(藤間屋源左右衛門宛高見栄蔵 ・岡野平太外三名書状)	2月4日		紙・ 紙包	各 1	出社 雲 大
23035	09	(田畑畝数書上覚)			紙	1	出社 雲 大
23036		(権右中弁長順より頭弁への杵築 大社祈願下知に関する上書)	11月23日		紙	1	出社 雲 大
23037		快中心覚	明治12年 9月	1879	小帳	1	出社 雲 大
23038		(払高元利書付)			横帳	2	出社 雲 大
23039		安政度社方ヨリ調達被申付割合			横帳	1	出社 雲 大
23040		粟津稻生神社遷宮金品寄附名簿	大正12年 9月	1923	書冊	1	出社 雲 大

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
23041	永代御祈所録	安政6年4月	1859	書冊	1	出社 雲 大	
23042	諸事心得書抜并御両家様江書替手扣	弘化2年5月	1845	書冊	1	出社 雲 大	
23043	北嶋社役人ヨリ神口官江差出扣	巳4月1日		書冊	1	出社 雲 大	
23044	大社造営ニ付寄進帳	慶応2年3月	1866	書冊	1	出社 雲 大	
23045	御造営日記	慶応3年9月13日	1867	書冊	1	出社 雲 大	
23046	文化御造営写	文化7	1810	書冊	1	出社 雲 大	
23047	大社御造営留	慶応3年8月	1867	書冊	1	出社 雲 大	
23048	文化御造営一途	安政4年6月	1857	書冊	1	出社 雲 大	
箱12							
23049	玄光院様大鳥井道普請日記	享保16年	1731	書冊	1	出社 雲 大	
23050	大社御修覆中米銀錢預戻リ其外豎氏の書願	文化3寅~7午年		袋綴封書	13	出社 雲 大	
23051	神道秘伝集			書冊	1	出社 雲 大	
23052	御造営御用留	文化3年4月	1806	書冊	1	出社 雲 大	
23053	界紙			袋	1	出社 雲 大	
23054	(払高元利書付)			横半	1	出社 雲 大	
23055	杵築下御番所詰長谷川周蔵船方口錢を取騒動一件			紙	1	出社 雲 大	
23056	[杵築神領村々ヨリ杵築ニ至諸入用]神領割御紙上写扣済			紙	1	出社 雲 大	
23057	(小西仲衛へ貸付)借用申錢之事	嘉永6	1853	紙	1	出社 雲 大	
23058	盲人居扶持米願控扣	巳12月		紙	9	出社 雲 大	
23059	[杵築神領諸入用之儀ニ付一件]	不明		紙	1	出社 雲 大	
23060	[宇龍浦新船尾和十郎対愁訴返答書一件]	不明		紙	1	出社 雲 大	
23061	(売女呼入ニ付)宿屋取締合	不明(明治)		紙	1	出社 雲 大	塩浜
23062	[御神領杵築浦ニ塩浜之儀ニ付]申渡覚	午2月		紙	1	出社 雲 大	塩浜
23063	塩浜之儀ニ付社方へ添状			紙	1	出社 雲 大	
23064	分社へ差出し扣(覚)	明治2	1869	紙	1	出社 雲 大	
23065	宇龍浦新船尾和十郎対愁訴返答書	不明		紙	1	出社 雲 大	
23066	(山境争論ニ付)奉歎願演説之覚	明治2	1869	紙	1	出社 雲 大	
23067	(杵築貧院御開き建言ニ付覚)	巳12月(明治)	1869	紙	1	出社 雲 大	
23068	神領理補之伺			紙	1	出社 雲 大	
23069	[杵築鉢屋方構之内へ?仕入用一件]			紙	1	出社 雲 大	
23070	七月八日社方へ差出候扣(覚)	不明		長帳	1	出社 雲 大	
23071	01 01 修理免村栄太郎米買入候一件民政局ヨリ御達写	不明		紙	3	出社 雲 大	
23071	01 02 巳十一月ヨリ午五月之養米取纏三石見込届書置書類	11月1日		紙	1		
23071	01 03 (米買入錢各村上納)覚			紙	1		

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
23071	02	明治三年三月神領極難渋ものへ御救米嘆願書	明治3	1870	紙	1	出社 雲 大
23071	03	杵築神領極難者養料仕向書出し	2月		紙	1	出社 雲 大
23071	04	仮宮漁師共江御貸米割合	不明		紙	1	出社 雲 大
23071	05	辰(納)修理免村御下り札(ほか4)	明治元	1869	紙	5	出社 雲 大
23071	06	両社中支配下役人遣候節書出			紙	1	出社 雲 大
23072		杵築乱妨一件ニ付松江入用惣高他	不明		紙	5	出社 雲 大
23073		[売女呼宿六七拾軒辻免札一件]	午3月	1870	紙	1	出社 雲 大
23074		(人別難渋之折柄養米取引ニ付)至急御用早々順達			紙	1	出社 雲 大
23075		[杵築九カ村宗門御改一条ニ付諸入用一件]			紙	1	出社 雲 大
23076		民政局へ差出候写[八十八才以上之者御扶持米一件]			紙	1	出社 雲 大
23077		[神領諸入用取替錢一件]	明治2	1869	紙	3	出社 雲 大
23078		(人別致動揺ニ付)乍恐奉歎願候事	明治2		仮綴	1	出社 雲 大
23079		[船方共ヨリ口錢を取、騒動相成一件]民政局			紙	1	出社 雲 大
23080		[日御碕領潟間藻苅かなき漁一件]	明治4		紙	1	出社 雲 大
23081		[村役人仕合人撰規則写し]ほか	巳年		紙	4	出社 雲 大
23082		[上庄原村神主と杵築大丸屋差纏一件]			紙	5	出社 雲 大
23083		民政局届出之控	2月29日		紙	1	出社 雲 大
23084		杵築極貧之もの追々救米被下候御紙ニ写	午4月15日		紙	1	出社 雲 大
23085		午正月神領難渋者届出控	午正月		紙	1	出社 雲 大
23086		(端裏)御社頭江火消道具取立願	嘉永4年11月	1851	継紙	1	出社 雲 大
23087		御造営被為叶候付任先規ニ大年寄へ増酒場之(老ヶ所)被仰付度願	慶応3年11月	1867	継紙	1	出社 雲 大
23088		(端裏)両社中神葬御触書 六ヶ村	辰6月		継紙	1	出社 雲 大
23089		神門郡中郷社村社定則写	辛未12月		書冊	1	出社 雲 大
23090		大社御修覆中 土木課御用金取引帳 藤間徳左衛門	明治12年1月吉日	1879	横帳	1	出社 雲 大
23091		(島根県令宛北島全孝御救助)御願	明治6年2月	1873	仮綴	1	出社 雲 大
箱13							
24001		区内事務取扱心得	不明		堅冊	1	町村
24002		道替願(職工日雇多)	明治6年6月	1873	綴	1	町村
24003		雲州大洪水破損所書附(木幡控写)	元禄15年8月	1702	堅冊	1	町村
24004		中小学区表			書冊		町村 (松江)
24005		御願[諸社寺蔵物ニテ博覧会開催願]	明治6年4月	1873	綴	1	町村
24006		[戸長免職ニ付事務引継の件]	明治7年7月13日	1874	綴	1	町村
24007		杵築区裁判所御設置ノ義ニ付歎願書	不明		綴	1	町村
24008		上陳書(杵築村ニ官庁設置ニ付)	明治12年10月15日	1879	綴	1	町村
24009		建言書扣(杵築村ニ官庁設置ニ付)	明治11年7月	1878	綴	1	町村

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
24010	上陳書(杵築村ニ官庁設置ニ付)	明治12年10月22日	1879	綴	1	町村	
24011	至急歎願書四十区の扣(祭田払下ニ付)	明治6年5月	1873	綴	1	町村	
24012	諸帳簿引渡目録	明治7年7月13日	1874	綴	1	町村	
24013	教導所學則	不明		綴	1	町村	
24014	郡村割概見帳(第八大区用所)	不明		堅冊	1	町村	
24015	神門郡中惣計	明治5年	1872	綴	1	町村	表紙に「不用也」
24016	01 壬申立毛一条ニ付九月九日夜黒川自成様旅邸ニおゐて伺合且御談之趣頭書下書 戸長藤間徳左衛門	明治5年9月	1872	堅冊	1	町村	
24016	02 当申立毛一件御教諭之ヶ条頭書	明治5年9月9日	1872	堅冊	1	町村	合冊
24016	03 御恵米分配之儀伺書	明治5年9月10日	1872	堅冊	1	町村	
24016	04 貢米之儀ニ付再歎願(第八大区)	明治5年11月4日	1872	堅冊	1	町村	
24017	總代辞表	明治10年7月	1877	綴	1	町村	
24018	建院大旨	不明		堅冊	1	町村	表紙に「藤愛」の朱印
24019	第四十区情ニ及大区会所御設立之建白草稿	明治11年2月	1878	綴	1	町村	
24020	松江県官吏廻勤帳	明治5年1月	1872	横半	1	町村	
24021	出雲国神門郡杵築村民等調査ニ及民等表	明治11年3月	1878	堅冊	1	町村	
24022	御遺状(東照宮御自筆之御条目)	明治3年8月	1867	堅冊	1	町村	写
24023	博覧会諸入費請払簿	不明		堅冊	1	町村	表紙に「庶務係」
24024	民等取調ノ条件ニ付尋問	明治11年3月20日	1878	綴	1	町村	
24025	(地価取調書上)	明治16年	1883	綴	1	町村	
24026	解船免除候ノ儀ニ付上申書	明治11年7月6日	1878	綴	1	町村	
24027	芸娼妓賃席之儀ニ付旧新事情表	不明		綴	1	町村	
24028	(民等地価書上)	不明		綴	1	町村	
24029	(神官家祿下賜書上)	辛未7月		綴	1	町村	
24030	(民等設置ノ主意)	子1月21日		綴	1	町村	
24031	(道路改良ニ付通達)	明治16年1月2日	1883	綴	1	町村	
24032	第一条(郡区改正ニ付言上書)	7月9日		綴	1	町村	
24033	(民等設置ノ主意言上)	明治11年1月20日		綴	1	町村	
24034	(村方締合ニ付言上)	明治18年5月10日	1885	綴	1	町村	
24035	(学区取締ニ付書上)	明治6年6月22日	1873	綴	1	町村	
24036	記(予算総計等・40・41区戸等課当金)	明治11年6月	1878	綴	1	町村	
24037	記(引渡書類)	明治7年7月13日	1874	罫紙	1	町村	
24038	(船税ノ儀ニ付返答)	7月9日		罫紙	1	町村	
24039	(民等瓦解ノ大患ニ付通達)	明治11年4月1日	1878	罫紙	1	町村	
24040	(戌納御米代請取通)	不明		横帳	1	町村	
24041	お清杉谷屋へ引越入用書出し	不明		横帳	1	町村	
24042	(帰京布告)	明治4年8月	1871	横帳	1	町村	
24043	(区会所帳簿写)	明治11年1月12日	1877	横帳	1	町村	
24044	市制町村制詳解全	明治21年5月28日	1888	冊子	1	町村	
24045	訴答文例	不明		堅冊	1	町村	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
24046	(布告受取諸証文印紙貼用心得規則)「第二百六号」	明治6年5月	1873	綴	1	町村	
24047	[議会所設置規則]	明治6年6月22日	1873	綴	1	町村	
24048	[諸裁判所職制]「甲第八十三号」	明治10年3月9日	1877	綴	1	町村	
24049	[県会決議通達]「甲第三百号」	明治9年9月14日	1876	綴	1	町村	
24050	經差引帳	文久3年8月	1863	横半	1	町村	表紙に「勇藏帯刀御免之節」とあり
24051	[人別取調三付書状]	不明		長帳	1	町村	
24052	大東宝鑑	明治5年1月	1872	紙	1	町村	
24053	当分万控帳	嘉永3年12月	1850	横半	1	町村	
24054	海上衝突予防規則	明治7年1月	1874	竖冊	1	町村	
24055	油御通	明治11年2月	1878	横半	1	町村	
24056	権参事境二郎様御宿番諸入用書出帳	明治6年11月27~29日	1873	長帳	1	町村	
24057	寅八月養米一件三付書類	不明		綴	1	町村	
24058	大日本帝国憲法	明治25年7月3日	1892	冊子	1	町村	
24059	□(破損) 御達留	明治6年	1873	竖冊	1	町村	
24060	他国米買入万控 藤堅	嘉永3年7月	1850	横半	1	町村	
24061	万心覚帳	嘉永5年	1852	横半	1	町村	
24062	金銀請取	明治3年10月	1870	横半	1	町村	
24063	蔵敷諸差引帳	明治9年8月	1876	長帳	1	町村	
24064	丑納御米代錢通	不明		紙	1	町村	
24065	貢納瀧山中御用米代錢請取通	不明		紙	1	町村	
24066	[学校軍務詰所廃止]	明治4年10月	1871	長帳	1	町村	
24067	木幡主法之見込書出し写	明治7年4月	1874	長帳	1	町村	
24068	[米代書上]	不明		長帳	1	町村	
24069	卯六月朔日御役所にて中村只七様ヨ御渡書付写し	卯5月		長帳	1	町村	
24070	[寸志酉割等控](藤間太郎左衛門)	不明		長帳	1	町村	
24071	覚(御用米)	不明		長帳	1	町村	
24072	記(米代錢)	不明		長帳	1	町村	
24073 01	藤間穂左衛門宛森広三兵衛書状(県会ニ付)	明治10年10月		袋	1	町村	
24073 02	県会章程節目・県会章程	不明		冊子	1	町村	
24073 03	県会議案	明治10年	1877	竖冊	1	町村	
24073 04	県会不勤届(藤間穂左衛門)	明治10年9月30日	1877	紙	1	町村	
24073 05	[三兵衛より議事景況報知書状]	10月15日		紙	1	町村	
24073 06	[議長・幹事投票結果]			紙	1	町村	
24073 07	[三兵衛より第一報]	15日		紙	1	町村	
24074 01	[藤間家宛書状封筒]	不明		封筒	1		
24074 02	[会所日務ニ付協議]	不明		袋入・綴	1	町村	
24075 01	[島根県庁宛第四十一区戸長書状封筒]	明治9年5月22日	1876	封筒	1		
24075 02	[清酒醸造税受取証]	明治9年5月22日	1876	袋入・紙	2	町村	
24076 01	旧区会所・旧学校敷地差引云々一途	明治22年	1889	袋	1	町村	
24076 02	旧区会所計算書	明治22年	1889	袋入			
24076 03	明治五年後旧務差引合書類数通入(藤間穂右衛門)	不明	1889	袋入			

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
24077 01	諸見取物			袋		町村	
24077 02	物産表書出シ	明治6年	1873	綴	1	町村	77-01~ 04一括
24077 03	貢米引合	不明		綴	1	町村	77-01~ 04一括
24077 04	飛脚賃算法	不明		綴	1	町村	77-01~ 04一括
24077 05	神門郡杵築村人員就学不就学分別表	明治7年2月	1874	紙	1	町村	77-01~ 04一括
24077 06	[第40区山札米上納仕来ニ付県権令宛報告控]	明治6年4月	1873	綴	1	町村	
24077 07	[第41区山手役等上納仕来ニ付県権令宛報告控]	明治6年4月	1873	綴	1	町村	
24078	[就学表雛形]	明治7年4月29日	1874	綴	1	町村	
24079	大土地中両村水夫山札米上納歎願	万延2年2月	1861	継	1	町村	
24080	市場村与親人別ヨリ願書 大和屋分	天明7年6月	1787	継	1	町村	
24081 01	郡中聯合會議一途書類入	明治12年9月15~24日	1879	袋	1	町村	
24081 02	聯合會議長以下旅費日当書記俸給定則			綴	1	町村	
24081 03	「十二年郡中聯合会」(朱筆)議案			綴	1	町村	
24081 04	議案			綴	1	町村	
24082 01	[藤間穂左衛門宛正副戸長書状封筒]			封筒	1		
24082 02	年賦返納金ニ付再歎願	明治5	1872	綴	1	町村	
24082 03	年賦金利引一時上納歎願	明治7	1874	綴	1	町村	
24083	杵築御口藻苧一件ニ付示合書	乙巳1月24日		紙	2	町村	
24084	[養米手当ニ付伺書]	8月6日		紙	1	町村	
24085	[杵築村逼迫ニ付伺書]	不明		綴	1	町村	
24086 01	[杵築村逼迫ニ付養米取扱之義伺書]	寅8月		継	1	町村	
24086 02	[杵築村逼迫ニ付養米取扱之義伺書]	寅8月		継	1	町村	
24087	[第四十区に大区署設置の件嘆願草稿]	明治10年代		綴	1	町村	紐ナシ, 紙2
24088	[大社両村難渋ニ付四か条嘆願の件 大年寄取次]	嘉永5年12月	1852	切紙 継	1	町村	
24089	御断申上一札之事	元禄12年	1699	横帳	1	町村	
24090	覚(米貸付)	寛延3年10月	1750	継紙	1	町村	
24091	覚(年貢一件)	宝曆7年5月	1757	継紙	1	町村	
24092	楫屋早万屋ヨリ宍道之万屋へ懸合候書面写し	3月		切紙 継	1	町村	
24093	稀簽丸			紙	1	町村	
24094	覚(鳥犀図一具一件)			紙	1	町村	
24095	(出金控)			横半	1	町村	
24096 01	(他国米値段上リニ相成候ニ付書状)	8月28日		切紙 継	1	町村	下郡・与 頭より大 年寄宛
24096 02	(他国米木次町買入ニ付書状)	8月25日		切紙 継	1	町村	下郡・与 頭より大 年寄宛
24096 03	(両替の件ニ付書状)			切紙 継	1	町村	下郡・与 頭より大 年寄宛
24096 04	(白枝屋理一件等ニ付社中・御伺状)	8月26日		切紙 継	1	町村	下郡・与 頭より大 年寄宛
24096 05	(他国米内々買入たき儀ニ付書状)	8月17日		切紙 継	1	町村	下郡・与 頭より大 年寄宛

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
24096 06	(他国米買入の件ニ付書状)	8月20日		切紙 継	3	町村	下郡・与 頭より大 年寄宛
24096 07	(他国米買入、養米の儀ニ付書状)	8月11日		切紙 継	2	町村	下郡・与 頭より大 年寄宛
24096 08	(石塚村外人別養米差問ニ付、他国米買入候内より御渡被下度儀ニ付書状)	8月17日		切紙 継	1	町村	下郡・与 頭より大 年寄宛
24096 09	(他国米御買入之内御渡方の件ニ付書状)	8月18日		切紙 継	1	町村	下郡・与 頭より大 年寄宛
24097 01	(杵築北村戸長藤井富三郎より藤間源左衛門宛)			封筒	1	町村	
24097 02 01	(出雲大社会計課より藤間汲三郎宛)			封筒	1	町村	
24097 02 02	(大社御祭礼の節賑料備金旧戸長より引継金受領証文)	明治19年2月11日	1876	罫紙	1	町村	
24097 02 03	(賑料引継の件ニ付書状)	明治19年1月24日	1876	罫紙	1	町村	
24097 02 04	(惣米賑料備錢御払出の件ニ付書状)	明治19年2月2日	1876	罫紙	1	町村	
24097 02 05	(杵築賑料の件ニ付書状)	明治19年2月1日	1876	罫紙	1	町村	
24097 02 06	(杵築賑料の件ニ付書状)	明治19年2月2日	1876	罫紙	1	町村	
24097 02 07	(杵築賑料の件ニ付書状)	明治19年1月29日	1876	罫紙	1	町村	
24097 02 08	(杵築賑料引継の件ニ付書状)	明治19年2月10日	1876	袋・罫紙	6	町村	
24097 02 09	(賑料の件ニ付書状案)	2月10日		罫紙	1	町村	
24097 02 10	(杵築賑料楯錢之儀ニ付御尋申書状)	明治19年2月2日	1876	罫紙	1	町村	
24098	明和八辛卯歳宗門請改	4月6日		切紙	1	町村	
24099	明和八辛卯歳宗門改	4月6日		切紙	1	町村	
24100	杵築六ヶ村人別江米値段拵ニ式百文引下ケ勞遣し候ニ付御供ニ參候もの(書上)			長帳	1	町村	
24101	御番士武内久右衛門様寸志錢人別扣	未6月		長帳	1	町村	
24102	嘉永四亥六月神門郡中田畑畝反出来米五穀并山海之諸品中年之見込を以養料積書且同三年養料見込積書出し扣	明治2年己巳11月	1869	長帳	1	町村	
24103	嘉永五壬子年鶴峠村藤間屋与一右衛門江御米貸渡候節致不埒候ニ付郡役人ヨリ伺書并手前ヨリ之演説写一条	安政4丁巳5月	1857	横半	1	町村	
24104 01	御用状并御紙状入	1月24日		袋	1	町村	
24104 02	奉願口上之覚	1月		切紙 継	1	町村	
24104 03	(人別代金支払)覚			切紙	1	町村	
24104 04	(杵築年寄代りの件ニ付書状)	7月28日		切紙	1	町村	
24104 05	(酒造稼の件ニ付奉願御事雛形)			切紙 継	1	町村	
24104 06	(銀札御入用の件ニ付書状)	11月28日		切紙 継	1	町村	
24104 07	(操錢御国中持運候綴り合之儀ニ付書状)	丑12月16日		切紙 継	1	町村	
24104 08	(杵築藤間屋穂左衛門近来不勝手ニ相成ニ付書状)	3月21日		切紙 継	1	町村	
24104 09 01	(丑二月十五日元受)	丑2月15日		長帳・切紙	1	町村	
24104 09 02	(杵築・御崎など海境尋ね状)				1	町村	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
24104	09 03 (杵築鵜峠村中木挽為助相果倅安五郎中木挽御免札願差出候ニ付書状)	10月10日		切紙	1	町村	
24104	10 (当雑用不綴り合一件ニ付賞状)	3月28日		切紙	1	町村	
24104	11 (市場村伴兵衛宛赤塚村年寄役申付候)覚	戊2月8日		切紙	1	町村	
24104	12 (断簡)			紙	1	町村	
24104	13 (杵築町での魚売買における魚問屋の関与に付尋ね状)	7月3日		切紙	1	町村	
24104	14 (杵築御番人粟田氏入代り年ニ付何卒詰儀ニ被仰付度申上書状下書)	5月3日		切紙	1	町村	
24104	15 (他国相撲取共杵築大社にて相撲被申度儀ニ付伺状)	3日		切紙	1	町村	
24104	16 年寄藤兵衛御伝書御さし紙入			包紙	1	町村	包紙のみ
24104	17 (黒田与申所者御崎之土地ニ候儀と御尋被遊候件ニ付御答)			切紙	1	町村	
24104	18 (越前国三国湊直乗船頭他長州下ノ関出帆後風波続き杵築赤塚村瀧江船寄候件ニ付書状)			切紙	1	町村	
24104	19 (諸品差し出し候)覚	子10月		切紙	1	町村	
24104	20 01 (杵築仮宮中村漁師共願書差出の件ニ付取次書状)	8月		切紙	1	町村	
24104	20 02 (仮宮中村漁師隠州へ出漁の時、島後島前両島共差障候趣の件ニ付願書)			切紙	1	町村	
24104	21 (日御崎内にて難船の肥前国佐賀郡大堂本津の直乗船頭ら上陸致し舟作の件ニ付書状)	4月20日		切紙	1	町村	
24104	22 (赤塚村年寄伴兵衛杯頼むにより役儀差免候書付)	丑2月3日		切紙	1	町村	
24104	23 (市場村年寄藤兵衛中村年寄役兼勤申付候)覚	丑1月23日		切紙	1	町村	
24105	旧区会一件云々見合書類	明治11年	1878	長帳	7	町村	袋入
24106	杵築鵜峠村加藤屋小四郎事加藤六郎大夫并同人倅口之助家内共、社中江宗門引越之儀及差違候節始終之書類写	文化8年	1811	書冊	1	町村	
24107	(役儀申付状写綴)	宝曆10~天明4年	1760-84	綴	1	町村	
24108	杵築藤間屋正太郎ヨリ居家細備家ニ仕度旨、先達而願書差出候ニ付書状	亥6月		綴	1	町村	
24109	潟カ間ニおゐて藻外旧年ニ御復被下候様、灘四ヶ村ヨリ嘆願書扣	明治2巳4月	1869	綴	1	町村	
24110	日御崎中山櫓畑取引圓右衛門ヨリ願出し、辰巳屋忠左衛門焼耐座割一件扣	安政5年午1月	1858	綴	1	町村	
24111	日御崎領分江山入薪樵御差留ニ付演説書控			綴	1	町村	
24112	大年寄御役断書下郡一名当テ之分書出し(手扣)	明和元年6月~嘉永5年6月	1764-1852	綴	1	町村	
24113	文政三辰九月神門郡稗原村市五郎与申者石塚村高瀬川ニ而溺死仕候ニ付親類并懸り合之者吟味口上書	辰9月11日		綴	1	町村	
24114	御用留書抜 灘問屋一件之分 藤間源左衛門扣	安政5年	1858	綴	1	町村	
24115	(船津にて商売等の儀に付書状)			綴	1	町村	
24116	此度今市町ヨリ新類魚問屋願出候旨杵築ニおゐて差障ハ無之哉之御尋之趣奉畏候、頭書を以左ニ申上候	安政5年7月	1858	綴	1	町村	
24117	杵築町年寄共御役料願書扣	万延元年2月	1860	綴	1	町村	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
箱14							
24118	(杵築六ヶ村役中日誌)	天明6年～ 文化13年	1786 -181 6	綴	1	町村	
24119	(杵築六ヶ村諸費多勘定向等難渋 仕候ニ付御伺申上候書状)	午6月		綴	1	町村	
24120	西納御米廿五表証文 外置浦	嘉永3年11 月	1850	紙	1	町村	
24121	地方提要	明治41～ 昭和19年	1908	書冊	1	町村	
24122	島根県官員名鑑録	明治5年6 月	1872	長帳	1	町村	
24123	組長人員并組別帳	明治6年3 月3日	1873	書冊	1	町村	
24124	出雲国郡々區別帳	明治4年11 月	1871	書冊	1	町村	
24125	新聞誌見開場開度願	癸酉1月	1873	書冊	1	町村	
24126	一號 島根県小学教則	不明		書冊	1	町村	
24127	教導所学則女学則 写	明治5年正 月	1872	書冊	1	町村	
24128	学校入費教師人撰	明治6年4 月	1873	書冊	1	町村	
24129	第八大区神門郡小学校村校規則 伺書	明治5年11 月	1872	書冊	1	町村	
24130	第八大区神門郡学校村校入費見 込	明治5年11 月	1872	書冊	1	町村	
24131	小学事務取扱条則	明治6年8 月13日	1873	書冊	1	町村	
24132	学区取締一途	不明		書冊	1	町村	
24133	学校一条券集米届	丙3月30日		書冊	1	町村	
24134	明治六年九月二十日仁多郡宿二 テ十郡寄合同二十一日集議所御 布達物同二十二日二十三日第一 区小学校ニテ十郡寄諸願伺書写 (小学校事務取扱条目)	明治6年9 月20日	1873	書冊	1	町村	
24135	学区取締心得中	不明		書冊	1	町村	
24136	(島根県内中学区書上帳)	不明		書冊	1	町村	
24137	乃木善光寺図面	不明		紙	1	町村	
24138	(島根県学校係宛神門郡小学校 関係提出書類)	3月20日		書冊	1	町村	
24139	文化十一戌七月五万依割被仰付 候人別面割写	安政2年7 月20日	1855	横帳	1	町村	
24140	前欠・断簡			横帳	1	町村	
箱15							
25001	御巡檢一卷御用留	天明8		書冊		巡見使・ 鎮撫使	
25002	御巡檢衆御通知之節手配			書冊		巡見使・ 鎮撫使	
25003	当分通 六十両	辰2月(慶 応4年力)	1868 力	横帳	1	巡見使・ 鎮撫使	
25004	鎮撫使様御宿諸扣	慶応4年2 月	1868	横帳	1	巡見使・ 鎮撫使	
25005	当分通 三番 鎮撫使様御用	辰3月(慶 応4年力)	1868 力	横帳	1	巡見使・ 鎮撫使	
25006	当分通 二番 鎮撫使様御用	辰3月(慶 応4年力)	1868 力	横帳	1	巡見使・ 鎮撫使	
25007	当分御通 御作御用	辰3月(慶 応4年力)	1868 力	横帳	1	巡見使・ 鎮撫使	
25008	当分通 七十両	辰3月(慶 応4年力)	1868 力	横帳	1	巡見使・ 鎮撫使	
25009	当分通 鎮撫使様御用 一番	辰2月(慶 応4年力)	1868 力	横帳	1	巡見使・ 鎮撫使	
25010	当分通 鎮撫使様御用 四番	辰3月(慶 応4年力)	1868 力	横帳	1	巡見使・ 鎮撫使	
25011	当分通 鎮撫使様御用 五番	辰3月(慶 応4年力)	1868 力	横帳	1	巡見使・ 鎮撫使	
25012	鎮撫使西園寺殿御社参御用留	慶応4年2	1868	横帳	1	巡見使・	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
25013	鎮撫使様西園寺様御本営諸入用書出・金入用郡江仕出し写	慶応4年3月	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25014	御宿割帳			長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25015	鎮撫使様御本営并ニ御作事入用払帳	慶応4年3月	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	九月取郡詰、約
25016	鎮撫使様書類御用分ニ候へ共後日見合もの			長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25017	鎮撫使様西園寺様御本営作事諸入用書出	慶応4年3月	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25018	神門郡杵築市場越崎修理免三ヶ村売女奉公人所々ニ而御用相納諸入用目録				1	巡見使・鎮撫使	
25019	鎮撫使様御用御買物書出し	辰3月朔日ヨリ(慶応4年力)	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25020	鎮撫使様西園寺様御本営諸入用書出	慶応4年3月	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25021	鎮撫使様西園寺殿御本営作事書出し扣右之内二月廿六日ヨリ三月四日迄之間別帳ニ記し是除置	慶応4年2月吉日ヨリ3月27日迄	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25022	鎮撫使御本営ニ付諸目録ノ高			紙	1	巡見使・鎮撫使	
25023	鎮撫使様西園寺様御本営作事諸入用書出	慶応4年3月	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25024	鎮撫御勅使西園寺三位中將殿御茶本営被為仰付候節御買札并御代等被仰付後御礼廻勤帳	慶応4年3月3日昼泊	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25025	鎮撫使様西園寺様御本営作事諸入用書出	慶応4年3月	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25026	鎮撫使様西園寺様御本営作事諸入用書出	慶応4年3月	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25027	諸職人署帳	慶応4年3月	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25028	鎮撫使様西園寺様御本営作事諸入用書出	慶応4年3月	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25029	鎮撫使様西園寺様御本営諸入用書出	慶応4年3月	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25030	三ノ丸分鎮撫使御下向ニ付取扱手続帳写	慶応4年力	1868	書冊	1	巡見使・鎮撫使	
25031	勅使西園寺殿御入部記録	慶応4年力	1868	書冊	1	巡見使・鎮撫使	
25032	勅使西園寺殿御入部大社御参詣諸記録	慶応4年力	1868	書冊	1	巡見使・鎮撫使	
25033	鎮撫使様一途書類入	慶応4年	1868	袋	19	巡見使・鎮撫使	
25034	01 鎮撫使西園寺殿御下向之砌諸取扱書附入	慶応4年力	1868	袋		巡見使・鎮撫使	袋中一括×3
25034	02 01 人名書付	慶応4年力	1868	紙	1	巡見使・鎮撫使	12-31-1~4一括
25034	02 02 御茶道人数書出	慶応4年力	1868	紙	1	巡見使・鎮撫使	
25034	02 03 御社廻謹先	慶応4年力	1868	紙	1	巡見使・鎮撫使	
25034	02 04 (役方人名書付)	慶応4年力	1868	長帳	1	巡見使・鎮撫使	
25034	03 諸御夜具御用相成候分(此分御遣方ニ相成候分)	慶応4年力	1868	紙	1	巡見使・鎮撫使	
25034	04 諸夜具御用へ不相成候分(此分出来口ニ而御用候ニハ不相成分)	慶応4年力	1868	紙	1	巡見使・鎮撫使	
25034	05 入用金都合ニ付書状	慶応4年力	1868	紙	1	巡見使・鎮撫使	
25034	06 高山作右衛門、石橋喜右衛門宛書状			紙	1	巡見使・鎮撫使	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
25034	07 渡部文六宛 請書の儀ニ付書状	辰3月		紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25034	08 藤間稲左衛門宛 善左衛門・作 右衛門書状 鎮撫使一件	4月11日		切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25034	09 木幡久衛門他7名宛 瀧波与右 衛門書状 鎮撫使下向に付					巡見使・ 鎮撫使	
25035	(鹿兒島照国大明神国家興隆の 御祈誓あらせられ候との勅 写)	庚午12月 (明治3カ)	1870	紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25036	(官軍の山内・寺領における僭徳 禁止命令の受書、他、村上源蔵 切腹の件)	慶応4年2 月25日、 2月15日	1868	紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25037	(仁和寺宮他参与任命の事、会 津藩他5藩屋敷召上残兵追放の 事、小浜4藩入京差止めの事、徳 川慶喜他26名官位剥奪の事)	慶応4年カ	1868	紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25038	(官軍よりの呼出しに付雲州より 大橋筑後宛書状)	辰2月21日	1868	紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25039	(諸道進発の官軍、大総督府帰 陣の沙汰書)	慶応4年カ	1868	紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25040	松陽新報 山陰鎮撫使 1	昭和15年 12月5日	1940	新聞	1	巡見使・ 鎮撫使	釈瓢斎の 連載記事
25041	松陽新報 山陰鎮撫使 2	昭和15年 12月6日	1940	新聞	1	巡見使・ 鎮撫使	
25042	松陽新報 山陰鎮撫使 3	昭和15年 12月7日	1940	新聞	1	巡見使・ 鎮撫使	
25043	松陽新報 山陰鎮撫使 4	昭和15年 12月8日	1940	新聞	1	巡見使・ 鎮撫使	
25044	松陽新報 山陰鎮撫使 5	昭和15年 12月9日	1940	新聞	1	巡見使・ 鎮撫使	
25045	松陽新報 山陰鎮撫使 6	昭和15年 12月10 日	1940	新聞	1	巡見使・ 鎮撫使	
25046	松陽新報 山陰鎮撫使 終	昭和15年 12月13 日	1940	新聞	1	巡見使・ 鎮撫使	
25047	01 西園寺公を偲ぶ展覧会資料			袋	1	巡見使・ 鎮撫使	
25047	02 (西園寺公を偲ぶ展覧会に關する 藤間精宛書簡)			封筒	32	巡見使・ 鎮撫使	
25047	03 西園寺公を偲ぶ展覧会出品目録 附公の年譜	昭和16年	1941	書冊	5	巡見使・ 鎮撫使	
25047	04 西園寺公を偲ぶ展覧会絵葉書			はが き	7	巡見使・ 鎮撫使	
25047	05 奉仕会の栞	昭和10年 4月3日	1935	書冊	1	巡見使・ 鎮撫使	奉仕会は 大正10年1 0月創立
25047	06 (西園寺鎮撫使御社參松江藩役 人杵築出張者他)(雑)(商品発 送控他)			紙	3	巡見使・ 鎮撫使	
25048	大阪毎日新聞 年少鎮撫使西園 寺さん(下)	昭和15年 11月30 日	1940	新聞	1	巡見使・ 鎮撫使	
25049	松陽新報	昭和8年2 月15日	1933	新聞	1	巡見使・ 鎮撫使	
25050	延享三寅四月御巡檢衆御通御書 付郡奉行中江申渡覚	延享3寅4	1746	綴	1	巡見使・ 鎮撫使	
25051	御巡檢様御用大原聞入候頭書	寛政元西6 月2日	1789	綴	1	巡見使・ 鎮撫使	
25052	御料御巡見御用手配之覚	不明		綴	1	巡見使・ 鎮撫使	
25053	有合材木入用帳	慶応4年3 月	1868	横長	1	巡見使・ 鎮撫使	
25054	鎮撫使様西園寺様御本営作事諸 入用書出 藤間寛左衛門扣	慶応4年3 月	1868	横長	1	巡見使・ 鎮撫使	
25055	鎮撫御勅使 西園寺三位中将殿 御本營被為仰付候節御買札并御 茶代等被仰付後御札廻勤帳	慶応4年3 月3日	1868	横長	1	巡見使・ 鎮撫使	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
25056	(鎮撫使通行一件)	慶応4年カ	1868	切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25057	覚(本陣別席入用につき)	正月25日	不明	切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25058	伺書写し(鎮撫使西園寺より謝罪 数ヶ条仰懸けられるにつき)	(慶応4年 カ)辰2月	1868	切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25059	藤間保左衛門宛吉村口(惣カ)一 郎書状(杵築より女郎連裁候林ハ につき)	3月23日	不明	切紙	2	巡見使・ 鎮撫使	
25060	国三郎・穂左衛門宛善左衛門・ 為右衛門書状(鎮撫使参詣一件)	(慶応4年 カ)3月1日	1868	切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25061	藤間穂左衛門宛天野泰兵衛書状	3月16日	不明	切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25062	奉伺覚(鎮撫使参詣一件)	(慶応4年 カ)辰5月	1868	切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25063	藤間寛左衛門宛山村和一郎書状 (勅使本営相勤候節何事向につ き)	(明治5年 カ)壬4月7 日	1872	切紙	2	巡見使・ 鎮撫使	
25064	覚(鎮撫使下向之砌、取扱向に つき)	(慶応4年 カ)辰4月1 6日	1868	切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25065	(別紙一通申来候件につき)	不明		切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25066	覚	不明		切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25067	(氏名一覽)	不明		切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25068	(御休泊一覽)	不明		切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
25069	上村□□□(郡之進カ)他4名宛 藤間寛左衛門書状写(鎮撫使本 営首尾よく勤め候につき)	(慶応4年 カ)3月23 日	1868	切紙	1	巡見使・ 鎮撫使	
箱17	※16は空き						
13001	御入湯諸入用帳	慶応2年丑 6月	1866	長帳	1	金 銭 出 入	
13002	(諸品算用帳)			長帳	1	金 銭 出 入	
13003	01 拝借願下書、主法立并諸事、積 方目録、志儀目録扣入穂左衛門 代	享和3亥年	1803	袋	1	金 銭 出 入	
13003	02 暮方差引目録			横半	1	金 銭 出 入	
13003	03 何角目録見合帳			横半	1	金 銭 出 入	
13003	04 受廻何角目録			横半	1	金 銭 出 入	
13003	05 三ヶ年志儀方見合帳			横半	1	金 銭 出 入	
13003	06 亥年仕儀方老年切差引見合帳			横半	1	金 銭 出 入	
13003	07 暮方演説之覚			横半	1	金 銭 出 入	
13004	(宅地畑地書出し)			長帳	1	金 銭 出 入	
13005	仕出し免			長帳	1	金 銭 出 入	
13006	牛尾入湯諸入用目録	慶応2年丙 子5月	1866	長帳	1	金 銭 出 入	
13007	亥当座帳	明治8年正 月	1875	長帳	1	金 銭 出 入	
13008	亥米諸御通[藤間宛森脇庄兵衛]	明治8年	1875	長帳	1	金 銭 出 入	「四冊之内」
13009	(差引書付)覚	5月25日～		長帳	1	金 銭 出 入	
13010	為山一件出戻	子6月14日 ～		長帳	1	金 銭 出 入	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
13011	(差引書付 控)	10月1日～		長帳	1	金入 銭出	
13012	(差引書付 控)	閏10月12日～		長帳	1	金入 銭出	
13013	(差引書付)	明治7年6月26日～		長帳	1	金入 銭出	
13014	(差引書付)	9月25日～		長帳	1	金入 銭出	
13015	(差引書付 控)	6月16日～		長帳	1	金入 銭出	
13016	(差引書付)	7月29日～		長帳	1	金入 銭出	
13017	(差引書付)	未6月23日～		長帳	1	金入 銭出	
13018	(入金書付)	子5月16日～		長帳	1	金入 銭出	
13019	当分差引見込帳 伊豫屋禮次郎	安政5年	1858	長帳	1	金入 銭出	
13020	(差引書付)	未3月15日～		長帳	1	金入 銭出	
13021	明治八年九月ヨリ同年十一月迄出入計算帳 重蔵	明治8年9月～明治8年11月	1875	長帳	1	金入 銭出	
13022	01 五月十八日旦那様御出縣勘定	5月18日		長帳	1	金入 銭出	
13022	02 (差引書付)	子年		長帳	1	金入 銭出	
13022	03 (差引書付)	戌年		長帳	1	金入 銭出	
13023	寸志上納受取書并御役所方受取書 社頭差紙受取書	不明		袋	1	金入 銭出	雑41
13024	御目録并御洛式 御差紙	宝曆5年9月23日	1755	包紙	1	金入 銭出	雑6
13025	明治十一年御通 [藤間様宛森脇庄兵衛]	明治11年	1878	長帳	1	金入 銭出	
13026	01 大勘定改座 頭節御用達左二免行	不明		長帳	1	金入 銭出	一括
13026	02 明治二巳五六月松府逗留中差引目録 藤間店龍蔵	明治2年	1869	長帳	1	金入 銭出	一括
13027	松江持出し金札請取通 弥兵衛・松江詰	慶応4年正月	1868	長帳	1	金入 銭出	
13028	(差引書付)	不明		長帳	1	金入 銭出	
13029	01 村山休ニ付候支度宿の事	不明		長帳	1	金入 銭出	
13029	02 東京より類木坂本田権八殿へ入込御屋敷改革ニ付是迄拝借金一時利引上納ニ相成入事	不明		長帳	1	金入 銭出	
13030	杵築御用宿御惠銭人別借受并養米欠雜申潰候分書 元り同六	天保15年辰12月	1844	長帳	1	金入 銭出	
13031	(領収書等綴)	不明		長帳	1	金入 銭出	
13032	申納御用米差引帳 藤間太郎 右衛門	嘉永2年5月11日	1849	横帳	1	金入 銭出	
13033	当座帳	明治19年1月	1886	長帳	1	金入 銭出	
13034	未当座帳	明治16年1月～同17年1月	1883-1884	長帳	1	金入 銭出	
13035	当座帳	明治29年1月～同30年	1896-1897	長帳	1	金入 銭出	
13036	当座帳	明治12年1月	1879	長帳	1	金入 銭出	
13037	已当座帳	明治14年1月～同15年1月	1881-1882	長帳	1	金入 銭出	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
13038	丑当座帳	明治10年1月	1879	長帳	1	金 銭 出 入	
13039	当座帳	明治25年1月 ～同26年	1892 -1893	長帳	1	金 銭 出 入	
13040	当座帳	明治31年1月 ～同32年	1898 -1899	長帳	1	金 銭 出 入	
13041	当座帳	明治41年1月	1908	長帳	1	金 銭 出 入	
13042	当座帳	明治23年1月 ～同24年	1890 -1891	長帳	1	金 銭 出 入	
13043	当座帳	明治39年1月	1906	長帳	1	金 銭 出 入	
13044	当座帳	大正5年2月 ～同7年1月	1916 -1918	長帳	1	金 銭 出 入	
13045	当座帳	大正3年2月 ～同5年1月	1914 -1916	長帳	1	金 銭 出 入	
13046	当座帳	明治13年1月	1880	長帳	1	金 銭 出 入	
13047	当座帳	明治27年1月 ～同28年	1894 -1895	長帳	1	金 銭 出 入	
13048	明治十一年度諸御シ書出ス 宗三郎 (表紙朱筆)「明治十一年ヨリ同十五年度至諸御シ」	明治11年 ～15年	1878 -1882	長帳	1	金 銭 出 入	
13049	不用物代銭残書出シ帳 又兵衛 又市	明治12年1月	1879	長帳	1	金 銭 出 入	
13050	当分出入帳ナリ 藤間 墨引きにて削除「明治貳拾年盆 払帳」あり	明治20年8月31日	1887	長帳	1	金 銭 出 入	
13051	寅旧十二月請払帳 藤間店又市	明治12年1月2月	1879	横半	1	金 銭 出 入	
13052	臨時入用書出控 藤間太郎左 衛門代	弘化3年～ 嘉永6年	1846 -1853	横半	1	金 銭 出 入	
13053	明治三十六年旧盆支払帳 藤間	明治36年9月	1903	長帳	1	金 銭 出 入	
13054	明治三十七年盆払帳 藤間	明治37年8月23日	1904	長帳	1	金 銭 出 入	
13055	明治参拾六年旧大晦日払帳 藤 間	明治37年2月15日	1904	長帳	1	金 銭 出 入	
13056	覚(郡奉行所当家勝手向主法)	文久2		巻紙		金 銭 出 入	
13057	明治三拾五年旧大晦日払帳 藤 間	明治36年1月28日	1903	長帳	1	金 銭 出 入	
13058	明治三拾七年旧歳末諸払帳 藤 間	明治38年2月3日	1905	長帳	1	金 銭 出 入	
13059	丑年盆払帳 藤間	明治22年8月9日	1889	長帳	1	金 銭 出 入	
13060	明治廿一年歳末諸払帳 藤間	明治22年1月20日	1889	長帳	1	金 銭 出 入	
13061	旧盆季支払帳 藤間	明治21年8月20日	1888	長帳	1	金 銭 出 入	
13062	貳拾年亥歳末払帳 藤間	明治21年2月11日	1888	長帳	1	金 銭 出 入	
13063	十九年暮諸払帳 藤間	明治20年1月23日	1887	長帳	1	金 銭 出 入	
13064	貳拾年盆払帳 藤間	明治20年8月29日	1887	長帳	1	金 銭 出 入	
13065	明治十八年乙酉暮払帳 藤間	明治19年2月3日	1886	長帳	1	金 銭 出 入	
13066	戊戌盆払帳 藤間	明治19年8月12日	1886	長帳	1	金 銭 出 入	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
13067	申暮大晦日諸払帳 藤間	明治18年2月14日	1885	長帳	1	金銭出	
13068	明治十八年盆諸払帳 藤間	明治18年8月21日	1885	長帳	1	金銭出	
13069	明治十六年末暮払渡帳 藤間	明治17年1月27日	1884	長帳	1	金銭出	
13070	明治十七年盆払帳 藤間	明治17年9月2日	1884	長帳	1	金銭出	
13071	午暮大晦日払渡帳 藤間	明治16年2月7日	1883	長帳	1	金銭出	
13072	癸未旧七月十三日諸払帳 藤間	明治16年8月15日	1883	長帳	1	金銭出	
13073	明治十五年壬午旧盆諸払帳	明治15年	1882	長帳	1	金銭出	
13074	十四年暮分明治十五歳午二月十七日旧大晦日諸払帳	明治14年	1881	長帳	1	金銭出	
13075	明治十三庚辰旧大晦日諸払帳 藤間店	明治13年	1880	長帳	1	金銭出	
13076	明治十四辛巳旧盆諸払帳 藤間	明治14年8月	1881	長帳	1	金銭出	
13077	明治十二卯旧七月十三日払 藤間	明治12年	1879	長帳	1	金銭出	
13078	明治十二庚辰小払帳 旧卯大晦日	明治11年大晦日	1878	長帳	1	金銭出	
13079	明治十三庚辰盆諸払帳 藤間店亦市請	明治13年	1880	長帳	1	金銭出	
箱18							
13080	上納金請取通 山根九右エ門	明治13年10月より	1880	横半	1	金銭出	
13081	萩柄上納帳 杵築藤間穂左エ門	明治13年10月より	1880	横半	1	金銭出	
13082	01 申歳末帳 藤間	明治5年11月	1872	横半	1	金銭出	合帳
13082	02 雇人書出シ帳	明治5年12月	1872	綴	1	金銭出	合帳
13083	万留控 藤堅	明治5年正月	1872	横半	1	金銭出	
13084	(家内算用書付)明治五年度	明治5~15年	1879-1882	横半	1	金銭出	
13085	当分受払帳 源左衛門	明治11年8月11日	1878	横半	1	金銭出	
13086	諸払留 源左衛門	明治11年8月	1878	横半	1	金銭出	
13087	明治十六月十一日諸払帳 藤間	明治10年6月11日	1877	横半	1	金銭出	
13088	態集帳 藤間	明治11年1月	1878	横半	1	金銭出	
13089	寅取引録 藤間	明治11年6月	1878	横半	1	金銭出	
13090	荒神様諸費	明治15年7月	1882	長帳	1	金銭出	
13091	01 亥歳末帳	明治9年1月	1876	横半	1	金銭出	合帳
13091	02 亥歳万書出シ帳 藤間	明治8年	1875	横帳	1	金銭出	合帳
13091	03 亥十二月二十九日医師書出帳	明治9年1月	1876	横半	1	金銭出	
13092	日記帳	明治19年5月	1886	横半	1	金銭出	
13093	01 酉歳末帳 藤間	明治6年12月	1873	横半	1	金銭出	合帳
13093	02 日雇書出帳 藤間	明治6年7月	1873	横帳	1	金銭出	合帳
13094	01 辰歳御通 山梅屋林蔵 [(裏面)萩原村仲作未年差引書入]			袋	1	金銭出	
13094	02 萩原稻岡下作未進書出帳 藤間店	明治3年10月~5年迄	1870-1872	横帳	1	金銭出	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考	
13094	03	午納未進取立書出し		綴	1	金 錢 出 入		
13094	04	稲岡村申納御年貢請取通[寛左衛門宛副戸長・白枝賀兵衛]	明治5	1872	綴	1	金 錢 出 入	
13094	05	(差引詰荒増二付)[藤間内・加藤又市宛萩原村支配・山根九左衛門]	10月3日		紙	1	金 錢 出 入	
13094	06	(夫兵衛引受中之残持参勘定皆済二付)[藤間御店中宛萩原村・九左衛門]	明治8年2月4日	1875	紙	1	金 錢 出 入	
13094	07	[貢米石代金請取証類綴]			綴	1	金 錢 出 入	
13094	08	明治三午納庄屋別并下作紛有差引合算用詰目録仕出し帳	明治7年戊7月		綴	1	金 錢 出 入	
13094	09	[仲作差引書付]			紙	1	金 錢 出 入	
13095		計算			罫紙	1	金 錢 出 入	合帳
13096		歳入記 [ほか「借用記」共]			罫紙、綴	1	金 錢 出 入	合帳
13097		御染物御通 [藤間様御店御中宛松井周蔵]	明治13年	1880	長帳	1	金 錢 出 入	
13098	01	修理免方御借用之内御拂出し二付人別口々受取書入	天保15年辰11月	1844	袋	1	金 錢 出 入	
13098	02 01	奥小路屋敷証文			紙	1	金 錢 出 入	
13098	02 02	借用申錢之事	天保8酉2月	1837	紙	1	金 錢 出 入	
13098	02 03	文化七年正月奥小路八十八貸屋敷証文受人川上屋幾八	文化7午正月	1810	紙	1	金 錢 出 入	
13098	03	覚	戊7月		紙	1	金 錢 出 入	
13098	04	覚(借用書)	乙巳12月20日		紙	1	金 錢 出 入	
13098	05 01	亥三月廿六日ヨリ四月三日迄御目録(旅費)	4月3日		紙	1	金 錢 出 入	
13098	05 02	寅三月御出府御目録(旅費)	3月23日		紙	1	金 錢 出 入	
13098	05 03	申六月御出府御目録(旅費)	6月17日		長帳	1	金 錢 出 入	
13098	05 04	(断簡)			紙	1	金 錢 出 入	
13098	05 05	巳三月十三日ヨリ廿日迄御目録(旅費)			紙	1	金 錢 出 入	
13098	05 06	丑十月廿三日御出府御目録(旅費)			紙	1	金 錢 出 入	
13098	05 07	申正月御出府御目録(旅費)	1月29日		紙	1	金 錢 出 入	
13098	05 08	卯正月晦日二月十一日迄目録(旅費)			長帳	1	金 錢 出 入	
13098	05 09	覚(酒肴代)	9月2日		紙	1	金 錢 出 入	
13098	05 10	覚(諸入用)	9月		紙	1	金 錢 出 入	
13098	05 11	覚(諸入用)	4月20日		紙	1	金 錢 出 入	
13098	05 12	覚(旅費)	戊4月24日		紙	1	金 錢 出 入	
13098	06	覚(修理免方出し放しに付)	甲辰大晦日	1844	紙	1	金 錢 出 入	長谷川 織屋喜
13098	07	覚(修理免方渡しに付)	天保15辰大晦日	1844	紙	1	金 錢 出 入	森二郎 藤喜衛
13098	08	覚(貸借関係)	天保15甲辰12月大晦日	1844	紙	1	金 錢 出 入	藤喜衛 屋右
13098	09	覚(修理免方成崩し渡しに付)	辰12月大晦日		紙	1	金 錢 出 入	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
13098	10	覚(修理免方成崩し渡しに付)	天保15辰 12月大晦日	1844	紙	1 金 入 銭 出	口谷屋 源六
13098	11	覚(修理免方渡しに付)	天保15辰 大晦日	1844	紙	1 金 入 銭 出	白枝屋 孫八郎
13098	12	覚(修理免方調立之儀)	辰大晦日		紙	1 金 入 銭 出	古川屋 林三郎
13098	13	覚(修理免方調達之儀)	天保15辰 大晦日	1844	紙	1 金 入 銭 出	杉谷屋 宇十郎
13098	14	覚(修理免方渡しに付)	天保15辰 12月大晦日	1844	紙	1 金 入 銭 出	森屋喜 二郎
13098	15	覚(修理免方調立之儀)	辰大晦日		紙	1 金 入 銭 出	古川屋 林三郎
13098	16	覚(修理免方へ調立之儀)	甲辰大晦日		紙	1 金 入 銭 出	和泉屋 円藤助 右衛門
13098	17	覚			紙	1 金 入 銭 出	
13098	18	明神丸吉五郎殿通状(運賃契約)	嘉永元申5 月7日	1848	紙	1 金 入 銭 出	大阪大 黒屋
13098	19	(貧民へ塩を焼かせる旨伺い)	1月26日		紙	1 金 入 銭 出	
13098	20	01 (借用金差延につき書状)	9月3日		紙	1 金 入 銭 出	
13098	20	02 (印形やりとりにつき一件写・他 藤間久兵衛宛書簡写三通)	3月20日		紙	1 金 入 銭 出	
13099	01	預り書 式通入	(明治3年 午)7月		包紙	1 金 入 銭 出	
13099	02	覚(秋印鉄百束受取のこと)[藤 間文蔵宛出雲碕屋傳七]	明治3庚午 1月11日	1870	紙	1 金 入 銭 出	出雲碕 屋伝七
13099	03	覚(秋印鉄共入百束のこと)[藤 間文蔵宛小熊屋□□□]	明治3午7 月11日	1870	紙	1 金 入 銭 出	小熊屋
13100		吉廻栄太郎ヨリ儀満晋左衛門へ 原金五百円借受候金訴訟ニ付書 類出入	明治17年1 0月30日	1884	袋	1 金 入 銭 出	紙15
13101		宝曆十庚辰九月塩口銭表壺文宛 被仰付右様三ヶ所御請願之一札 扣 年寄中六人	宝曆10年9 月	1760	紙	1 金 入 銭 出	
13102		山本仁兵衛殿米代之内貳百貫文 受取書入	戊5月13日		書簡	1 金 入 銭 出	包紙あり
13103		(村方諸払年行司差問に付銭五 拾貫文拝借覚)[藤間源左衛門 宛]	嘉永5年9 月17日	1852	紙	1 金 入 銭 出	
13104		(今市出棚売渡金受取証)	明治9年3 月27日	1876	紙	2 金 入 銭 出	
13105	01	量入以為出 豊四郎	天保9年	1838	小帳	1 金 入 銭 出	合帳
13105	02	量入以為出 豊四郎	天保10年	1839	小帳	1 金 入 銭 出	合帳
13106		(請求書)	明治8年9 月2日~9 年3月10日	1875 - 1876	紙	1 金 入 銭 出	
13107		借用仕銭之事	明治7年6 月	1774	紙	1 金 入 銭 出	
13108		作州行入用目録	7月25日		長帳	1 金 入 銭 出	
13109	01	午七月出府之覚(入用目録)	午7月25日		長帳	1 金 入 銭 出	合帳
13109	02	午八月出府之節	8月19日		長帳	1 金 入 銭 出	合帳
13110	01	(藤間穂左衛門宛森脇嘉工門封 筒)	8月25日		封筒	1 金 入 銭 出	
13110	02	記(落札代価上納覚)			紙	5 金 入 銭 出	
13110	03	(落札代価上納覚) [島根県土木課営繕係出張所印了 り]	明治12年1 月19日	1879	紙	5 金 入 銭 出	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
13110 04	(落札代価上納覚) [島根県土木課営繕係出張所印アリ]	明治14年1 月20日	1881	紙	2	金 銭 出 入	
13110 05	(落札代価上納覚) [古務落札]	5月28日		罫紙	1	金 銭 出 入	
13110 06	(落札代価上納覚カ)			紙	1	金 銭 出 入	
13110 07	(落札代価上納覚) [島根県土木課営繕係出張所印アリ]	明治14年2 月17日～5 月4日	1881	綴	3	金 銭 出 入	
13110 08	(落札代価上納覚) [土木御出張所宛]	明治12年1 1月	1879	綴	1	金 銭 出 入	
13110 09	[落札代価上納覚]	明治14年4 月18日	1881	綴	1	金 銭 出 入	
13110	未七月ヨリ松江拵出し	未7月24日		長帳	1	金 銭 出 入	
13111	(書画買取書付カ)			長帳	1	金 銭 出 入	
13112	(諸道具売捌扣カ)			長帳	1	金 銭 出 入	
13113	代銭名寄帳	明治8年2 月	1875	長帳	1	金 銭 出 入	
13114	(道具売捌扣)			長帳	1	金 銭 出 入	
13115	(道具不用分売捌銭金書出し)	明治10年1 0月27日	1877	長帳	1	金 銭 出 入	
13116	(道具不用分売捌銭金書出しカ)	明治10年1 0月27日	1877	長帳	1	金 銭 出 入	
13117	金銭出納簿 租霊社蔵元	明治29年4 月～31年3 月	1896 -189 8	書冊	1	金 銭 出 入	
13118	金銭出納簿 大社教本院附属租 霊社蔵元 藤間源左衛門	明治30年4 月～31年3 月	1897 -189 8	書冊	1	金 銭 出 入	
13119	(金銭出入帳)	8～9月		綴	1	金 銭 出 入	
13120	覚(勘定書) 長島屋源七宛 川 西源兵衛(川西屋)書状	寅2月5日		紙	1		
13121	覚(勘定書) 藤間宛川西源兵衛 (川西屋)書状	11月3日		紙	1		
14001	新御主法覚			書冊		土 地・資 産	
14002	東紙在・西神在・三郡・萩原・稲 岡村田畑質入并仕出シ帳扣入	明治4	1871	書冊	6	土 地・資 産	
14003	神西村西分湖端仲間并反新田売 地扣	明治8	1875	書冊	1	土 地・資 産	山 本 秀 太 郎 殿 江 売 袋 入 り
14004 01	藤間穂左エ衛門殿同寛左エ衛門 田地質入帳在中			袋		土 地・資 産	
14004 02	神門郡両神在村田畑反畝書出シ帳	嘉永3		書冊	1	土 地・資 産	
14004 03	東神在村田畑十ヶ年季売券証文	嘉永5		書冊	2	土 地・資 産	売 主 妙 行 寺
14004 04	田地質入証文	嘉永2		書冊	2	土 地・資 産	
14004 05	地所売買願扣	明治8		仮綴	1	土 地・資 産	
14005	有物大見積書出し帳	明治8年乙 亥9月	1875	長帳	1	土 地・資 産	
14006	有物大見積書出し帳	明治8年乙 亥9月	1875	長帳	1	土 地・資 産	
14007	日当質書入覚			長帳	1	土 地・資 産	
14008	四ツ角出棚宅地仕出し覚			長帳	1	土 地・資 産	
14009	(屋敷内各抱分高書付)			紙	4	土 地・資 産	
14010	仕出し之覚	明治2年1 2月	1869	綴	1	土 地・資 産	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
14011	(藤間家建物改書扣)			綴	1	土地・資 産	絵図面
14012	演説書 白枝屋白三郎	嘉永2酉7月	1849	綴	1	土地・資 産	
14013	未納米点検帳	明治17年1月	1884	長帳	1	土地・資 産	
14014	納米点検帳	明治27年正月～明治30年	1894-1897	長帳	1	土地・資 産	
14015	代納米帳	明治20年1月	1887	長帳	1	土地・資 産	
14016	子納米点検帳	明治10年1月	1877	長帳	1	土地・資 産	
14017	已納米点検帳	明治15年1月～明治16年	1882-1883	長帳	1	土地・資 産	
14018	米納点検帳	明治14年1月	1881	長帳	1	土地・資 産	
14019	米点検帳	明治23年1月	1890	長帳	1	土地・資 産	
14020	亥納米点検帳	明治9年1月	1876	長帳	1	土地・資 産	
14021	米点検帳	明治31年1月7日	1898	長帳	1	土地・資 産	
14022	米点検帳	明治35年1月～明治39年11月	1902-1906	長帳	1	土地・資 産	
14023	因藩中御給帳	慶応元年1月2月・同2年8月5日	1865/1866	横帳	1	土地・資 産	
箱19							
14024	(銭貫文総計)	不明		長帳	1	土地・資 産	
14025	延享三辰年より明治元辰年迄大村柳原手銭住屋御称美書出写	明治2年8月	1869	横帳	1	土地・資 産	
14026	神在沖村勘左衛門より同村潮埋立度願・仁多郡角村吉十郎より神立郡石塚村より上塩治村切貫左志川へ向ケ川筋相立松江之水難を凌度願・右同人より妙見川差海浦へ川違致し神在潮を埋立度願	安政6年	1859	横帳	1	土地・資 産	
14027	01 (御免許高書付)	不明		紙	2	土地・資 産	
14027	02 上ル書出し酒直段	不明		紙	1	土地・資 産	
14027	03 (御免許高書付)	不明		紙	1	土地・資 産	
14027	04 01 (店勘定検査ニ付書状)	7月30日		紙	1	土地・資 産	
14027	04 02 (店勘定検査ニ付書状)	8月1日		紙	1	土地・資 産	
14027	05 (店勘定検査ニ付書状)	7月30日		紙	1	土地・資 産	
14028	神西村西分内世倒・証書之写シ 藤間徳左衛門	明治10年1月	1877	綴	1	土地・資 産	
14029	地所売買約定証	明治10年2月	1877	綴	1	土地・資 産	
14030	第三十五区三部村内世転倒之節控	明治10年2月	1877	綴	1	土地・資 産	
14031	神在両村田畑仕出帳 藤間寛左衛門	明治6年10月	1873	長帳	1	土地・資 産	
14032	再主法心得記	明治10年10月	1877	長帳	1	土地・資 産	
14033	01 卯年畑方麦年貢書出取立帳 藤間	明治12年6月	1879	長帳	1	土地・資 産	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考	
14033	02	辰年畑方麦年貢書出取立帳 藤間	明治13年 6月	1880	長帳	1	土地・資 土産	
14033	03	巳年畑方麦年貢書出取立帳 藤間	明治14年 6月	1881	長帳	1	土地・資 土産	
14033	04	午年畑方麦年貢取立帳 藤間	明治15年 6月	1882	長帳	1	土地・資 土産	
14034		寅年畑方麦年貢書出取立帳 藤間	明治11年 6月	1878	長帳	1	土地・資 土産	
14035		宅地売渡証 自分控	明治18年 1月	1885	紙	1	土地・資 土産	
14036		建物売買訂約書	明治10年 7月	1877	綴	2	土地・資 土産	
14037		譲渡証	明治10年 3月	1877	紙	1	土地・資 土産	
14038		記(地租)	不明		長帳	1	土地・資 土産	
14039		(地租)	不明		長帳	1	土地・資 土産	
14040		惣計(田畑石高)	明治9年1 2月	1876	紙	1	土地・資 土産	
14041		地所売買願	明治13年 2月	1880	綴	1	土地・資 土産	
14042		山林売買証			綴	1	土地・資 土産	
14043		約定証(地所売買)	明治10年 5月	1877	綴	1	土地・資 土産	
14044		地所売買訂約証	明治9年8 月	1876	綴	11	土地・資 土産	
14045	01	旧市場分旧越峠分地所売買訂約証控	明治9年8 月	1876	綴	11	土地・資 土産	
14045	02	(土地売買図面)	明治10年 8月	1877	紙	4	土地・資 土産	
14045	03	建物売買訂約証	明治10年 8月	1877	綴	2	土地・資 土産	
14046	01	家屋敷地売渡約定証	明治11年 4月	1878	紙	1	土地・資 土産	
14046	02	建物売買証	明治11年 8月	1878	綴	2	土地・資 土産	
14046	03	(土地売買図面)	明治11年 8月	1878	紙	2	土地・資 土産	
14047	01	(地券状預け証)	明治12年 4月	1879	紙	1	土地・資 土産	
14047	02	地所売買訂約証	明治9年8 月	1876	綴	2	土地・資 土産	
14047		(田畑地租地価書付)	5月		紙	1	土地・資 土産	
14048	01	上			包紙	1	土地・資 土産	
14048	02	(抵当田畑反別改)	明治9年1 0月20日	1876	紙	1	土地・資 土産	
14048	03	(抵当田畑反別改)	明治9年1 0月20日	1876	紙	1	土地・資 土産	
14049		(小作米見積書)			紙	1	土地・資 土産	
14050		(小作米見積書)			紙	1	土地・資 土産	
14051		(米代上納之儀ニ付書状他)	4月21日		紙	4	土地・資 土産	
14052	01	御伺申上口上之覚(北嶋被官屋敷売買の件)	文久2戊1 2月	1862	紙	1	土地・資 土産	包紙[中 嶋与次 兵衛]
14052	02	御伺申上口上之覚(北嶋被官屋敷売買の件)	文久2戊1 2月	1862	紙	1	土地・資 土産	包紙[森 三弥 兵衛]
14052	03	御伺申上口上之覚(北嶋被官屋敷売買の件)	文久2戊1 2月	1862	紙	1	土地・資 土産	包紙[永 岡定八]
14052	04	御伺申上口上之覚(北嶋被官屋敷売買の件)	文久2戊1 2月	1862	紙	1	土地・資 土産	中嶋与 次兵衛

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
14053	未納ヨリ辰納迄十ヶ年之間御用米并荒木川方殘米引受捌帳	安政4年2月	1857	長帳	1	土地・資産	
14054	今市出棚来原車家朝山車家見積帳	明治8年6月	1875	横帳	1	土地・資産	
14055	四ツ角出棚竿改逼会所江渡竿入帳	明治9年6月	1876	横帳	1	土地・資産	
14056	御目当質見込直段目録 藤間寛左エ門	明治3年1月	1870	横帳	1	土地・資産	
14057	有物引渡惣目録 伊豫屋	天保7年1月	1836	横帳	1	土地・資産	袋入
14058	01 明治三未年今市出棚米原善八カ引渡之書類入 藤間	明治3	1870	袋	1	土地・資産	
14058	02 今市出棚貸渡代価入戻り写シ			横長	1	土地・資産	
14058	03 今市出棚酒造諸道具書出帳	明治3年10月	1870	横長	1	土地・資産	
14058	04 米原善八郎江貸付并ニ道具代価古酒代年賦払分共ニ			横長	1	土地・資産	
14058	05 藤間様御店・五兵衛様宛善一郎書状 目録在中			紙	2	土地・資産	
14058	06 [桶貸代価書付]			切紙	1	土地・資産	
14058	07 明治三午暮ヨリ八年戌□□迄五ヶ年之間出棚貸付勘定皆済証書之事	明治8年6月	1875	罫紙、 縦	1	土地・資産	
14058	08 [貸付銀書付](利息共)			横長	1	土地・資産	
14059	今市出棚酒造諸道具書出し帳 藤間	明治3年閏10月	1870	横長	1	土地・資産	
14060	今市出棚貸済代価□記(一件)	不明		横長	1	土地・資産	
14061	断簡(使用道具代及薪代入札)	不明		紙	2	土地・資産	
14062	(辰納荒木川方米代銭受付覚 乘原太助ヨリ藤間寛左衛門宛)	明治4年	1871	紙	1	土地・資産	
14063	午暮未年申五月迄 諸請求書入	午12月～申3月		袋		土地・資産	
14064	申納未納御米取引書類入 藤間店又兵衛時名			袋		土地・資産	
14065	諸上納受取書 藤間清之助	卯1月～戊		袋		土地・資産	
14066	地所売買所約書	明治10年1月	1877	罫紙 綴	1	土地・資産	売主藤間 徳左衛門 買主中村 松之助
14067	[古道具物入下取書付]	1月24日		長帳	1	土地・資産	
14068	覚[切石□壺間につき](とふま又三郎宛)	巳10月27日		紙	1	土地・資産	
14069	覚[村方借金銭三百貫文ニ付]	天保15年1月	1844	紙	1	土地・資産	虫損大 未開
14070	荻柄小作名寄帳 藤間	大正13年1月23・24日	1924	罫紙 綴	1	土地・資産	
14071	神西東分道路敷地控 藤間	明治18年1月22日	1885	紙	1	土地・資産	「書留元簿」用紙
14072	恵愛社株入人名(松江新聞社第165号附録)			紙	1	土地・資産	
14073	両神在三郡畑村常東寺村田畑反順山林古帳面通写	明治7年4月	1874	長帳	1	土地・資産	写
14074	[村名寄銭取立帳]			長帳	1	土地・資産	
14075	戌納荻柄・稲岡・高岡邨名寄米取立帳 藤間	明治19年1月	1886	長帳	1	土地・資産	
14076	亥納下作名寄帳 荻柄・稲岡村 藤間	明治20年10月	1887	長帳	1	土地・資産	
14077	子納小作名寄帳 荻柄・稲岡村 藤間	明治21年1月2月	1888	長帳	1	土地・資産	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
14078	丑納荻栴小作名寄帳 藤間	明治22年1 2月	1889	長帳	1	土地・資 産	
14079	寅納荻栴村小作名寄帳 藤間	明治23年1 2月	1890	長帳	1	土地・資 産	
14080	卯納荻栴村小作名寄帳 藤間	明治24年1 2月	1891	長帳	1	土地・資 産	
14081	荻原村下作名寄帳 藤間	明治25年1 2月	1892	長帳	1	土地・資 産	
14082	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治26年1 2月	1893	長帳	1	土地・資 産	
14083	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治27年1 1月	1894	長帳	1	土地・資 産	
14084	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治28年1 1月	1895	長帳	1	土地・資 産	
14085	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治29年1 1月	1896	長帳	1	土地・資 産	
14086	富屋町四ツ角横坪中市場大土地 鹿口山売捌帳 代価并諸上納差 引取立帳	明治6年10 月～10年1 0月～同11 年	187 3,18 77-1 878	長帳 ・綴	1	土地・資 産	
14087	田畑竿入帳 藤間	明治11年5 月	1878	長帳	1	土地・資 産	
14088	荻栴稻岡高岡竿入帳 藤間	明治11年1 月11日	1878	長帳	1	土地・資 産	
14089	荻栴稻岡高岡改正坪付帳 藤間	明治11年1 月11日	1878	長帳	1	土地・資 産	
14090	01 荻原稻岡両村田畑反順帳 藤間	明治7年7 月	1874	長帳	1	土地・資 産	
14090	02 荻原稻岡両村公畝書出帳 藤間 寛左衛門	明治8年3 月	1875	長帳	1	土地・資 産	
14091	三拾六区神門郡神西東分下作人 別帳 藤間	明治10年1 月	1877	長帳	1	土地・資 産	
14092	三拾六区神門郡神西東分田畑下 作名寄帳	明治10年6 月	1877	長帳	1	土地・資 産	
14093	荻原・稻岡・高岡三カ村地租書出 帳 藤間	明治8年8 月	1875	長帳	1	土地・資 産	
14094	両神西三郡荻栴稻岡高岡改正坪 付帳	明治8年3 月	1875	長帳	1	土地・資 産	
14095	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治30年1 1月	1897	長帳	1	土地・資 産	
14096	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治32年1 2月	1899	長帳	1	土地・資 産	
14097	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治33年1 2月	1900	長帳	1	土地・資 産	
14098	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治34年1 1月	1901	長帳	1	土地・資 産	
14099	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治35年1 1月	1902	長帳	1	土地・資 産	
14100	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治36年1 1月	1903	長帳	1	土地・資 産	
14101	荻栴村下作名寄帳 藤間 「本年ヨリ改正」(異筆)	明治37年1 1月	1904	長帳	1	土地・資 産	
14102	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治38年1 2月	1905	長帳	1	土地・資 産	
14103	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治39年1 1月	1906	長帳	1	土地・資 産	
14104	荻栴村下作名寄帳 藤間 [付紙]「本年ヨリ輸出米ニハ上俵 ノ…」	明治40年1 2月	1907	長帳	1	土地・資 産	
14105	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治41年1 1月	1908	長帳	1	土地・資 産	
14106	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治42年1 2月	1909	長帳	1	土地・資 産	
14107	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治43年1 2月	1910	長帳	1	土地・資 産	
14108	荻栴村下作名寄帳 藤間	明治44年1 2月	1911	長帳	1	土地・資 産	
14109	荻栴村下作名寄帳 藤間	大正元年1 2月	1912	長帳	1	土地・資 産	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
14110	荻栲村下作名寄帳 藤間	大正2年12月	1913	長帳	1	土地・資産	
14111	荻栲村下作名寄帳 藤間	大正3年12月	1914	長帳	1	土地・資産	
14112	荻栲村下作名寄帳 藤間	大正4年12月	1915	長帳	1	土地・資産	
14113	荻栲村下作名寄帳 藤間	大正5年12月 ~9年12月	1916 -1920	長帳	1	土地・資産	
14114	荻栲村下作名寄帳 藤間	大正10年1月2月	1921	長帳	1	土地・資産	
14115	荻栲村下作名寄帳 藤間	大正11年1月2月	1922	長帳	1	土地・資産	
14116	荻栲村下作名寄帳 藤間 「十二月十六日収納ノタメ出張、 小作借米協議中ノタメ不能」	大正12年1月2月	1923	長帳	1	土地・資産	
14117	仕出し分			長帳	1	土地・資産	
14118	巳納荻栲村立毛野取立帳 藤間	明治26年1月2月	1893	長帳	1	土地・資産	
14119	辰納荻栲村立毛野取立帳 藤間	明治25年1月2月	1892	長帳	1	土地・資産	
14120	卯納荻栲村立毛野取立帳 藤間	明治24年1月2月	1891	長帳	1	土地・資産	
14121	寅納荻栲村立毛野取立帳 藤間	明治23年1月2月	1890	長帳	1	土地・資産	
14122	丑納荻栲村立毛野取立帳 藤間	明治22年1月2月	1889	長帳	1	土地・資産	
14123	子納荻栲村立毛野取立帳 藤間	明治21年1月2月	1888	長帳	1	土地・資産	
14124	亥納荻栲・稲岡村立毛野取立帳 藤間	明治20年1月0月	1887	長帳	1	土地・資産	
14125	戌納荻栲・稲岡・高岡村立毛野取帳 藤間	明治19年1月0月	1886	長帳	1	土地・資産	
14126	酉納荻栲・稲岡・高岡村立毛野取帳 藤間	明治18年1月0月	1885	長帳	1	土地・資産	
14127	申納荻栲・稲岡・高岡村立毛野取帳 藤間	明治17年1月0月	1884	長帳	1	土地・資産	
14128	未納荻栲・稲岡・高岡三ヶ村立毛野取帳 藤間	明治16年1月0月	1883	長帳	1	土地・資産	
14129	午納荻栲・稲岡・高岡三ヶ村立毛野取帳 藤間	明治15年1月0月	1882	長帳	1	土地・資産	
14130	巳納荻栲・稲岡・高岡三ヶ村立毛野取帳 藤間	明治14年1月0月	1881	長帳	1	土地・資産	
14131	辰納荻栲・稲岡・高岡三ヶ村立毛野取帳 藤間	明治13年1月0月	1880	長帳	1	土地・資産	
14132	卯納荻栲・稲岡・高岡三ヶ村立毛野取帳 藤間	明治12年1月2月	1879	長帳	1	土地・資産	
14133	丑納荻栲・稲岡・高岡三ヶ村立毛野取帳 藤間	明治10年1月0月	1877	長帳	1	土地・資産	
14134	子納荻栲・稲岡・高岡三ヶ村立毛野取帳 藤間	明治9年10月	1876	長帳	1	土地・資産	
14135	西松県表歳末帳 龍蔵扣	明治6年1月26日	1873	横半	1	土地・資産	
14136	嘉永貳年弍村々見米寄高帳 藤	文久2年10月	1862	長帳	1	土地・資産	
14137	旧市場分旧越峠分地所売捌差引帳	明治9年8月	1876	長帳	1	土地・資産	
14138	地租改正ニ付諸村書出し扣 藤間	明治8年8月	1875	長帳	1	土地・資産	
14139	両神西三郡荻原稲岡五ヶ村積出扣	明治8年9月	1875	長帳	1	土地・資産	
14140	[神在東西三郡村 書出シ]			長帳	1	土地・資産	
14141	午納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治27年1月	1894	長帳	1	土地・資産	
14142	未納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治28年1月	1895	長帳	1	土地・資産	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
14143	申納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治29年1月	1896	長帳	1	土地・資産	
14144	酉納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治30年1月	1897	長帳	1	土地・資産	
14145	戌納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治31年1月	1898	長帳	1	土地・資産	
14146	亥納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治33年1月2月	1900	長帳	1	土地・資産	
14147	丑納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治34年1月	1901	長帳	1	土地・資産	
14148	寅納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治35年1月	1902	長帳	1	土地・資産	
14149	卯納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治36年1月	1903	長帳	1	土地・資産	
14150	辰納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治37年1月	1904	長帳	1	土地・資産	
14151	巳納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治38年1月2月	1905	長帳	1	土地・資産	
14152	午納荻栲村立毛野取帳 藤間 「本年ヨリ外俵法励行ニ付…」	明治39年1月	1906	長帳	1	土地・資産	
14153	未納荻栲村立毛野取帳 藤間	明治40年1月2月～大正3年12月	1907-1914	長帳	1	土地・資産	
14154	卯納荻栲村立毛野取帳 藤間	大正4年10月	1915	長帳	1	土地・資産	
14155	辰納荻栲村立毛野取帳 藤間 「五年ヨリ県未改定、中料理改定」	大正5年1月～9年	1916-1920	長帳	1	土地・資産	
14156	西(×→戌)納荻栲村立毛野取帳 藤間 「大正11年度反別改定、同年掛米改定、同年小作人改定」	大正10年1月0月～11年度	1921-1922	長帳	1	土地・資産	
14157	亥納荻栲村立毛野取帳 藤間	大正12年2月ヨリ	1923	長帳	1	土地・資産	
14158	荻栲立毛野取帳 藤間	大正13年度	1924	長帳	1	土地・資産	
14159	錢四百貫文証文入	午9月		包紙	1	土地・資産	紙3
14160	神西東分下作名寄帳	明治29年1月	1896	横帳	1	土地・資産	
14161	神西東分下作名寄帳	明治28年1月2月	1895	横帳	1	土地・資産	
14162	神西東分下作名寄帳	明治27年1月	1894	横帳	1	土地・資産	
14163	神西東分下作名寄帳	明治26年1月2月	1893	横帳	1	土地・資産	
14164	神西東分下作名寄帳	明治25年1月2月	1892	横帳	1	土地・資産	
14165	卯納神西東分下作名寄帳	明治24年1月2月	1891	横帳	1	土地・資産	
14166	寅納神西東分下作名寄帳	明治23年1月2月	1890	横帳	1	土地・資産	
14167	丑納神西東分下作名寄帳	明治22年1月2月	1889	横帳	1	土地・資産	
14168	子納小作名寄帳	明治21年1月2月	1888	横帳	1	土地・資産	
14169	亥納下作名寄帳	明治20年1月0月	1887	横帳	1	土地・資産	
14170	戌納神西村東分名寄取立帳	明治19年1月	1886	横帳	1	土地・資産	
14171	神西東分(名寄帳カ)			横帳	1	土地・資産	
14172	辰納神西東分・荻栲・稲岡・高岡四ヶ村下作人別名寄帳	明治13年1月2月	1880	横帳	1	土地・資産	
14173	申納神西東分立毛野取帳	明治29年1月	1896	横帳	1	土地・資産	
14174	未納神西東分立毛野取帳	明治28年1月	1895	横帳	1	土地・資産	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
14175	午納神西東分立毛野取帳	明治27年1 1月	1894	横帳	1	土地・資 土産	
14176	巳納神西東分立毛野取帳	明治26年1 1月	1893	横帳	1	土地・資 土産	
14177	辰納神西東分立毛野取帳	明治25年1 2月	1892	横帳	1	土地・資 土産	
14178	卯納神西東分立毛野取帳	明治24年1 2月	1891	横帳	1	土地・資 土産	
14179	寅納神西東分立毛野取帳	明治23年1 2月	1890	横帳	1	土地・資 土産	
14180	丑納神西東分立毛野取帳	明治22年1 2月	1889	横帳	1	土地・資 土産	
14181	子納神西東分立毛野取帳	明治21年1 2月	1888	横帳	1	土地・資 土産	
14182	亥納神西東分立毛野取帳	明治20年1 0月	1887	横帳	1	土地・資 土産	
14183	戌納神西東分立毛野取帳	明治19年1 0月	1886	横帳	1	土地・資 土産	
14184	酉納神西東分立毛野取帳	明治18年1 0月	1885	横帳	1	土地・資 土産	
14185	申納神西東分立毛野取帳	明治17年1 0月	1884	横帳	1	土地・資 土産	
14186	未納神西東分立毛	明治16年1 0月	1883	横帳	1	土地・資 土産	
14187	午納神西東分立毛	明治15年1 0月	1882	横帳	1	土地・資 土産	
14188	巳納神西東分立毛	明治14年1 0月	1881	横帳	1	土地・資 土産	
14189	辰納神西東分立毛	明治13年1 0月	1880	横帳	1	土地・資 土産	
14190	卯納神西東分立毛	明治12年1 0月	1879	横帳	1	土地・資 土産	
14191	寅納神西東分立毛	明治11年1 0月	1878	横帳	1	土地・資 土産	
14192	丑納神西東分立毛	明治10年1 0月	1877	横帳	1	土地・資 土産	
14193	子納神西東分立毛	明治9年10 月	1876	横帳	1	土地・資 土産	
14194	目録(子餅・魚)	12月		紙	1	土地・資 土産	
14195	(目録)	12月		紙	1	土地・資 土産	
14196	預申錢之事	明和8年2 月	1771	紙	1	土地・資 土産	
14197	婚礼之砌祝儀遣候控	文久2年12 月	1862	横帳	1	土地・資 土産	
14198	婚礼一条請払調物扣帳	文久2年9 月	1862	横帳	1	土地・資 土産	
14199	木幡御婚礼進物并送中小遣扣	元治元年4 月	1864	横半	1	土地・資 土産	
14200	(夏物類書出)			切紙	1	土地・資 土産	
14201	藤間儀兵衛宛 星野常磐書状	5月30日		紙	1	土地・資 土産	
14202	新規ニ出来候衣類			横帳	1	土地・資 土産	
14203	藤間儀兵衛宛書状	11月14日		切紙	1	土地・資 土産	
14204	預申錢之事(藤間儀兵衛宛 角屋 忠兵衛)	辰2月		紙	2	土地・資 土産	
14205	(縁女御産付物)			罫紙	1	土地・資 土産	
14206	(借用証文)	明治14年カ カ	1881	綴	2	土地・資 土産	
14207	(戌十二月 婚礼一件)			横帳	1	土地・資 土産	
14208	覚(十郡手先鉢屋七十人関係)			切紙	1	土地・資 土産	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
14209	覚(神門郡杵築六ヶ村水夫山札米上納高)			紙	1	土地・資産	
14210	(和歌詠草)			折紙	1	土地・資産	
14211	(諸経費書留)			横帳	1	土地・資産	
14212	(付米一件)			紙 (断片)	1	土地・資産	
14213	覚(借用証文カ)	□延元年9月	1860カ	紙	1	土地・資産	
14214	借用申銭之事	安永2年11月	1773	紙	1	土地・資産	
14215	借家受合一札之事	明和8年4月	1771	紙	1	土地・資産	
14216	覚(借用証文カ)			紙 (断片)	1	土地・資産	
14217	借用申銭之事	安永2年9月	1773	紙	2	土地・資産	別紙あり
14218	借用申銭之事	明和8年2月	1771	紙	1	土地・資産	別紙あり
14219	預申銭之事	明和9年5月	1772	紙	1	土地・資産	
14220	借用申銀之事	明和9年11月	1772	紙	1	土地・資産	
14221	(銀子一件)	5月12日		紙	1	土地・資産	
14222	覚(手形三百表)	酉11月		紙	1	土地・資産	
14223	(卯歳目録 他2点)	5月29日カ		切紙 継	3	土地・資産	
14224	01 覚(借用証文)	安永2年11月	1773	紙	1	土地・資産	
14224	02 覚(借用証文)	巳12月	1773	紙	1	土地・資産	
14225	覚(銭受取証文)	未11月		紙	1	土地・資産	
14226	木実山仕切証文之事	明和10(ママ)年5月	1773	紙	1	土地・資産	
14227	(銀百目借用依頼書)	辰3月7日		紙	1	土地・資産	
14228	預申銭之事	安政6年末3月	1859	紙	1	土地・資産	
14229	覚(北門兵衛仕立銭一件)	天保9年7月	1838	紙	1	土地・資産	
14230	諸貸為替書附請取控 藤間店 弥兵衛	慶応3年6月	1867	書冊	1	土地・資産	
14231	安政二乙卯二月之願面扣	安政2年2月	1855	紙	1	杵築郵便局	
箱20							
15001	(出雲民芸館の配置図・平面図・立面図・断面図)			紙	4	図面	
15002	家相図面入 「三瓶山」封筒入			紙	1	図面	
15003	(墓石寸法図)			紙	7	図面	
15004	01 明治十八年奥小路貸地調	明治18年7月24日	1885	紙	1	図面	
15004	02 字作・奥小路村分畑			紙	1	図面	
15004	03 奥小路貸宅地図			紙	1	図面	
15004	04 (奥小路貸宅地図)			紙	1	図面	
15004	05 奥小路町図面	慶応4年8月	1868	紙	1	図面	
15004	奥小路貸地図面			袋紙	1	図面	
15005	01 四ツ角出棚図面	明治7年5月	1874	紙	1	図面	
15005	02 四ツ角出棚家屋敷図面	安政3年	1856	紙	1	図面	
15005	03 安政三辰冬越峠村ノ内四ツ角江出棚相□□□図面	安政3年	1856	紙	1	図面	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
15005 04	四ツ角出棚図面	明治5年7月	1872	紙	1	図面	
15005 05	越峠村四ツ角出棚家屋舗図面	安政6年	1859	紙	1	図面	
15005 06	越峠村出棚			紙	1	図面	
15005 07	四角出棚図面			紙	1	図面	
15005 08	(家宅地図カ)			紙	1	図面	
15005 09	(家宅地図カ)川方御役所口			紙	1	図面	張紙の注あり
15005 10	(間取書カ)			紙	1	図面	
15005 11	(間取書カ)			紙	2	図面	
15005	四ツ角出棚図面			袋		図面	
15006 01	今市町藤間源左衛門出棚	明治8年3月8日	1875	紙	1	図面	
15006 02	(今市出棚図面)			紙	1	図面	
15006 03	今市出棚図面	明治8年9月	1875	紙	1	図面	
15006	今市出棚図面					図面	
15007	中村通図面			紙	1	図面	
15008	芝居小屋図面			紙	1	図面	
15009	市場古図			紙	1	図面	
15010	出雲国益物産之番号附			紙	1	図面	
15011	松寄下村車家図面并来原車家図面入・東神在村穂畑図面			紙	6	図面	
15012 01	方鑑書 「広島通信局」封筒			封筒		図面	
15012 02	方鑑	(明治カ)9年9月28日	1876カ	紙	2	図面	
15012 03	方口書			紙	4	図面	
15013 01	諸図面入					図面	
15013 02	(湖周辺の絵図)			紙	1	図面	
15014 01	図面入			袋		図面	
15014 02	宅相図面入	明治20年7月26日	1887	封筒	1	図面	袋のみ
15014 03	(家宅地図カ)			紙	1	図面	
15014 04	明治九年家相方鑑	明治9年	1876	紙	1	図面	
15015 01	藤間出棚図面			袋	1	図面	
15015 02	藤間出棚図面			紙	1	図面	
15016	(輸出入品目書出)			罫紙	1	図面	
15017	(差引銭書出)			紙	1	図面	
15018	荒木御蔵・宇龍仲出蔵四ツ角出棚今市出棚図面			袋	1	図面	袋のみ
15019 01	宅地凌畑借家地図面 竿入反別帳入	明治19年7月	1886	袋	1	図面	
15019 02	(官有地の拝借について)	明治24年6月3日	1891	綴	1	図面	
15019 03	宅地凌畑竿入下調帳	明治19年7月11日	1886	長帳	1	図面	
15019 04	(家宅図面カ)			紙	1	図面	
15019 05	(畑の図面カ)			紙	1	図面	
15019 06	(家屋と土地の図面カ)			紙	3	図面	
15019 07	(土地の寸法書カ)(土地凌カ)			紙	1	図面	
15019 08	四本松物凌畑竿改			長帳	1	図面	
15019 09	(千家様両屋敷坪付)			長帳	1	図面	
15019 10	出雲国神門郡杵築村ヲ四ヶ分村ニ被成下度願			綴	1	図面	
15019 11	神田婿入席次			紙	1	図面	
15019 12	旧荒木川方御役所地外民蔵先年差出置候分旧復御下ケ渡願	明治8年8月8日	1875	綴	1	図面	
15019 13	野取実測絵図面	明治18年1月20日	1885	綴	1	図面	
15019 14	西畑下調竿入扣	(明治カ)18年7月8日	1885カ	長帳	1	図面	
15019 15	千二百三拾五番字前原畑			綴	1	図面	
15019 16	杵築東村富屋町字上ノ山東端畑地	明治20年8月21日カ	1887カ	紙	1	図面	
15019 17	杵築南村字四本松 杵築西村字			紙	1	図面	
15019 18	杵築東村字富屋町			綴	1	図面	
15019 19	杵築東村字上ノ山畑地下作ノ貸付分裂図			綴	1	図面	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
15019 20	杵築東村字口宅地			綴	1	図面	
15019 21	(小作地の坪付)			綴	1	図面	
15019 22	(坪付・地価書付)	明治		綴	1	図面	
15019 23	東神在村二而替り穂畑場所図面			紙	1	図面	
15019 24	(土地図面)			紙	1	図面	
15019 25	(家宅図面)			紙	11	図面	
15019 26	本家宅地			紙	2	図面	
15019 27	(坪付・藤間寛左エ門・畑)			紙	1	図面	
15019 28	奥小路富屋町野畑荒附	(明治)18 年7月24日	1885 カ	長帳	1	図面	
15019 29	(難船三付一件 書簡)			紙	4	図面	
15019 30	自分屋敷才目其分物々書類入			紙	17	図面	
15019 31	(土地坪付)			紙	1	図面	
15019 32	(土地寸法および図面)			紙	1	図面	
16001	郡奉行所元々より主法ニ付覚	文久2年6 月	1862	紙	1	講・趣法	
16002	六年以前ヨリ臨時諸払覚之控			横帳	1	講・趣法	
16003	新御主法覚	宝暦10年7 月	1760	書冊	1	講・趣法	
16004	御用宿等諸事書抜綴			綴	1	講・趣法	
16005	御宿客来諸記	慶応4	1868	書冊		講・趣法	
16006	文化十三丙子五月朔日ヨリ検約 アリ合ニ付而諸事預リ書之覚			書冊		講・趣法	
16007	和親融通講規則簿	明治10年 丑4月	1877	書冊	1	講・趣法	
16008	和親融通講第貳番会諸入用留帳	明治11年 寅3月	1878	長帳	1	講・趣法	
16009	和親融通講第四番会諸費書出帳	明治13年 庚辰4月	1880	長帳	1	講・趣法	
16010	和親融通講第五番会席入費帳	明治14年 巳4月	1881	長帳	1	講・趣法	
16011	和親融通講第六会席諸費留帳	明治15年 辛午4月	1882	長帳	1	講・趣法	
16012	庚午十一月融通会所御受始御国 中頭分江会所頭取被御申附四月 廿日国瀉役場ニおいて御申渡御 書附			綴	1	講・趣法	
16013	第二共益講盟約証	明治26年 5月	1893	綴	1	講・趣法	
16014	主法見込書出し	明治8年亥 8月	1875	長帳	1	講・趣法	
16015	大主法ニ而志儀申上ヲ以借財払 済受払扣	明治10年 8月	1877	横帳	1	講・趣法	
16016	(講掛金証文)	明治15年 ~17年4月	1882 -84	紙	10	講・趣法	証書界 紙9、野 紙1
16017	(講掛金証文)	明治10~1 4年	1877 -188 1	紙	9	講・趣法	証書界 紙7、野 紙1
16018	(講掛金証文)	明治11年 4月	1881	紙	10	講・趣法	証書界 紙10
16019 01	木佐家主法書并諸書在中并森脇 伊四郎主法帳			袋	1	講・趣法	
16019 02	木佐綿売買差引留扣	嘉永4年亥 11月	1851	長帳	1	講・趣法	
16019 03	木佐主法・内逼塞主法差辻	嘉永6年丑 正月	1853	長帳	1	講・趣法	
16019 04	森脇伊四郎主法書附写し	明治2己巳 9月	1869	長帳	1	講・趣法	
16019 05	丑暮引受御書出			横帳	1	講・趣法	
16019 06	因幡屋多三郎払諸道具残ず木幡 新屋自分右四軒配分いたし候内 自分江買請之分書抜	天保5年午 9月	1834	長帳	1	講・趣法	
16019 07	先年主法之節主法書付扣	亥5月		綴	1	講・趣法	
16019 08	請込物何角目録	文政2年卯 7月	1819	綴	1	講・趣法	
16019 09	(貸付払書付)			長帳	1	講・趣法	
16019 10	(借金に関する書簡)			紙	1	講・趣法	一部破 損

文書番号		史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
16019	11	乍恐奉言上返答書			紙	1	講・趣法	
16019	12	木佐主法之節	天保9戊戌年	1838	紙	1	講・趣法	
16020		一度公御死去之砌手配書附并香典悔口子見合書附類	文化2乙丑6月	1805	袋	1	講・趣法	
16021		共栄講計算目錄			綴	1	講・趣法	
16022	01	融通講規則并連印簿	明治8年亥3月	1875	綴	1	講・趣法	
16022	02	(講掛金証文)	明治9年子9月	1876	紙	3	講・趣法	証券界紙
16022	03	(講割当金書付)			紙	6	講・趣法	
16023		(講關係証文)	明治30年4月	1897	紙	2	講・趣法	罨紙
16024		(講關係証文)	明治31年4月	1898	紙	2	講・趣法	罨紙
16025	01	(封筒)	4月		袋	1	講・趣法	
16025	02	(講金關係書簡)	4月		紙	3	講・趣法	うち罨紙1
16026		舟十方事太郎右衛門兄久左衛門破産之後家督相統酒造業引受候砌書記	天保7年申11月	1836	綴	1	講・趣法	表紙のみ
16027		火事御見舞差出品物			綴	1	講・趣法	
16028	01	取合仏事書類入			袋	1	講・趣法	
16028	02	正当五月十四日二聞取覚	慶応4辰閏4月20日	1868	長帳	1	講・趣法	
16028	03	諸入用帳	文久4子3月	1864	長帳	1	講・趣法	
16028	04	四ツ角出搬支配人紙屋正三郎歳六十九才二而相果候死場入用自分ヨリ払出遣帳	文久3亥2月5日	1863	長帳	1	講・趣法	
16028	05	縁譽道遂信士百回忌・在譽廓定信士二拾五回忌・寒山樹栄信士拾三回忌法事之節諸入用書出帳	明治元戌辰11月22日	1868	長帳	1	講・趣法	
16028	06	「席次書付(熨斗引順、盃順、本膳盃順)」			紙	3	講・趣法	
16028	07	出店死去之節払方帳	天保15年辰11月	1844	横帳	1	講・趣法	
16028	08	小払帳	享和3亥4月7日	1803	長帳	1	講・趣法	
16029	01	藤間千代神靈野送一途	明治20戌亥7月15日	1887	袋	1	講・趣法	
16029	02 01	(封筒)	(明治)33年6月12日	1900	袋	1	講・趣法	
16029	02 02	(病気見舞)	11月30日(明治32年)	1899	紙	1	講・趣法	
16029	02 03	宥証人			紙	1	講・趣法	
16029	03	藤間千代神靈一周忌御供物到来帳	明治21年7月15日	1888	横帳	1	講・趣法	
16029	04	藤元神靈三拾年・藤堅神靈拾年歳祭之砌諸留	明治18年3月10日	1885	長帳	1	講・趣法	
16029	05	藤間藤元・藤間藤賢神靈祭二付到来控	明治18年3月9日	1885	長帳	1	講・趣法	
16029	06	神饌料控并忌中見舞	明治20年7月15日	1887	長帳	1	講・趣法	
16030		・祭式并藤堅神靈七歳際之砌諸留	明治15年壬午3月9日	1882	長帳	1	講・趣法	
16031		藤間千代遺物	明治20年丁亥7月15日	1887	長帳	1	講・趣法	
16032		藤間隆死亡悔帳	明治36年9月29日	1903	長帳	1	講・趣法	
16033		於松帯始至来もの	文久3亥1月15日	1863	長帳	1	講・趣法	
16034		繁子命四拾年・国子命拾年神靈祭諸払并到来日嘉恵	明治19年10月19日	1886	長帳	1	講・趣法	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
16035	森脇貫一郎殿算入之節諸入用留帳	明治11年 戊寅3月12日	1878	長帳	1	講・趣法	
16036	木幡耕蔵二男巳之助事去年四月 貴受并千代松共三人初而罷越候 節進物取遣控	明治4年辛 未4月	1871	長帳	1	講・趣法	
16037	木幡与右衛門初而俸松之助出産 之砌進物控	慶応3卯年	1867	長帳	1	講・趣法	
16038	精一衣類調帳	明治28年 2月12日	1895	横帳	1	講・趣法	
16039	靈祭当分手控帳	明治19年 10月18日	1886	横帳	1	講・趣法	
16040	・和婚礼入費帳	明治10丁 巳11月	1877	横帳	1	講・趣法	
16041	寛左衛門女お松引越之節万控	明治10年 丁丑11月11日	1877	横帳	1	講・趣法	
16042	明治十八年六月十五日出立 明 治十八年十一月十一日帰国東京 へ罷出候節土産物遣帳			長帳	1	講・趣法	
16043	(親戚、出入之者、役割についての 書付)			罫紙	3	講・趣法	
16044	01 (諸目請求書付)			長帳	1	講・趣法	
16044	02 (各人金銭書付)			長帳	1	講・趣法	
16044	03 当分通 他	明治10年 5月23日	1877	横帳	4	講・趣法	
16045	01 寛左衛門藤賢死去諸払手伝人共 控	明治9年丙 子3月10日	1876	長帳	1	講・趣法	
16045	02 仁誉義寛藤堅居士四十九日四月 廿五六日	明治9子4 月28日	1876	長帳	1	講・趣法	
16045	03 仁誉義寛藤堅居士百ヶ日弔入用 帳	明治9子6 月17日	1876	長帳	1	講・趣法	
16045	04 一周忌執行法入費仁誉義寛藤堅 居士	明治10年 3月12日	1877	長帳	1	講・趣法	
16046	寛左衛門藤堅仁誉義寛藤堅居士 野送一途 運誉妙生貞女之姉一 途トモ	明治9丙子 3月10日	1876	袋	1	講・趣法	袋1、長 帳5、横 帳1
16047	神門郡所々養米之備主法ニ付金 五千両一銘預御聞届一途	明治元 戊 辰9月	1868	綴	1	講・趣法	
16048	神門郡杵築大土地村・中村主法 目録書出し帳	嘉永5年子 12月	1852	綴	1	講・趣法	
16049	再主法ニ付衆議書			綴	1	講・趣法	
16050	和親講計算法			綴	1	講・趣法	
16051	(高橋喜一郎よりの詩歌、俳句、 書画等寄贈の願)	大正12年7 月1日	1923	紙	1	講・趣法	
16052	(新年賀会のお知らせ)	大正12年1 2月10日	1923	紙	1	講・趣法	
16053	桜井千代子 大村泰吉を賀とし て迎ひしなり			罫紙	1	講・趣法	
16054	[願申上御米事]			書冊	1	講・趣法	
16055	西四月松江勤帳 藤間寛左衛門	明治6年始	1873	長帳	1	講・趣法	
16056	西四月松江勤帳 藤間	明治6年始	1873	長帳	1	講・趣法	
16057	古森脇屋ヨリ宮司物書出し帳 藤 間	文久2年12 月	1862	長帳	1	講・趣法	
16058	藤間江木幡ヨリ御嫁入之節進物祝 儀実目録	元治2年4 月	1865	長帳	1	講・趣法	
16059	持道具見合			長帳	1	講・趣法	
16060	婚式中手伝日雇控 とうま	明治31年5 月	1898	長帳	1	講・趣法	
16061	[千家北嶋殿及托野藤間参り候 節日備写ほか]			長帳	1	講・趣法	
16062	巳神在月十八日出府之節小払扣 伊平	午12月8日		横半	1	講・趣法	
16063	01 [勇蔵婚禮并婿入之書類 藤間]			封筒	1	講・趣法	袋入
16063	02 藤間勇蔵藤愛妻と森脇忠兵衛娘 お長貴受度右始終	文久2年頃	1862	紙	2	講・趣法	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
16063	03 示合頭書	不明		紙	1	講・趣法	
16064	近藤雄四郎方幸女養女引越之砌 一途 藤間	明治27年1 2月9日	1894	書簡	1	講・趣法	目録ほ か2
16065	明治卅二年四月一日木幡久右衛 門婚礼ノ節新縁家永井ヨリノ祝儀 配当額	明治32頃	1899	長帳	1	講・趣法	
16066	婚禮取扱向 扣 藤間店	文久2年12 月吉日	1862	帳	1	講・趣法	
16067	新四郎富久妻 お萬引越参候節 萬覚	嘉永7年10 月8日	1854	長帳	1	講・趣法	
16068	勇蔵躰入之節御産物 宮笥物書 出し控	文久3年9 月吉日	1863	長帳	1	講・趣法	
16069	豊四郎藤間屋江引越候節萬控帳	天保12年9 月ヨリ	1841	長帳	1	講・趣法	
16070	01 勇蔵 婚禮一条書付入 藤間	文久2年12 月吉日	1862	袋	1	講・趣法	
16070	02 木幡婚礼之節 藤間ヨリ祝儀類被 遣者名前書出帳	元治元年4 月21日	1864	長帳	1	講・趣法	
16070	03 藤間勇蔵藤愛 妻引越之砌到来 扣 藤間	文久2年12 月13日	1862	長帳	1	講・趣法	
16070	04 藤間ヨリ嫁入之節御雇物目録			紙	1	講・趣法	
16070	05 [豊四郎藤間屋へ引越候之節道 具類入用辻]			紙	1	講・趣法	
16070	06 [祝儀書留]			紙	1	講・趣法	
16070	07 夏衣裳書出シ			紙	1	講・趣法	
16070	08 天保十四癸卯九月廿四日夜藤間 屋ヨリ婿入嫁入之節盃順			紙	1	講・趣法	
16070	09 勇蔵婚式之節役割控 藤堅	文久2年12 月13日	1862	長帳	1	講・趣法	
16070	10 勇蔵 婚禮日記	文久2年12 月吉辰	1862	書冊	1	講・趣法	
16070	11 勇蔵外十二月十三日婚式之節御 献立			長帳	1	講・趣法	
16070	12 仁蒼義寛藤堅居士 俗名寛左衛 門様遺物記 藤愛	明治9年3 月10日	1876	横半	1	講・趣法	
16070	13 荷物着物之節 献立			長帳	1	講・趣法	
16071	遣ひ物覚帳 市兵衛	慶応2年9 月	1866	横半	1	講・趣法	出府
16072	大社御修膳(ママ)中 土木御課預 金通 大村政二郎・藤間穂左衛 門	明治12年1 1月日	1879	横半	1	講・趣法	
16073	01 地租改正反別名寄帳写し 藤間 穂左衛門分支配萩福村 正根九 左衛門	明治9年8 月	1876	横半	1	講・趣法	
16073	02 両神在三郡田畑反順帳 藤間	明治5年9 月	1872	横半	1	講・趣法	
16073	03 宅地野畑地借地租書出帳 諸村 引合	明治9年6 月	1876	横半	1	講・趣法	
16074	巳年始廻勤帖 藤間	安政4年2 月5日	1857	横半	1	講・趣法	
16075	寅松府勤萬扣 勇蔵出府	慶応2年4 月8日	1866	横半	1	講・趣法	
16076	寅三月松府進功扣 藤間	慶応2年3 月17日	1866	横半	1	講・趣法	
16077	辰年頃廻禮進物配扣	安政3年1 月12日	1856	横半	1	講・趣法	
16078	内々返納通 田早 藤間様	嘉永3年12 月	1850	横半	1	講・趣法	
16079	六月晦日源七左江(ママ)門手扣 藤間 惣中源七愛			横半	1	講・趣法	
16080	巳九月出府之節廻勤扣 藤堅	安政4年9 月16日	1857	横半	1	講・趣法	出立
16081	午閏十月出府進物帳 龍蔵	明治3年閏 10月16日	1870	横半	1	講・趣法	
16082	時候御見舞進物帳 藤間	丑8月吉日		横半	1	講・趣法	
16083	天保十二年木佐ヨリ豊四郎参ル 節以来縁談吉日記入ル 木幡勇 蔵婚禮書類入	明治10年1 1月	1877	袋	7	講・趣法	一括、 長帳

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
16084	寅十一月於吉岡御入湯所御直書 御意之写ス	安政2年4月	1855	綴	1	講・趣法	触写、
16085	[金錢受領書付綴]			綴	1	講・趣法	
16086	婚礼入用控 とうま	明治31年5月吉日	1898	長帳	1	講・趣法	
16087	婚礼中到来覚口分			紙	1	講・趣法	
16088	[各人昼夜人数書付(芸者等婚礼日雇カ)]			長帳	1	講・趣法	
16089	[婚礼日雇賃錢留(芸者ほか料理人)]			野綴紙	1	講・趣法	
16090	[賃金書付(芸者・料理人ほか)]			野綴紙	1	講・趣法	
16091	記[野津ヨリ祝儀書付]			紙	1	講・趣法	
16092	[日雇賃錢書付]			紙	1	講・趣法	
16093	[婚礼関係各種人名書付]			紙	1	講・趣法	
16094	[出産経過等一部書付]			野綴紙	1	講・趣法	
16095	加藤房太郎受払			綴	1	講・趣法	
16096	[各種受払綴、幸野万太郎(野菜)桂田倉太郎(魚)]			綴	1	講・趣法	
16097	[賃金書付(日雇分カ)]			野綴紙	1	講・趣法	
16098	[祝儀目録類]	明治33年5月吉日	1900	包紙・紙	4	講・趣法	包紙1、紙4
16099	喜び日加栄(ひかえ) 藤間店	大正15年5月25日	1926	長帳	1	講・趣法	
16100	婚式中金錢請払帳 とうま	明治31年5月22日	1898	長帳	1	講・趣法	
16101	禮之助結婚一途	明治29年1月	1896	長帳	1	講・趣法	
16102	豊四郎 藤間屋江養子引越候節万控帳	天保12年1月2日	1841	長帳	2	講・趣法	
16103	精 婚式中到来覚 藤間「町村別人巻末ニアリ」(異筆)	明治31年5月	1898	横半	1	講・趣法	
16104	道具代入錢控	亥10月		長帳	1	講・趣法	
16105	[藤間宛御祖母様御病氣御見舞]	12月28日		紙	1	講・趣法	
16106	[藤間正太郎宛森田屋伴六、孫四郎相果ニ付覚]	文化2年丑正月	1805	紙	1	講・趣法	
16107	文版御免[森脇忠兵衛宛牧戸□三右衛門書状]	5月22日		紙	1	講・趣法	
16108	家則集議預書	明治15年1月2日	1882	横帳	1	講・趣法	
箱21							
17001	奉願口上之覚 (誓願時無住について掛持勤願)	寛政10年9月	1798	長帳	1	寺	
17002	京都本山清浄華院ヨリ神門寺江被遣候御書面写し并神門寺ヨリ請書案文共	巳7月		帳	1	寺	
17003	誓願時一途 藤間	慶応3年1月	1867	袋	1	寺	紙11、長帳2、綴1
17004	奉願口上之覚 (杵築誓願寺)	安政5年1月0月	1858	紙	1	寺	
17005	誓願寺住職願書	明治3年9月	1870	書状	1	寺	
17006	奉願口上之覚 (誓願寺本堂成就)	安政5年1月1月	1858	紙	1	寺	
17007	餞別控 誓願寺内得全	文久2年1月0月	1862	長帳	1	寺	
17008	(誓願寺住職無住について)御内々演説之代	明治元年9月	1868	紙	2	寺	
17009	(誓願寺本堂造立について)奉願口上之覚	安政4年5月	1857	紙	1	寺	紙1
17010	誓願寺支配書類入			袋	1	寺	紙1
18001	楯縫郡石高番付	文化14年6月	1817	折紙		交際	
18002	入木道口授			書冊		交際	(和歌入門書)

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
18003	到来物并進物帳	明治19年1月~明治20年12月	1886-1887	長帳	1	交際	
18004	到来進物帳	明治21年正月~明治26年	1888-1893	長帳	1	交際	
18005	未冬進物酒差引帳	安政6年12月	1859	長帳	1	交際	
18006	第一号暮方資本			長帳	1	交際	
18007	巳歳末進物帳 藤間店弥平控	明治2年12月	1869	横帳	1	交際	
18008	卯盆掛取帳 藤間	明治12年	1879	横帳	1	交際	
18009	掛取帳 藤間	明治12年1月	1879	横帳	1	交際	
18010	巳松江中元勤帳 藤間	明治2年7月	1869	横帳	1	交際	
18011	寅盆掛取帳 藤間	明治11年	1878	横帳	1	交際	
18012	戌中元向勤帳 藤間儀助控	戌年7月		横帳	1	交際	
18013	巳松江中元勤帳 藤間	明治2年7月	1869	横帳	1	交際	
18014	辰中元進物帳 藤間	明治13年8月	1880	横帳	1	交際	
18015	午歳末帳 藤間	明治3年	1870	横帳	1	交際	
18016	未歳末帳 藤間	明治4年	1871	横帳	1	交際	
18017	午中元進物帳 藤間店	明治3年	1870	横帳	1	交際	
18018	酉歳末書出し帳 藤間	慶応3年12月	1867	横帳	1	交際	
18019	辰歳末書出し帳	明治元年12月	1868	横帳	1	交際	
18020	申五月出府之節廻勤控	万延元年5月	1860	横帳	1	交際	
18021	未十一月松府万留	安政6年1月20日	1859	横帳	1	交際	
18022	寅歳末書出し帳 多蔵控	慶応2年12月	1866	横帳	1	交際	
18023	申中元進物帳 藤間	明治5年7月	1872	横帳	1	交際	
18024	未中元進物控 藤間店	明治4年	1871	横帳	1	交際	
18025	卯中元進物帳	明治12年8月	1879	横帳	1	交際	
18026	01 丑中元進物帳 藤間	明治10年8月	1877	横帳	1	交際	
18026	02 明治十年丑中元書出帳 藤間			横帳	1	交際	合冊
18026	03 丑歳末進物帳 藤間	明治10年1月	1877	横帳	1	交際	
18027	01 子中元進物帳 藤間	明治9年8月	1876	横帳	1	交際	
18027	02 諸人日数書出帳 藤間	明治9年1月26日~8月31日	1876	横帳	1	交際	
18027	03 子歳末勤帳	明治10年2月	1877	横帳	1	交際	
18027	04 明治九丙子十二月給銀書出帳 藤間			横帳	1	交際	
18028	寅中元進物帳 藤間	明治11年8月	1878	横帳	1	交際	
18029	辰中元勤帳	慶応4年	1868	横帳	1	交際	
18030	巳中元進物控 藤間店	明治2年	1869	横帳	1	交際	
18031	富永喜保比屋敷懸合書類入	明治12年1月	1879	袋	1	交際	紙4、綴1、罫紙綴2
18032	01 戌中元進物帳 藤間	明治7年7月	1874	横帳	1	交際	合冊
18032	02 戌ノ中元勤帳 藤間	明治7年7月	1874	横帳	1	交際	合冊
18033	01 酉中元進物帳 藤間	明治6年7月	1873	横帳	1	交際	
18033	02 酉七月臨時雇書出帳 藤間	明治6年	1873	横帳	1	交際	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
18034	藤間悦子死去祭資料簿	明治41年 12月	1908	長帳	1	交際	
18035	寛左衛門藤堅死去取扱向役割人名録 藤間源左衛門藤愛	明治9年3 月10日	1876	長帳	1	交際	
18036	悔帳 藤間太郎右衛門妻祝部千 代死去	明治20年 7月	1887	長帳	1	交際	
18037	祭料簿 藤間源左衛門死去之 際	明治43年8 月9日	1910	長帳	1	交際	
18038	太郎右エ門藤元寿誉励仁藤元居 士野送一途 藤間	安政3年5 月26日	1856	袋	1	交際	長帳8
18039	(御悔帳力)			長帳		交際	
18040	藤間悦子病中・死去・五十日祭 諸費用帳 藤間源左衛門藤愛	明治43年 12月	1910	長帳	1	交際	
18041	電報 四十三年八月九日源左衛 門死去通知	(明治)43 年8月	1910	長帳	1	交際	
18042	(御悔帳力)	(明治)43 年8月	1910	長帳	1	交際	
18043	法事諸払	午4月28日 ・29日		長帳	1	交際	
18044	返礼帳 最誉勝蓮居士 藤間久 左衛門忌明	天保2年3 月16日	1831	長帳	1	交際	
18045	小払帳	享和3年6 月23日	1803	長帳	1	交際	
18046	香典帳 藤間儀兵衛死去	文化2年6 月24日	1805	長帳	1	交際	
18047	永隆院月請宗感居士様二百年回 忌法事執行諸入用払帳 藤間	万延元年1 0月25日・ 26日	1860	長帳	1	交際	
18048	小払帳	文化2年6 月24日	1805	長帳	1	交際	
18049	御悔音物留 行誉了正大姉	文化10年 6月12日	1813	長帳	1	交際	
18050	野寺参詣帳 葬式見繕頭新十・ 助六・勘六	文化10年 6月13日	1813	長帳	1	交際	
18051	諸払帳 行誉了正大姉	文化10年 6月12日	1813	長帳	1	交際	
18052	返礼順行帳	酉8月13日		長帳	1	交際	
18053	千代死去取扱向役割人名録 藤 間源左衛門藤愛	明治20年 7月15日	1887	長帳	1	交際	
18054	(月請宗感居士二百遠回ニ付地 蔵尊建立の件)	万延元年4 月26日	1860	袋	1	交際	長帳1
18055	藤間太郎右衛妻祝部千代死去 諸入費簿	明治20年 7月15日	1887	長帳	1	交際	
18056	久左エ門藤安妻 廓誉了正大姉 野送一途 藤間	文化10年 6月12日	1813	袋	1	交際	長帳4
18057	藤間久左エ門吉明最誉勝蓮居士 野送一途 藤間	天保2年1 月15日	1831	袋	1	交際	袋のみ
18058	永隆院様二百年忌諸払帳入 藤間	万延元年1 0月25日・ 26日	1860	袋	1	交際	袋のみ
18059	藤間廣三郎妻シケ 心誉貞深大 姉野送一途 藤間	弘化4年9 月23日	1848	袋	1	交際	長帳8
18060	三月七日ヨリ十五日マテ諸払帳 聳入法事正儀寅年中払帳 藤 間	明治11年 5月	1878	長帳	1	交際	
18061	払物帳	明治10年 8月	1877	横帳	1	交際	
18062	最誉勝蓮吉明居士天保二卯正月 十五日 五十回忌・寿誉励仁藤 元居士安政二辰五月二十六日 二十五回忌・大誉義詮政口信士 安永九子六月八日 百回忌・積 誉秀善信士安永九子二月三日 百回忌法記	明治13年 6月2・3日	1880	長帳	1	交際	
18063	(蓮誉妙生貞安大姉 四十九日 忌明日 諸入費払帳)	明治10年 5月23日	1877	長帳	1	交際	
18064	蓮誉妙生貞安大姉 諸入費払帳	明治10年 5月	1877	長帳	1	交際	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
18065	理復童子 百五十回忌 十一月 十六日・証譽暁復童子 九十回 忌 四月九日・好譽妙相大姉 三十三回忌 三月二十五日・蓮 譽妙生貞安大姉 三回忌 五月 二十三日法事音物帳	明治12年 5月23日	1879	長帳	1	交際	
18066	小払帳 藤間店	明治12年 11月5日	1879	長帳	1	交際	
18067	仏事記 藤間氏	文化元年	1803	横帳	1	交際	
18068	御先代藤元様三回忌并木幡御袋 様御越五月晦日宅野藤間御越之 節諸入用帳二冊入 藤間店	安政5年4 月、5月	1858	袋	1	交際	横帳4
18069	野辺順次第	天保2年1 月15日	1831	紙	1	交際	
18070	野辺順次第	丑6月24日		紙	1	交際	
18071	野辺順次第	文化10年 6月12日	1813	紙	1	交際	
18072	藤愛追悼祭書	明治44年 7月	1911	袋	1	交際	綴2
18073	01 藤間宛(支払請求書付)			綴	1	交際	
18073	02 (藤間宛請求証明書付)			綴	1	交際	
18074	(献立)			紙	1	交際	
18075	払口			紙	1	交際	
18076	献立	4月		紙	1	交際	
18077	献立	3月		紙	1	交際	
18078	(藤間宛石工嘉重見積書)議定 為書之事	3月		紙	2	交際	
18079	01 (藤間宛請求書付)			紙	5	交際	
18079	02 (給銀書出)			紙	1	交際	
18079	03 (忌明献立)			紙	1	交際	
18079	04 (藤間宛請求書付)	子4月		紙	1	交際	
18080	02 (寺物品目録)			紙	1	交際	雑3
18080	03 (出立費用の件に付誓願寺世話 人宛之状)	戌11月19 日		紙	1	交際	
18080	04 (藤間屋甚六宛物品預り状)	2月10日		紙	1	交際	
18080	(給銀書付カ)			紙	1	交際	
18081	(仮名娘書付)			綴	1	交際	
18082	(藤間宛石工文太郎請求書)	6月		紙	1	交際	
18083	(百ヶ目)献立	6月		紙	1	交際	
18084	(藤間宛山陽屋代銀請求書付)	5月		紙	1	交際	
18085	(藤間宛請求書付)	4月		紙	1	交際	
18086	献立			紙	7	交際	
18087	01 (藤間御越ノ砌)	6月		紙	1	交際	雑7
18087	02 御法事木幡御代江頭御越ノ砌			長帳 横	1	交際	
18088	戊年歳末帳	明治8年2 月5日	1875	横半	1	交際	
18089	(藤間宛橋屋久助代銭覚)			紙	1	交際	
18090	(和布代銭書付)			紙	1	交際	
18091	吉凶			書冊	1	交際	
箱22							
19001	巳霜月書類	明治2己巳 11月	1869	袋	1	その他	
19002	社御殿差引帳・山根十兵衛差引 帳・□□□差引帳共入			袋	1	その他	
19003	大道要義	明治14年1 0月30日	1881	書冊	1	その他	
19004	萬国新話 一	明治紀元 仲冬刻		書冊	1	その他	
19005	改正 洋算例題答式 卷三	不明		書冊	1	その他	
19006	修徳園記	明治20年 春晚	1887	書冊	1	その他	
19007	島根県令月報(第1号~9号)	明治19年1 2月28日~ 20年8月13 日	1886 -188 7	書冊	9	その他	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
19008	近事評論(第395号~406号)	明治15年7月3日~8月28日	1882	書冊	11	その他	401号欠
19009	(曆綴り・慶応2~明治10年)	慶応元年~明治9年	1865-1876	書冊	10	その他	慶応3、明治6欠
19010	西洋衣食住 完	不明		書冊	1	その他	
19011 01	証書扣	子年		袋	1	その他	袋3、雑11
19011 02	酒御通	午年		袋	1	その他	雑8
19011 03	酒御通	不明		袋	1	その他	雑23
箱23							
19012	三木氏御目見之由来旧記書抜	不明		長帳	1	その他	
19013	木幡久右衛門寸志芳書出し并申立演説書写し	慶応元年7月	1865	書冊	1	その他	
19014	(証文写し綴)	不明		書冊	1	その他	
19015 01	未7月松江方通ひ藤間四郎受拂帳	明治4年10月16日	1871	長帳	1	その他	
19015 02	(諸事覚書綴)	不明		長帳	1	その他	
19015 03	(諸役向伺書状)	11月23日		紙	1	その他	
19015 04	(諸役太切ニテ相勤者之覚写)	不明		紙	1	その他	
19016	自由党代議士報告書	明治26年1月	1893	書冊	1	その他	
19017	山陰新聞	明治15年5月1日	1882	紙	1	その他	
19018	山陰新聞	明治16年4月4日	1883	紙	1	その他	
19019	山陰新聞	明治16年3月25日	1883	紙	1	その他	
19020	山陰新聞	明治18年2月17日	1885	紙	1	その他	
19021	山陰新聞	明治16年4月2日	1883	紙	1	その他	
19022	山陰新聞附録(新官制)	明治26年1月5日	1893	紙	1	その他	
19023	山陰新聞附録(神州之男児福島少佐)	明治26年2月11日	1893	紙	1	その他	
19024	山陰新聞	明治26年1月5日	1893	紙	1	その他	
19025	山陰新聞	明治24年1月3日	1891	紙	1	その他	
19026	山陰新聞附録(貴族院・衆議院議員氏名表)	明治23年1月25日	1890	紙	2	その他	
19027	今市人暴動の顛末	明治33年4月6日	1900	紙	3	その他	第3中学移転につき
19028	碧雲一条姓名録	不明		紙	1	その他	
19029	山陰新聞第1290号附録(帝国議会仮議事堂階上・下図)	明治23年1月4日	1890	紙	1	その他	
19030	時事新報	明治18年1月20日	1885	紙	2	その他	
19031	時事新報	明治18年1月15日	1885	紙	1	その他	
19032	時事新報	明治18年1月16日	1885	紙	1	その他	
19033	時事新報	明治18年1月17日	1885	紙	1	その他	
19034	時事新報	明治18年1月19日	1885	紙	1	その他	
19035	大梶朝泰氏土功碑建設主意書	明治25年1月2月	1892	紙	1	その他	
19036	東京日日新聞	明治26年1月0月26日	1893	紙	1	その他	
19037	東京日日新聞	明治26年1月22日	1893	紙	1	その他	
19038	山陰新聞第2464号附録(新選衆議院議員一覽表)	明治27年3月15日	1894	紙	1	その他	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
19039	大阪毎日新聞	明治27年1月3日	1894	紙	1	その他	
19040	朝野新聞 「小作人を論ず」	明治18年5月26日	1885	紙	1	その他	
19041	万心覚控	嘉永3年4月	1850	横帳	1	その他	
19042	大地震三付諸事留 藤間内	2月		横帳	1	その他	
19043	仕出し覚控	明治8年3月	1875	紙	1	その他	
19044	01 地券書換願	明治19年	1886	綴	1	その他	
19044	02 神西村東分所の地道路屋敷成控			綴	1	その他	
19044	03 第四十区杵築村字中市場千四十八番建物			紙	1	その他	
19044	04 地券状引直願			綴	1	その他	
19044	05 地券状引直願	明治11年2月	1878	綴	2	その他	
19044	06 (杵築東・南村地価地租書付)			紙	2	その他	
19045	01 定約証	明治22年3月	1889	紙	1	その他	
19045	02 田畑売渡定約証	明治22年3月	1889	綴	1	その他	
19045	03 田畑売渡定約証	明治22年3月	1889	綴	1	その他	
19045	04 借入金証	明治22年1月	1889	綴	1	その他	
19045	05 訂約証	明治30年5月	1897	紙	1	その他	
19045	06 三十年代神西村税第一部之記	明治30年7月	1897	紙	1	その他	
19045	07 受取証書	明治31年1月	1898	紙	1	その他	
19045	08 01 神西村耕地売渡之記	明治20年	1887	綴	1	その他	
19045	08 02 神西村田地計算記			綴	1	その他	
19045	08 03 神西村大字東分字宮後第九百四十二番			綴	1	その他	
19045	09 予約書	明治30年4月	1897	紙	1	その他	
19045	10 仮訂約証	明治30年4月	1897	綴	1	その他	
19045	11 仮訂約証	明治20年4月	1887	綴	1	その他	
19045	12 約定証	明治30年	1897	綴	1	その他	
19045	13 (書簡)	明治30年6月	1897	紙	1	その他	
19045	14 神門郡神西東分三百参十五番字書抜			紙	1	その他	
19045	15 (土地買取証)	明治30年5月	1897	紙	1	その他	
19045	16 素取証	明治20年6月	1887	紙	1	その他	
19045	17 地所売渡証	明治30年7月	1897	綴	1	その他	
19045	18 地所売渡議定証	明治30年5月	1897	綴	1	その他	
19046	区会所差出し控	明治12年2月	1879	綴	1	その他	
19047	地所売渡証	明治11年1月	1878	紙	1	その他	
19048	借用証券	明治15年1月0月	1882	綴	1	その他	
19049	家屋敷地売渡約定証	明治11年4月	1878	紙	1	その他	
19050	地所名前替願	明治9年	1876	綴	1	その他	
19051	地所売買訂約書	明治9年3月	1876	紙	6	その他	
19052	神西湖水代原田証書御取調二付証書	明治7年9月	1874	綴	1	その他	
19053	御請一相之事	明治7年8月	1874	紙	2	その他	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
19054	従前首家へ御引受之覚証書類不 残近日証文御持参之節御渡可被 下候也			紙	1	その他	
19055	(地券証印税納入証)	明治11年9 月	1878	紙	1	その他	
19056	山林売買願	明治10年2 月	1877	綴	1	その他	
19057	地所売買約定証			綴	1	その他	
19058	地所売買約定証			綴	1	その他	
19059	溜井地所譲渡訂約証			綴	1	その他	
19060	山林売買証			綴	1	その他	
19061	01 十ヶ年季売渡畑之事	安政4年9 月	1857	綴	1	その他	
19061	02 畑地私有ヲ得度願	明治9年7 月	1876	綴	1	その他	
19061	03 官地拝借名前替願	明治9年	1876	綴	1	その他	
19061	04 地所名前替願	明治9年3 月	1876	綴	1	その他	
19062	(金出入書留帳)			長帳	2	その他	
19063	(金出入書留帳)			長帳	1	その他	
19064	(掛金書付)			長帳	1	その他	
19065	(各村田畑土地台帳)			長帳	1	その他	
19066	(各所有地地価書付)			長帳	1	その他	
19067	(材木等代金書付)			長帳	3	その他	
19068	証書類入	12月		袋	1	その他	封書1・紙 33・綴1・ 書簡1
19069	01 売地相対約定書	明治11年1 月	1878	綴	1	その他	
19069	02 売地相対約定書	明治11年1 月	1878	綴	1	その他	
19069	03 売地相対約定書	明治11年1 月	1878	綴	1	その他	
19069	04 売地相対約定書	明治11年1 月	1878	綴	1	その他	
19070	議定仕出し記	明治9年12 月	1876	紙	1	その他	
19071	建物地所売買訂約証	明治11年8 月	1878	綴	1	その他	
19072	宗門改寺手形 御扶持米請取取 出控 藤間寛左エ門藤堅	慶応4年	1868	書冊	1	その他	
19073	01 宗門改 (家内宗門書出し)	明治3年4 月	1870	紙	1	その他	
19073	02 宗門改 (家内宗門書出し)	慶応4年4 月	1868	紙	1	その他	
19073	03 宗門改 (家内宗門書出し)	明治2年8 月	1869	紙	1	その他	
19074	宗門御改	明治2年8 月	1869	紙	1	その他	
19075	御内々演説之代 (木佐謙三郎 について)			紙	1	その他	
19076	宗門改 (家内宗門書出し)	天保5年3 月	1834	紙	1	その他	
19077	見積帳			綴	1	その他	紙3
19078	木綿上方登也主法書			紙	1	その他	
19079	富会所願番之覚			紙	2	その他	
19080	島津左府上表二章			書冊	1	その他	
19081	曙光八月号			書冊	1	その他	
19082	(糶六升搗掛書状)	已1月		紙	1	その他	
19083	(藤間家宛書状)	1月29日		紙	1	その他	
19084	(梅月屋利平より藤間家宛牛房一 己代金書付)	已1月		紙	1	その他	破損大
19085	(藤間家宛大豆四斗代金書付)	已1月		紙	1	その他	
19086	(岡垣太平より藤間家宛届物書付)	已1月		紙	1	その他	
19087	(佐野豊太郎より藤間家宛牛蒡代 金書付)	已1月		紙	1	その他	
19088	(山本新治郎より藤間家宛代金書 付)	已1月		紙	1	その他	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
19089	(山田屋吉左衛門より藤間家宛かつお代書付)	巳1月		紙	1	その他	
19090	(横山平吉より藤間家宛諸代金書付)	巳1月29日		紙	1	その他	
19091	(岩井屋井平より藤間家宛代金請取書付)	1月19日		紙	1	その他	
19092	(佐藤屋森之助より本藤間家宛大豆代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19093	(川上屋長三郎より本藤間家宛代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19094	(植田徳三郎より本藤間家宛明り油代代金書付)	明治14年1月	1881	紙	1	その他	破損
19095	(本藤間家宛書付)	巳1月		紙	1	その他	破損
19096	(西代屋彦二郎より藤間家宛海産物代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19097	(北登口代吉治助より本藤間家宛代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19098	(金元吉平より本藤間家宛代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19099	(森愛蔵より藤間家宛かさ代ほか代金書付)	明治14年1月29日	1881	紙	1	その他	
19100	(藤間家宛書付)	1月		紙	1	その他	
19101	(森田庄左衛門より藤間家宛樟脳ほか代金書付)	明治14年1月	1881	紙	1	その他	
19102	(丸屋徳三郎より藤間家宛文縮緬代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19103	(森山万四郎より藤間家宛代金書付)	辰旧12月		紙	1	その他	
19104	(吉井万右衛門より藤間家宛下男賃金書付)	巳1月		紙	2	その他	
19105	(鈴成与衛より藤間家宛のりほか代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19106	(森山長之助より藤間家宛かんざしほか代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19107	(小林甚三郎より藤間家宛代金書付)	1月29日		紙	1	その他	
19108	(坂本覚助より藤間家宛代金書付)「杵築口田屋市場」黒印有	巳1月29日		紙	1	その他	
19109	(藤井又右衛門より藤間家宛代金書付)	明治14年1月	1881	紙	1	その他	
19110	(中尾増蔵より藤間家宛豆腐・油あげ等代金書付)	1月28日		紙	1	その他	
19111	(大村口助より藤間家宛代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19112	(山崎久平より藤間家宛代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19113	(中山屋定四郎より藤間家宛ぶどう改木六尺ほか代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19114	(祝部善右衛門より本藤間家宛代金書付)	1月29日		紙	1	その他	
19115	(楠甚より藤間家宛代金書付)	巳1月29日		紙	1	その他	
19116	(加藤口蔵より大藤間家宛代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19117	(大口より藤間家宛おび他代金書付)	明治14年1月1月21日		紙	1	その他	
19118	(加藤宗二郎より藤間家宛諸代金書付)	巳1月30日		紙	1	その他	
19119	(上田止三郎より藤間家宛米代金書付)	明治14年1月		紙	1	その他	
19120	(佐口口助次郎より藤間家宛代金書付)	明治14年1月		紙	1	その他	
19121	(元嶋屋平七より藤間家宛杉メ縮緬他代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19122	(藤間家宛代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19123	(小林甚三郎より藤間家宛代金書付)	辰12月		紙	1	その他	
19124	(坂本覚助より藤間家宛種初かつお他代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19125	(本田定右衛門より藤間家宛代金書付)	巳1月		紙	1	その他	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
19126	(煙草屋幸右衛門より藤間家宛代金書付)	明治14年1月		紙	1	その他	
19127	(藤間家宛餅米小豆代金書付)	辰12月		紙	1	その他	
19128	(米屋善太郎より藤間家宛米唐びろうど他代金書付)	1月29日		紙	1	その他	
19129	(米屋善太郎より藤間家宛代金書付)	1月29日		紙	1	その他	
19130	(小村嘉和より藤間家宛どんす唐縞天他代金書付)	1月29日		紙	1	その他	
19131	(金見屋直之助より藤間家宛ゆき平他代金書付)	巳1月		紙	1	その他	
19132	(藤間家子祝儀他近況)			切紙	1	その他	
19133	極内用他見無用			切紙	1	その他	
19134	(断簡、小古地重三郎より藤間様宛)			紙	1	その他	
19135	(下ノ関約入用・賃銭等受取証文)	戌10月12日		切紙	1	その他	
19136	(修理免方米代差引相済)覚	(戌カ)9月		切紙	1	その他	
19137	(米代銭)覚	戌9月28日		切紙	1	その他	
19138	(年寄中宛)他国米方書付(木綿)	戌9月26日		切紙	1	その他	
19139	(年寄理三兵衛)改割所務書出し之覚	子12月		切紙	1	その他	
19140	(納税証書)	明治5~15年	1872-82	紙	6	その他	
19141	(唐小豆・非金巾・生金巾長崎仕入につき伺い)			紙	1	その他	
19142	協議費			紙	1	その他	
19143	(金銭受渡状)	申7月10日		紙	1	その他	
19144	(納税証書)			紙	1	その他	
19145	珊瑚珠八十			紙	1	その他	
19146	覚(金砂石百六十)			紙	1	その他	
19147	(納税証書)			紙	1	その他	
19148	年事	5月16日		紙	1	その他	
19149	(和歌書付)	不明		紙	1	その他	
19150	星合のそら			紙	1	その他	
箱24							
26001	赤塚・大土地村釣魚口銭取立上納目録	明治2巳八月	1869	書冊		諸税・貢粗	
26002	御米代上納通	未5月		綴	1	諸税・貢粗	
26003	地所代榎願	明治11年7月	1878	綴	1	諸税・貢粗	
26004	辰納御米并代銭			長帳	1	諸税・貢粗	
26005	丑納御米引受高并ニ上納銭差引残り			長帳	1	諸税・貢粗	
26006	村費証書入	戌年		紙	9	諸税・貢粗	
26007	山野地租年賦延物証書			罫紙	1	諸税・貢粗	
26008	戌納畑年貢取立帳			長帳	1	諸税・貢粗	
26009	亥暮屋敷地残取立帳 藤間			長帳	1	諸税・貢粗	
26010	子年畑方麦年貢書出取立帳 藤間	明治9年6月	1876	長帳	1	諸税・貢粗	
26011	丑年畑方麦年貢書出取立帳 藤間	明治10年6月	1877	長帳	1	諸税・貢粗	
26012	亥納米差引記	明治9年10月	1876	長帳	1	諸税・貢粗	年月は朱筆
26013	01 嘉永三戌十二月廿一日御勝手方御吟味方両役所江差出候控	嘉永3戌12月21日	1850	袋	1	諸税・貢粗	袋1、他7

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
26013 02	御買入他国米代銀惣勘定控		1850	長帳	1	諸税・貢粗	
26013 03	他国米代金間損書出帳		1850	長帳	1	諸税・貢粗	
26013 04	他国米買入諸雑用書出し帳		1850	長帳	1	諸税・貢粗	
26013 05	他国米売捌代錢		1850	長帳	1	諸税・貢粗	
26013 06	他国米御買入表数差引運賃下持控		1850	長帳	1	諸税・貢粗	
26013 07	他国米差引頭書控		1850	長帳	1	諸税・貢粗	
26014	両社中支配修理免村旅人宿駅役一件ニ付口上書差出し控	天保15年甲辰7月	1844	綴	1	諸税・貢粗	
26015	杵築町壺番御用宿順番之儀ニ付大村覚三郎ヨリ故障申立演説書差出し候ニ付柳原善兵衛手錢白三郎ヨリ返答書差出し候ニ付御差函ニ相成并覚三郎方先年ヨリ御外聞之御書附写し	文久2戊2月	1862	綴	1	諸税・貢粗	
26016	杵築御用家新建入用錢許借願	文久3亥年9月	1820	綴	1	諸税・貢粗	
26017	(杵築七ヶ村反別及貢米書き上げ)			綴	1	諸税・貢粗	
26018	御用米代錢差引并ニ御目当物書出帳	嘉永5壬子9月	1852	綴	1	諸税・貢粗	
26019	(松府出入差引帳)	慶応3卯1~10月	1867	長帳	1	諸税・貢粗	表紙欠
26020	(松府出入差引帳)	慶応3年カ卯1~10月	1867	長帳	1	諸税・貢粗	表紙欠
26021	辰正月ヨリ十二月マテ松江勘定差引帳	慶応4年	1868	長帳	2	諸税・貢粗	
26022	卯正月ヨリ十二月マテ松江勘定	慶応3年	1867	長帳	2	諸税・貢粗	
26023	神門郡但下村之未納御蔵預目録	明治4年12月	1871	書冊	1	諸税・貢粗	
26024	未納御用米差纏一件ニ付書預写	文久2年10月	1862	書冊	1	諸税・貢粗	
26025	未納御用米差纏一件ニ付書預写	万永元年7月	1860	書冊	1	諸税・貢粗	
26026	亥納畑年貢取立帳 藤間	明治20年6月	1887	長帳	1	諸税・貢粗	
26027	区費取立帳	明治7年1月~明治9年12月	1874-1876	長帳	1	諸税・貢粗	
26028	藤間穂左衛門設立講小受取証書数葉	明治10年9月以降	1877	袋	1	諸税・貢粗	証書類在中
26029	申十一月十一日扣(金銭借用証)	申11月11日		紙	1	諸税・貢粗	
26030	申十二月廿三日書出し扣(金銭借用証)	申12月23日		紙	1	諸税・貢粗	
26031	記(領収書)	明治10	1877	仮綴		諸税・貢粗	
26032	証(領収書)	明治10	1877	仮綴		諸税・貢粗	
26033	記(領収書)	明治10	1877	仮綴		諸税・貢粗	
26034	証(領収書)	明治10	1877	仮綴		諸税・貢粗	
26035	証	子7月		切紙	継	諸税・貢粗	
26036	証	7月13日		切紙	継	諸税・貢粗	
26037	証	子7月		切紙	継	諸税・貢粗	
26038	覚(領収書)	安政3~6年	1856~59	仮綴		諸税・貢粗	
26039	覚(領収書)	安政2~6年	1855~59	仮綴		諸税・貢粗	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
26040	覚(領収書)	安政3年7月	1856	切紙		諸税・貢	
26041	相□□□上分手形□預張	年不明		切紙		諸税・貢	
26042	(預り手形)	安政3~5年		仮綴		諸税・貢	
26043	覚(領収書)	万延元	1860	切紙		諸税・貢	
26044	(算用帳)	年不明		縦紙		諸税・貢	
26045	覚(算用帳)	子4月11日		切紙		諸税・貢	
26046	覚	年不明		切紙		諸税・貢	
26047	覚	8月20日		切紙		諸税・貢	
26048	(領収書)	年不明		仮綴		諸税・貢	
26049	覚(領収書)	年不明		仮綴		諸税・貢	
26050	覚(領収書)	嘉永5年	1852	仮綴		諸税・貢	
26051	米錢受取書也	年不明		仮綴		諸税・貢	
26052	米又受取書	年不明		仮綴		諸税・貢	
26053	覚(領収書)	安政4年	1857	仮綴		諸税・貢	
26054	覚(御用書受取)	文久3など		仮綴		諸税・貢	
26055	大丸屋助一右衛門小内沖衛銀借受取一件書類	□月10日		切紙		諸税・貢	
26056	大丸屋助一右衛門小内沖衛□りの一件書類	8月10日		切紙		諸税・貢	
26057	御控	9月7日		切紙		諸税・貢	
26058	上社原村神主吉岡肥後守杵築大丸屋助一右衛門□□え一件	亥3月3日		切紙		諸税・貢	
26059	奉願演説元覚	万延2年西2月	1861	切紙		諸税・貢	
26060	奉願演説事	申11月		切紙		諸税・貢	
26061	十一月十二日□□ヨリ□之状	11月12日		切紙		諸税・貢	
26062	覚(算用帳)	午11月		切紙		諸税・貢	
26063	奉歎願口上之覚	申5月		切紙		諸税・貢	
26064	長谷川・井川宛書状	年不明		切紙		諸税・貢	
26065	書状	11月8日		切紙		諸税・貢	
26066	断簡	年不明		断簡		諸税・貢	
26067	村役人ヨリ書状	9月15日		切紙		諸税・貢	
26068	関御旦那様宛書状	9月8日		切紙		諸税・貢	
26069	杵築町節米願書写	9月16日		切紙		諸税・貢	
26070	願申上御米代銀之事	年不明		切紙		諸税・貢	
26071	藤間勇蔵宛藤間源左衛門書状	9月21日		切紙		諸税・貢	
26072	藤間勇蔵宛藤間源左衛門書状	9月22日		切紙		諸税・貢	
26073	藤間勇蔵宛藤間源左衛門書状	9月23日		切紙		諸税・貢	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
26074	藤間勇蔵宛藤間源左衛門書状	9月19日		切紙 継		諸税・貢	
26075	藤間勇蔵宛藤間源左衛門書状	年不明		切紙 継		諸税・貢	
26076	(嘆願書)	9月20日		切紙 継		諸税・貢	
26077	十一月八日松江ヨリ願之状	11月8日		切紙 継		諸税・貢	
26078	十一月十一日松江ヨリ願之状	11月11日		切紙 継		諸税・貢	
26079	(松江ヨリ願之状カ)	年不明		切紙 継		諸税・貢	
26080	御用	4月22日		切紙 継		諸税・貢	
26081	覚	4月23日		切紙		諸税・貢	
26082	覚	年不明		切紙 継		諸税・貢	
26083	(松府ヨリ願状)	4月22日		切紙 継		諸税・貢	
26084	(□□屋家三書状)	年不明		切紙 継		諸税・貢	
26085	(謝礼状)	年不明		切紙		諸税・貢	
26086	藤間龍蔵宛菅井新右衛門書状	年不明		切紙 継		諸税・貢	
26087	午閏十月廿日□龍丸状乃書写	閏10月20日		切紙 継		諸税・貢	
26088	午閏十月廿日□龍丸別紙	閏10月20日		切紙 継		諸税・貢	
26089	弥兵衛宛龍丸書状	年不明		切紙 継		諸税・貢	
26090	藤間龍蔵宛油屋文平書状	閏10月21日		切紙 継		諸税・貢	
26091	藤間旦那様宛龍蔵書状	12月20日		切紙 継		諸税・貢	
26092	船切手祝丸六三郎六人衆	天保15年辰1月	1844		1	諸税・貢	
26093	(静岡新聞第五号写)			紙	1	諸税・貢	
26094	宇家忠兵衛願書	万延2年酉1月	1861	紙	1	諸税・貢	
26095	六ヶ村年寄役御願富方より御□□被下候間願書大年寄控	安政4未10月	1857	紙	1	諸税・貢	
26096	(桶等道具貸借の件につき)覚	文久3亥12月	1863	紙	1	諸税・貢	
26097	(売買為替に関する)覚	巳5月5日		紙	1	諸税・貢	
26098	今般杵築支配替ニ相成候ニ付始而寺社役所より御書付	明治2年巳2月1日	1869	紙	1	諸税・貢	
26099	大年寄覚三郎より神社役人中へ差出候演説書控	9月2日		紙	1	諸税・貢	
26100	源左衛門から覚三郎宛「覚」あり酒五拾石他国出し御免御奉行様尊書			紙	1	諸税・貢	
26101	(売買に関する又兵衛宛書状)	6月24日		紙	1	諸税・貢	
26102	(船吉凶占)			紙	1	諸税・貢	
26103	家助・三郎左衛門書状	丑2月		切紙 継		諸税・貢	
26104	書付	年不明		切紙		諸税・貢	
26105	(田畑数人別書付)	亥6月10日		切紙 継		諸税・貢	
26106	覚(藤間家由緒)	亥7月		切紙		諸税・貢	
26107	(田畑数人別帳)	8年12月22日		仮綴		諸税・貢	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
26108	覚(引換手形)	明治4未2月27日		切紙		諸税・貢粗	
26109	覚(受取証文)	明治4未7月22日		切紙		諸税・貢粗	
26110	覚(受取証文)	明治4未7月13日		切紙		諸税・貢粗	
26111	覚(算用帳)	年不明		切紙		諸税・貢粗	
26112	小池龍蔵宛松尾大四郎書状	3月10日		切紙 継		諸税・貢粗	
26113	山崎屋久平書状	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26114	覚(受取証文)	午1月22日		切紙 継		諸税・貢粗	
26115	書状	2月2日		切紙 継		諸税・貢粗	
26116	(家間口書上)	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26117	書付	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26118	藤間又兵衛宛寛宝丸ニテ富太郎書状	6月24日		切紙 継		諸税・貢粗	
26119	願望依頼	年不明		切紙		諸税・貢粗	
26120	議書出之覚(絵図つき)	安政6未8月		切紙 継		諸税・貢粗	
26121	御米代差引控	未5月11日		切紙 継		諸税・貢粗	
26122	寅年四十六才之男融通講加入頼入有無吉凶之断	20年3月年不詳		仮綴		諸税・貢粗	
26123	五月一日ヨリ十二日迄勘定書	年不明		切紙		諸税・貢粗	
26124	去十二月二日ヨリ当五月十二日迄惣勘定	年不明		切紙		諸税・貢粗	
26125	(勘定書)	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26126	覚(勘定書)	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26127	(図面)	年不明		竪紙		諸税・貢粗	
26128	記	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26129	(書出帳)	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26130	(勘定書)	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26131	(建築経費書上)	年不明		仮綴		諸税・貢粗	
26132	覚	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26133	(小池龍蔵宛井川丹市書状)	亥2月28日		切紙 継		諸税・貢粗	
26134	古金松江ニテ口遣差引書	2月7日		切紙 継		諸税・貢粗	
26135	明治七戌年御屋敷御目録	明治7年		切紙 継		諸税・貢粗	
26136	龍蔵宛高状	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26137	小池龍蔵宛内田徳口書状	12月11日		切紙 継		諸税・貢粗	
26138	(御用米差引控)	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26139	(願書)	明治口年1月12日		切紙 継		諸税・貢粗	
26140	(連歌)	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	
26141	(吉凶占)	年不明		切紙 継		諸税・貢粗	

文書番号	史料標題	年月	西暦	形態	数量	分類	備考
26142	(占)	年不明		竪紙		諸税・貢粗	
26143	高岡稲岡上納帳 杵築藤間穂左衛門	明治13年10月より	1880	横帳	1	諸税・貢粗	
箱25							
27001	寛政年中ヨリ是迄五十年来御差 縫之御論山此度中濟取扱仕書附 取替書類写	嘉永4辛亥5月	1851	綴	1	争論・騒動	
27002	杵築馬士今市馬士与差縫出来候 訴書一途	元治2丑年	1865	綴	1	争論・騒動	
27003	大鳥居置屋宿屋差縫一件二付兩 方ヨリ断申出已来口合書控	文久元酉10月	1861	綴	1	争論・騒動	
27004	御愁訴申上演説書	嘉永6年丑10月	1853	綴	1	争論・騒動	
27005	先年面割被仰付候節断愁訴書	明和4亥年3月27日	1767	綴	1	争論・騒動	
27006	社中之者市中住居二付役目歩并 修理免村ニ而店商買差縫愁訴返 答之写	安政6未2月	1859	綴	1	争論・騒動	
27007	大年寄彦右衛門大年寄穂助兩 勤中杵築六ヶ村不當之諸弘等 候二付越峠村与親中ヨリ郡役寄 江愁訴郡役人江請書控以後六 人村殿リ合書附写	文化12亥5月同8月	1815	綴	1	争論・騒動	
27008	愁訴書	子9月		綴	1	争論・騒動	
27009	寛政年中ヨリ是迄五十年来御 差縫之御論山此度中濟取扱仕書 附取替文書類写	嘉永4辛亥5月	1851	綴	1	争論・騒動	27001と同内容
27010	御断申上一札之事	元禄12卯2月26日	1699	綴	1	争論・騒動	
27011	二股大敷網場所杵築日御碕争論 一途	安政5戊午年	1858	綴	1	争論・騒動	
27012	未納御用米下郡良三郎目録方庄 屋左七為差縫候所取調二相成郡役 塩脱去差出候内濟頼出一件書類控	万延元申7月	1860	綴	1	争論・騒動	
27013	杵築者日御崎分江入込藻荇松木 樵取候趣二附御崎ヨリ訴書を郷 寺御奉行宇佐美実様御寄御聞 尋社御談御懸合且返答演説尚 届始末之一途控	明治3庚午2月	1870	綴	1	争論・騒動	
27014	元禄年中杵築日御碕海境争論之 一途	明治2年	1869	書冊	1	争論・騒動	
27015	三郡半愁訴一件演説書控	享和2年文月	1802	横帳	1	争論・騒動	
27016	01 山境争論・わかな浜藻刈杵築日 御崎差縫一件書類入			袋	1	争論・騒動	
27016	02 (安政四巳十二月わかな懸網一 件願書写他)	安政4年12月	1857	切紙	8	争論・騒動	
27016	03 日御崎塩木争論一件之節届状并 書状共	9月19日		切紙	7	争論・騒動	一括
27016	04 (彼方問屋一件及びわかな懸網 一件)			切紙	2	争論・騒動	
27016	05 瀉間ニおゐてわかな網被差留候 付、四ヶ浦漁師ヨリ口ニ御免被下 度四度目願書	未10月		切紙	4	争論・騒動	
27016	06 火網之者中引写し候而御崎ヨリ申 出差留并願出二付覚	弘化3年年	1846	切紙	1	争論・騒動	
27016	07 わかな網一件二付寺社御役所ヨリ 杵築社役人江御談書写し	1月11日		切紙	1	争論・騒動	
27016	08 わかな網差縫一件、日御崎社役 人大野多仲ヨリ愁訴書写し	安政5年年1月20日	1858	切紙	1	争論・騒動	
27016	09 御訴申上口上之覚	天保12年丑4月	1841	切紙	1	争論・騒動	
27016	10 (杵築・日御崎山境之儀裁許状・ 下知状写し綴)	天保4年以降	1833	仮綴	1	争論・騒動	元禄11~天保4年

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考	
27016	11	かなき藻刈とも雲見瀬限漁事いたし候旨御紙上候写し	弘化4年未3月	1847	切紙	1	争論・騒動	
27016	12	(杵築・御崎境漁場の件につき裁許状)	辰6月		切紙	1	争論・騒動	
27016	13	緘付場所備受申上一札之事	文政11年子11月	1828	切紙	1	争論・騒動	
27016	14	二股大敷網一件ニ付年寄十兵衛ヨリ松口口へ申綴候書類			切紙	5	争論・騒動	
27016	15	二役大敷わかな取網一件之節書類扣	3月10日		切紙	1	争論・騒動	
27016	16	(杵築・日御崎山境之儀裁許状)	元禄11年10月27日	1698	仮綴	1	争論・騒動	
27017		(杵築・日御崎浦など藻刈争論ニ付請申上一札・裁許状写)	文化2~弘化4	1805-47	綴	1	争論・騒動	
27018		杵築・日御崎懸り合一糸、先年ヨリ御書付書除	安政5年午1月	1858	綴	1	争論・騒動	
27019		杵築・御崎山海境証口旧記頭書	明治4年未12月	1871	綴	1	争論・騒動	
27020		杵築御碕藤荻カナキ稼場爾来ヨリ争論、此度更ニ御裁判并水夫山札米共御免除御聞届扣	明治5年1月21日	1872	綴	1	争論・騒動	
27021		明治二己巳七月十七日杵築人別動揺いたし候節之始末出府中刑法局ニ而御糺之一途	己8月8日			3	争論・騒動	
27022	01	御内々奉願口上之覚	明治3年9月	1870		3	争論・騒動	
27022	02	(御父上様宛穂左衛門書状 杵築乱暴・芸州広島より情勢)	11月11日		書簡	1	争論・騒動	
27022	03	(民政局へ差出候書面)	9月		書簡	1	争論・騒動	
27022	04	(別紙書面に付)	9月1日		書簡	1	争論・騒動	
27022	05	杵築暴動一件 五通	明治2年12月	1869	封筒	1	争論・騒動	
27023		明治三己巳七月十七夜九ツ半時乱妨之損事物	明治3年7月	1870	状	1	争論・騒動	
27024		御内々演説代	己8月		状	1	争論・騒動	
27025		己七月十七夜乱妨入込候節紛失物書出控	己7月		状	1	争論・騒動	
27026		(同上)書損分	己7月		状		争論・騒動	
27027		(正月六日震災死人への御下金ニ付伺書)	明治5年2月	1872	状		争論・騒動	長浜村庄屋丸茂様
27028		(震災ニ付損所御届申上候事)			状	1	争論・騒動	長浜村役人→浜田県役所
27029		己七月七日杵築人別沸騰動出願	明治2年12月	1869		2	争論・騒動	
27030		杵築騒動一件書類			封筒	1	争論・騒動	
箱26								
31001		杵築六ヶ村ヨリ塩仕盛業之ため塩鬮奥行御免被仰付度願書	明治3己巳8月	1870	書冊	1	産業	
31002		荒木川方塩一糸書出し帳	嘉永4	1851	書冊	1	産業	
31003		杵築四ヶ村并外口(還カ)差海板津浦貧民塩稼藤間太郎右衛門元入差引目録写	嘉永5子5月	1852	長帳	1	産業	
31004		御運塩之儀演説書	11月		長帳	1	産業	
31005		演説覚	安政5午3月	1858	綴	1	産業	
31006		御崎山ニ而樵取候塩焼木一件再返答書	弘化2己5月	1845	綴	1	産業	
31007		今市町沢屋善助酒場買受懸り合一糸奉伺演説之覚	安政5午1月	1858	綴	1	産業	
31008		(造酒に関する)奉頼御事	安政7年2月	1860	紙	1	産業	

文書番号		史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
31009	01	御内々演説代			紙	1	産業	
31009	02	(宇能の鉄について)奉伺演説之覚			紙	1	産業	
31009	03	(預金催促の訴について訴状)	明治7年9月	1874	紙	1	産業	
31009	04	(古川新川加茂川の稗菜種植付について)口上之代			紙	1	産業	
31009	05	乍恐奉願上御事	安政5年2月	1858	紙	1	産業	銅山開願書
31009	06	(藤間穂左衛門宛書簡)	12月		書簡	1	産業	
31009	07	(木村希哉から藤間寛左衛門宛書簡 勤務評価書)	明治7年12月	1874	書簡	4	産業	
31010		永代酒大算用帳	慶応元年8月	1865	長帳	1	産業	
31011		造酒売上差引目録 (藤間屋太郎兵エ他2)	嘉永元年1~8月	1848	横帳	1	産業	
31012		清酒醸造廃業願	明治8年10月	1875	罫紙、 縦 横帳	1	産業	
31013		荒木村半兵衛へ塩四錢被仰付候次第右二付而杵築年寄六人より願出し一途	11月2日		横帳	1	産業	
31014		[酒造稼運上金免除願ニ付奉拝御事]	明治4年5月	1871	紙	1	産業	虫損大
31015		[酒造稼朝廷上納金御免除願ニ付]	明治3年12月	1870	紙	1	産業	
31016		[存念書入一札之事(家名相続に付)]	明治7年8月4日	1874	切継紙	4		虫損固着あり
31017		島根県出雲国杵築海水浴場図	明治22年8月10日	1889		1	杵築郵便局	
31018		島根県管内耕宅地々価持丸長者鑑	明治14年5月	1881	紙	1	杵築郵便局	
31019		菁蕪種子採実弁	1月3日5日		紙	1	杵築郵便局	
31020		菜種植増達見込	不明		紙	1	杵築郵便局	
31021		酒造株高并諸道具書出帳	明治3年5月	1870	縦冊	1	産業	
31022		造酒道具御改帳(藤間穂左衛門扣巳之助)	明治3年12月	1870	縦冊	1	産業	
31023		造酒道具御改帳(藤間穂左衛門出棚只四郎扣)	明治3年12月	1870	縦冊	1	産業	
31024		神門郡杵築町酒造藤間太郎右衛門一札	嘉永5年12月	1852	縦冊	1	産業	
31025		銅山発起思頼ニ付稼方試之仕法演説頭書願書之扣	安政5年1月	1858	横帳	1	産業	
31026		自分并四ツ角出棚今市出棚三ヶ所午納寒造酒米酒差引帳	安政6年2月	1859	横帳	1	産業	
31027		造酒差引目録	明治3年4月	1870	横帳	1	産業	
31028		藤間弥左衛門宛 山本久右衛門岸野金平書状(酒他国出願いの聞き届け知らせ)	2月14日		紙		産業	
41001	01	大社局市内通常配達区図面	昭和15年6月23日	1940	紙	1	杵築郵便局	
41002		局舎平面図其二(縮尺六十分ノ一)	不明		紙	2	杵築郵便局	
41003	02	局舎平面図其一(縮尺六十分ノ一)	不明		紙	1	杵築郵便局	
41004		局舎正面図(縮尺六十分ノ一)	昭和4年5月8日	1929	紙	1	杵築郵便局	
41005		局舎平面図其二 局舎平面図其三 倉庫(縮尺六十分ノ一)	不明		紙	1	杵築郵便局	
41006		受付口正面図(縮尺六十分ノ一)	不明		紙	1	杵築郵便局	
41007		島根県簸川郡杵築郵便区全図	明治38年2月1日	1905		1	杵築郵便局	
41008	14	杵築郵便局区割表	不明			1	杵築郵便局	

文書番号		史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
41009	01	島根県大社局市内通常郵便配達区画図(三号便)	昭和6年10月21日	1931		1	杵築郵便局 築郵	
41009	02	島根県大社局市内通常郵便配達区画図(一、二号便)	昭和3年6月11日	1928		1	杵築郵便局 築郵	
41009	03	島根県大社局市内通常郵便配達区画図(三号便)	昭和3年6月11日	1928		1	杵築郵便局 築郵	
41009	04	島根県大社郵便局市内取集区画図(第一区)	大正12年5月15日	1923		1	杵築郵便局 築郵	
41009	05	島根県大社郵便局市内配達区画図	大正12年5月15日	1923		1	杵築郵便局 築郵	
41009	06	島根県大社郵便局市内配達区画図	不明			1	杵築郵便局 築郵	
41009	07	島根県杵築郵便局市内取集区画図(第一区)	大正4年3月19日	1915		1	杵築郵便局 築郵	
41009	08	島根県杵築郵便局市配達集区画図	大正4年3月19日	1915		1	杵築郵便局 築郵	
41009	09	島根県簸川郡杵築局市内図 市内集配区画図(但し取集区ハ一区トス)	明治38年2月1日	1905		1	杵築郵便局 築郵	
41010	15	市内取集、配達区画図調製凡例	大正10年1月1日	1921		1	杵築郵便局 築郵	
41011	16	島根県大社・杵築郵便局市外集配線路図				1	杵築郵便局 築郵	
41012	17	島根県大社局市内通常郵便配達区画図(三号便)	昭和9年10月1日	1934		1	杵築郵便局 築郵	
41013	18	島根県大社局市内通常郵便配達区画図(一、二号便)	昭和9年10月1日	1934		1	杵築郵便局 築郵	
41014	01	局舎平面図其一(縮尺六十分ノ一)	昭和10年	1935		1	杵築郵便局 築郵	
41014	02	局舎平面図其二(縮尺六十分ノ一)	昭和10年	1935		1	杵築郵便局 築郵	
41015	01	島根県大社郵便局舎図面	大正15年6月	1925		1	杵築郵便局 築郵	表紙
41015	02	局舎正面図(縮尺六十分ノ一)	大正15年6月	1925		1	杵築郵便局 築郵	
41015	03	受付口正面図(縮尺六十分ノ一)	大正15年6月	1925		1	杵築郵便局 築郵	
41015	04	局舎部屋別建坪	大正15年6月	1925		1	杵築郵便局 築郵	
41015	05	局舎平面図(縮尺六十分ノ一)	大正15年6月	1925		1	杵築郵便局 築郵	
41015	06	局舎階上・倉庫図(縮尺六十分ノ一)	大正15年6月	1925		1	杵築郵便局 築郵	
41015	07	局舎位置図	大正15年6月	1925		1	杵築郵便局 築郵	
41016	01	局舎施工申請書	昭和2年9月	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41016	02	局舎正面図(縮尺六十分ノ一)	昭和2年9月	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41016	03	局舎部屋別建坪表	昭和2年9月	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41016	04	局舎平面図(縮尺六十分ノ一)	昭和2年9月	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41016	05	局舎階上・倉庫図	昭和2年9月	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41016	06	局舎平面図(縮尺六十分ノ一)	昭和2年9月	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41016	07	局舎階上・倉庫図	昭和2年9月	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41017	01	昭和二年十二月申請図ノ扣	昭和2年12月27日	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41017	02	局舎平面図(縮尺六十分ノ一)控	昭和2年12月27日	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41017	03	局舎平面図(縮尺六十分ノ一)	昭和2年12月27日	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41017	04	局舎階上・倉庫図	昭和2年12月27日	1927		1	杵築郵便局 築郵	
41018		局舎平面図其三、倉庫(縮尺六十分ノ一)	不明			1	杵築郵便局 築郵	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
41019	局舎設計図	不明			1	杵築郵便局 築郵	
41020	局舎部屋割図	不明			1	杵築郵便局 築郵	
41021	局舎平面図其一(縮尺六十分ノ一)、付部屋別建坪数	昭和10年8月1日	1935		1	杵築郵便局 築郵	
41022	朝鮮総督府逓信局逓信吏員養成所給費生徒募集	不明			1	杵築郵便局 築郵	
41023	局舎敷地図				1	杵築郵便局 築郵	
41024	後庭附属建物之図	不明			1	杵築郵便局 築郵	
41025	局舎平面図其一(縮尺六十分ノ一)、付き部屋別建坪数表	昭和14年2月	1939		1	杵築郵便局 築郵	
41026	局舎敷地図	不明			1	杵築郵便局 築郵	
41027	広島郵便局より出雲国杵築局原への通信事務・書留封筒	明治43年1月27日	1910		1	杵築郵便局 築郵	
51001	01 島義田御証文済目録共	宝暦13	1763	紙	1	大根島義田	
51001	02 義田証文 高三拾石	寛延4	1751	紙	1	大根島義田	
51001	03 義田証文 高弍拾石	寛延元	1748	紙	1	大根島義田	
51001	04 金銭借用覚	宝暦4	1754	紙	1	大根島義田	
51001	05 借用申銭事	卯3月		紙	1	大根島義田	
51001	06 預申銭之事	未5月		紙	1	大根島義田	
51001	07 借用申銭事	卯12月		紙	1	大根島義田	
51001	08 (藤間喜太郎への新田永代免許地証文)	明和3	1766	紙	1	大根島義田	
51001	09 銀札借用覚	午6月		紙	1	大根島義田	
51001	10 田畑永代物成免許地覚	明和3	1766	紙	1	大根島義田	
51001	11 借用申銭之事	午11月		紙	1	大根島義田	
51001	12 和府方御役人心得覚	寛延2	1749	紙	1	大根島義田	
51001	13 田畑永代物成免許地覚	宝暦14	1764	紙	1	大根島義田	
51001	14 山門御普請諸入用扣			紙	1	大根島義田	
51001	15 田畑物成免除覚	宝暦8	1758	紙	1	大根島義田	
51001	16 借用申銭事	辰2月		紙	1	大根島義田	
51002	01 借用申銭事	巳2月		紙	1	大根島義田	
51002	02 拝借仕銀子之事	宝暦12	1762	紙	1	大根島義田	
51002	03 銀五拾貫目借用書	午7月		紙	1	大根島義田	
51002	04 借用申銭事	卯3月		紙	1	大根島義田	
51002	05 泉府方調達分元利高支払覚	宝暦2	1752	紙	1	大根島義田	
51002	06 銀子借用覚	午6月		紙	1	大根島義田	
51002	07 拝借仕銀子之事	宝暦11	1761	紙	1	大根島義田	
51002	08 預申銀札事	申3月		紙	1	大根島義田	
51002	09 預申銭事	子6月		紙	1	大根島義田	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
51002	10 (借用米返済二付覚)	宝曆2	1752	紙	4	大根島 義田	
51002	11 (借用米返済二付覚)	宝曆2	1752	紙	1	大根島 義田	
51002	12 (借用米返済二付覚)	宝曆2	1752	紙	1	大根島 義田	
51002	13 (借用米返済二付覚)	宝曆2	1752	紙	1	大根島 義田	
51002	14 (借用米返済二付覚)	宝曆2	1752	紙	1	大根島 義田	
箱27							
61001	日記留 豊四郎	天保10	1839	横半	1	日記・記 録	
61002	日記留 豊四郎	天保11	1840	横半	1	日記・記 録	
61003	日記留 豊四郎	天保12	1841	横半	1	日記・記 録	
61004	萬飛可ゑ 廣三郎	天保13	1842	横半	1	日記・記 録	
61005	日記留 廣三郎	天保15	1844	横半	1	日記・記 録	
61006	日記留 廣三郎	弘化2	1845	横半	1	日記・記 録	
61007	日記留 廣三郎	弘化3年正月	1846	横半	1	日記・記 録	
61008	午年松府萬扣 廣三郎	弘化3年2月	1846	横半	1	日記・記 録	
61009	日記留 源左衛門	嘉永元年正月	1848	横半	1	日記・記 録	
61010	日記飛可ゑ 源左衛門	嘉永元年2月	1848	横半	1	日記・記 録	
61011	日記留 藤堅	嘉永2	1849	横半	1	日記・記 録	
61012	日記留 藤堅	嘉永3	1850	横半	1	日記・記 録	
61013	日記留 藤堅	嘉永6	1853	横半	1	日記・記 録	
61014	年々萬差引留 藤堅	安政2	1855	横半	1	日記・記 録	
61015	卯とし萬差引扣	安政2	1855	横半	1	日記・記 録	
61016	藤間太二郎右衛門死去之節香典 藤間勇蔵妻悦參候節歛	安政3	1856	横半	1	日記・記 録	
61017	日記留 藤堅	安政4	1857	横半	1	日記・記 録	
61018	午年頭廻勤帳 大年寄源左衛門 ・大年寄覚三郎	安政5	1958	横半	1	日記・記 録	
61019	萬留帳 藤愛	安政7	1860	横半	1	日記・記 録	
61020	萬日記扣 藤愛	安政7	1860	横半	1	日記・記 録	
61021	日記牒	万延元	1860	横半	1	日記・記 録	
61022	萬日記帳 藤原藤愛	文久2年12月	1862	横半	1	日記・記 録	
61023	日記并萬留帳 藤堅	文久3年正月	1863	横半	1	日記・記 録	
61024	亥年始御家中廻勤帳 藤間源左 衛門藤堅	文久3	1863	横半	1	日記・記 録	
61025	亥二月松府進物扣 藤間	文久3年2月16日	1863	横半	1	日記・記 録	
61026	俳諧発句 春夏秋冬出吟 皎々 園月清	文久4年2月	1864	横半	1	日記・記 録	
61027	萬日記 藤愛	元治元年8月25日	1864	横半	1	日記・記 録	
61028	日記萬留 藤堅	元治2年正月	1865	横半	1	日記・記 録	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
61029	日記留 藤間勇蔵藤原藤愛	慶応元年ヨリ	1865	横半	1	日記・記録	
61030	諸進物并到来帳 大年寄勇蔵藤愛	慶応2年10月11日	1866	横半	1	日記・記録	
61031	神門出雲両郡杵築神領人民支配取引被仰付并神領大庄屋与伎名替被仰付廻勤帳 大年寄大庄屋白三郎・穂左衛門	明治2	1869	横半	1	日記・記録	
61032	午五月出府廻勤帳 藤間穂左衛門	明治3	1870	横半	1	日記・記録	
61033	庚午年改書出控 藤間	明治3	1870	横半	1	日記・記録	
61034	諸役所役人名前留 龍三	明治4	1871	横半	1	日記・記録	
61035	祠官祠掌・諸寺院戸数書出し	明治5	1872	横半	1	日記・記録	
61036	県郡郵史留 戸長藤間穂左衛門	明治5	1872	横半	1	日記・記録	
61037	勸業係萬留扣 藤堅	明治7	1874	横半	1	日記・記録	
61038	代替進物記 藤間源左衛門藤愛	明治9	1876	横半	1	日記・記録	
61039	松江日記 藤間藤愛	明治11	1878	横半	1	日記・記録	
61040	万日記書附類控 藤堅	嘉永4年	1851	横半	1	日記・記録	
61041	01 (徳川慶喜討薩の表一件ニ付当月三日夜町奉行ヨリ的情報)	慶応4年1月カ	1868	切紙	1	杵築郵便局	
61041	02 (慶応戊辰三月三日上方ヨリ到来風説書写) 在京大名・会津情報等。「戊辰役」の付箋(鉛筆書)あり	慶応4年3月	1868	切紙	1		
61041	03 (当月二日石州手先之者浜田辺送探索ニ遣候処昨七日罷帰申出候風聞)	(慶応4年カ)	1868	切紙	1		長州軍動向等
61041	04 「尾道町御触之写」鳥羽伏見戦争役の幕府領処置ニ付。広島藩主宛。	慶応4年2月カ	1868	切紙	1		
61041	05 (鳥羽伏見戦争以後諸藩動向等ニ付報告)	慶応4年2月以後カ	1868	切紙	1		後半欠損カ
61042	「日記留 藤間勇蔵」後世の補修で「慶応二 日記留長州征伐他」と記入の表紙あり。同じく「慶応三(ママ)年日記 『長州動乱浜田城自焼』」と記入(ペン書)の封筒あり。	慶応2年6月カ	1868	横半	1		
箱28							
11022	船御法	貞応2、3	1223-1224	巻物	1	廻船・交易	
11023	[船絵図面]	不明		巻物	1	廻船・交易	
11024	往来手形(箱入れ)	明治5年2月	1872		1	廻船・交易	
箱29							
71001	(藤間寛左衛門宛木幡久衛門書状)[学区取締・伯州辺気丘一条・博覧会願立之件ほか]	6月27日		切紙	1	書簡	
71002	(藤間様宛木幡久衛門書状)[学校・博覧会之件ほか]	6月12日		切紙	1	書簡	
71003	(寛左衛門宛久右衛門書状)[年賀挨拶旁々景況報告]	1月2日		切紙	1	書簡	
71004	(寛左衛門宛久右衛門書状)[芸州御隠居様百姓共ヨリ差留一条ほか]	(明治4)8月16日		切紙	1	書簡	
71005	(竹林亭宛久右衛門書状)[郵便取引・松江博覧会之件ほか]	8月10日		切紙	1	書簡	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
71006	(久右衛門宛耕造書状)[鑄鉄之件につき]	2月2日		切紙	1	書簡	
71007	(藤間寛左衛門宛木幡久右衛門書状)[出産祝御礼]	12月2日		切紙	1	書簡	
71008	書状(差出人・宛名なし)[松江之学校規則のことなど]	4月2日		切紙	1	書簡	
71009	(寛左衛門宛久右衛門書状)[暫切人数など報知]	1月8日		切紙	1	書簡	
71010	(寛左衛門宛たゞよし書状)[新年之式のことなど]	旧12月2日		切紙	1	書簡	
71011 01	(藤賢様宛質良書状)[十郡大庄屋廃止のことなど]	4月9日		切紙	1	書簡	
71011 02	(中庄屋柳右衛門之件に付久右衛門書状)	5月16日		切紙	1	書簡	
71011 03	(中庄屋柳右衛門役儀取上状)	5月13日		切紙	1	書簡	
71011 04	(郡役人之件に付書状)[宛名・差出人記載なし]	5月23日		切紙	1	書簡	
71012	(寛左衛門宛久右衛門書状)[地券懸のことなど]	1月21日		切紙	1	書簡	
71013 01	(藤間寛左衛門宛木幡久右衛門書状)[盆会執行のことなど]	7月19日		切紙	1	書簡	
71013 02	(寛左衛門宛久右衛門書状)[社会情勢報知] ※「地券に徴兵に学校に当人別不気賑人氣あしく相成困もの御座候」との一文あり	7月20日		切紙	1	書簡	
71014 01	(藤間寛左衛門宛木幡久右衛門書状)[諸郷区長役設置の件など]	8月4日		切紙	1	書簡	
71014 02	(東京行のことなど覚書)	欠		切紙	1	書簡	
71015	(地方役替之件に付書送状)[宛先・差出人記載なし]	11月27日		切紙	1	書簡	
71016	(藤賢様宛たゞよし書状)[商法改正之件]	2月3日		切紙	1	書簡	
71017 01	(寛左衛門宛久右衛門書状)[北嶋殿焼失のことなど]	刀年中二		切紙	1	書簡	
71017 02	(広島宮へ松江県より御繰出のことなど報知状)	極月大晦日		切紙	1	書簡	
71018 01	(藤間寛左衛門宛木幡耕造書状)[大庄屋正治役儀戸長も御免之由報知]	4月18日		切紙	1	書簡	
71018 02	(松浦正治役儀差免状)	壬申4月7日		切紙	1	書簡	
71018 03	(伴役儀差免之件覚書)			切紙	1	書簡	
71019	(藤間寛左衛門宛木幡屋三七書状)[大庄屋正治役儀御免之件など]	4月8日		切紙	1	書簡	
71020	(御館入願之件など書送状)	8月14日		切紙	1	書簡	
71021	(保左衛門宛久右衛門書状)[博覧会之件など]	2月9日		切紙	1	書簡	
71022	(源左衛門宛久右衛門書状)[近況報告]	7月20日		切紙	1	書簡	
71023	(塩積入状況など報知状)	9月晦日		切紙	1	書簡	
71024 01	(郡中役替他書送状)	16日		切紙	1	書簡	
71024 02	(廊下・便所修理之件他書送状)	卯月12日		切紙	1	書簡	
71024 03	(秋田表争戦風聞之件他書送状)	3日		切紙	1	書簡	
71025	(藤間穂左衛門宛近況書送状)	8月26日		切紙	1	書簡	
71026	(藤賢様宛久右衛門病状など書送状)	8月31日		切紙	1	書簡	
71027	(御伯父様宛愛造書状)[金返却に付]	9月23日		切紙	1	書簡	
71028	(藤間又兵衛様宛豊造書状)[区会所より金之件に付通知一件]	9月19日		切紙	1	書簡	
71029	(寛左衛門宛仲久書状)[蝗発生・平田木綿会社のことなど報知]	8月31日		切紙	1	書簡	
71030	(藤間寛左衛門宛木佐愛造書状)	9月19日		切紙	1	書簡	
71031	(藤間寛左衛門宛木佐愛造書状)	9月18日		切紙	1	書簡	
71032 01	(穂左衛門宛愛造書状)[金融関係]	8月29日		切紙	1	書簡	
71032 02	(木佐愛造宛孫八書状)	8月28日		切紙	1	書簡	

文書番号	史料標題	年月	西暦	形態	数量	分類	備考
71032	03 (本家宛とわせ返書)	8月28日		切紙	1	書簡	
71033	(藤間穂左衛門宛木佐愛造書状) [米相場・景気のことなど]	1月18日		切紙	1	書簡	
71034	(藤間穂左衛門宛木佐愛造書状) [御老人全快のことなど]	9月26日		切紙	1	書簡	
71035	愛造内用状	8月21日		切紙	1	書簡	
71036	(寛左衛門宛愛造・仲久書状)[近況報告]	9月10日		切紙	1	書簡	
71037	(開拓に付村々へ入込教諭のことなど書送状)	3月16日		切紙	1	書簡	
71038	十月九日愛右衛門状	10月9日		切紙	1	書簡	
71039	九月廿七日愛右衛門状(寛左衛門宛諸事書送り)	9月27日		切紙	1	書簡	
71040	九月廿九日愛右衛門状(寛左衛門宛)	9月29日		切紙	1	書簡	
71041	八月八日愛右衛門状(藤堅様宛) 東京にて諸国県々より1人づつ出頭御政事向郷議論下地之議事論ある旨記述あり	8月8日		切紙	1	書簡	
71042	八月十四日愛右衛門状(寛左衛門宛)(権令巡見のことなど)	8月14日		切紙	1	書簡	
71043	八月十一日愛右衛門状(寛左衛門宛近況報告)	8月11日		切紙	1	書簡	
71044	(寛左衛門宛仲久書状)(近況報告)	8月12日		切紙	1	書簡	
71045	(作事のことなど近況書送状)	3月29日		切紙	1	書簡	
71046	(寛左衛門宛愛右衛門書状)[近況報告]	3日		切紙	1	書簡	
71047	正月廿二日愛右衛門書状[近況報告]	1月22日		切紙	1	書簡	
71048	四月二日又兵衛状[旦那様宛 酒店商向・普請のことなど書送状]	4月2日		切紙	1	書簡	
71049	(藤間寛左衛門宛木佐愛右衛門書状)[戸長手当のことなど]	11月16日		切紙	1	書簡	
71050	(藤間寛左衛門宛木佐徳三郎書状)[木佐徳兵衛方近年勝手向不手繰之件]	3月4日		切紙	1	書簡	
71051	01 (藤間寛左衛門宛木佐愛右衛門書状)[社寺混交説教教導職派出のことなど]	5月3日		切紙	1	書簡	封筒入
71051	02 (藤間寛左衛門宛木佐愛右衛門書状)[勘定惣代人選のことなど]	5月8日		切紙	1	書簡	封筒入
71052	(藤間寛左衛門宛木佐愛右衛門書状)[中買共木綿買込状況など報知]	5月8日		切紙	1	書簡	
71053	(竹林亭大人宛たよし書状)[県庁作事のことなど]	5月17日		切紙	1	書簡	
71054	01 (寛左衛門宛徳三郎書状)[星野大属他見分日程のことなど報知]	5月13日		切紙	1	書簡	封筒入
71054	02 (しま村学校教師のことなど書送状)	5月13日		切紙	1	書簡	封筒入
71054	03 (大属様方嶋村学校見分に付覚)	13日		切紙	1	書簡	封筒入
71055	(寛左衛門宛仲久書状)[官林上地のこと他]	7月17日		切紙	1	書簡	
71056	01 (寛左衛門宛愛右衛門書状)[星野大属他見分日程のことなど]	5月18日		切紙	1	書簡	封筒入
71056	02 (本家田地のことなど書送状)	6月22日		切紙	1	書簡	封筒入
71056	03 (寛左衛門宛愛右衛門書状)[木綿注文・平田学校教師のことなど]	6月16日		切紙	1	書簡	封筒入
71057	(木佐愛右衛門宛森脇忠兵衛書状)[県庁の様子など報知]	9月23日		切紙	1	書簡	
71058	(木佐愛右衛門宛森脇忠兵衛書状)[木幡之縁談のことなど依頼状]	9月12日		切紙	1	書簡	
71059	01 (米相場のことなど書送状)	神無月13日		切紙	1	書簡	
71059	02 (喜平義・松江町人順席につき書送状)	13日		切紙	1	書簡	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
71059	03 (作事取りかかりのことなど書送状)	15日		切紙	1	書簡	
続001	戌二月六日朝穂左衛門状[経営関係]	戌2月2日		切紙	1	書簡	
続002	寛左衛門宛穂左衛門状[県令へ御目通りのことなど]	9月6日		切紙	1	書簡	
続003	九月七日穂左衛門状[物価のことなど報知]	9月7日		切紙	1	書簡	
続004	申五月十七日穂左衛門松江ヨリ状[御父上様宛、寛幸丸積荷・木綿買入他之件]	申5月17日夜		切紙	1	書簡	
続005	一月十八日穂左衛門状[御父上様宛、当町大不融通状況など報知]	1月18日		切紙	1	書簡	
続006	一月十七日夜穂左衛門状[御父上様宛、買米状況など報知]	1月17日		切紙	1	書簡	
続007	一月十七日穂左衛門状[御父上様宛、金融・積荷のことなど報知]	1月17日		切紙	1	書簡	
続008	九月七日穂左衛門状[御父上様宛、酒石・米他国出のことなど報知]	9月7日		切紙	1	書簡	
続009	九月五日穂左衛門状[父上様宛、酒屋・醤油売立税上納一件など]	9月5日		切紙	1	書簡	
続010	九月五日夜穂左衛門状[御父上様宛、神田丹蔵一条・酒売立税のことなど]	9月5日		切紙	1	書簡	
続011	三月七日認龍蔵状[又兵衛宛、井川丹一殿手続之借入金一件]	3月7日		切紙	1	書簡	
続012	三月八日龍蔵ヨリ内状[金策の件など]	3月8日		切紙	1	書簡	
続013	一月十八日夜認龍蔵状[又兵衛宛、上納歎願書一件など]	1月18日夜		切紙	1	書簡	
続014	前之分戌三月十一日松江ヨリ龍蔵状[又兵衛宛、押厚丸船中便]	戌3月11日		切紙	1	書簡	
続015	西十一月五日宍道ヨリ龍蔵状[藤間旦那様宛、米売買・ボトイン金貸一件など]	西11月5日		切紙	1	書簡	
続016	戌二月十六日龍蔵状[又兵衛宛、金策・取引のことなど]	戌2月16日		切紙	1	書簡	
続017	二月八日認龍蔵状[又兵衛宛、御悔之件・寛執出帆のことなど]	2月8日夜		切紙	1	書簡	別紙あり
続018	戌三月十三日龍蔵状[取引方ニ付]	戌3月13日		切紙	1	書簡	
続019	三月十三日龍蔵別紙	3月13日		切紙	1	書簡	
続020	(又兵衛宛竜蔵書状)[新春挨拶少々近況報告]	5日		切紙	1	書簡	
続021	(金融方に付書送状)			切紙	1	書簡	別紙あり
続022	(寛左衛門宛周左衛門書状)[北嶋殿焼失見舞に付]	正月28日		切紙	1	書簡	
続023	(寛左衛門宛庄右衛門書状)[昨夜酔中大失礼御免下され度]	24日		切紙	1	書簡	
続024	(寛左衛門宛真弓他書状)[内談申したき事あるに付き来訪依頼]			切紙	1	書簡	虫損未開
続025	(武志屋十七軒名前書)			切紙	1	書簡	
続026	(百姓・町人共帯刀差免、扶持給付・諸役差免等禁止之旨太政官達)	壬申正月19日		切紙	1	書簡	
続027	二月四日詔 寛寶丸船方帳場方龍蔵ヨリ又兵衛当テ状	2月4日夜		切紙	1	書簡	
続028	(藤間若又兵衛様宛竜蔵書状)[法事のことなど]	2月5日夜		切紙	1	書簡	
続029	(藤間若旦那様宛小池竜元書状)[金談訴訟のことなど]	10月23日		切紙	1	書簡	封筒入
続030	十一月八日龍蔵状 [若旦那様宛、権令昇進のことなど]	11月8日		切紙	1	書簡	
続031	(旦那様宛竜蔵書状)[地租改正係之分係仰付ラル件など]	12月6日		切紙	1	書簡	
続032	(父上様宛源左衛門書状)	12月11日		切紙	1	書簡	

文書番号	史料標題	年 月	西曆	形態	数量	分類	備考
続033	(上野文七郎宛、改租取調中顧問人申付状)	明治8年12月2日	1875	紙	1	書簡	
続034	(尊八郎・又兵衛宛竜蔵書状)[寛寶丸出し・大参事入国之事他]	3月3日		切紙	1	書簡	
続035	(藤旦那様・若旦那様宛竜蔵書状)[大地震・松江島根県に引戻しの件・寛寶丸のことなど]	2月20日		切紙	1	書簡	
続036	(三月廿六日夫次郎便書状)[御屋敷拝借銭・御前様御供人数など]	3月26日		切紙	1	書簡	
続037	九月六日旦那様宛龍蔵状[荒木蔵米之件など]	9月6日		切紙	1	書簡	
続038	九月六日別紙	9月6日		切紙	1	書簡	
続039	(又兵衛宛竜蔵書状)[酒屋・醤油屋鑑札、明神丸入用板銅鉄ほか]	8月晦日		切紙	1	書簡	
続040	九月七日又兵衛宛龍蔵状[荒木蔵米之件他]	9月7日		切紙	1	書簡	
続041	(又兵衛様宛竜蔵別紙書付)	8月晦日		切紙	1	書簡	
続042	(藤間御店又兵衛様宛竜蔵書状)	9月14日		紙	1	書簡	
続043	戌二月十三日又兵衛宛龍蔵状[能次郎買入米之件他]	戌2月13日		切紙	1	書簡	
続044	五月旦那様宛又兵衛状[松尾丸へ干鯛買入之義ほか]			切紙	1	書簡	
続045	(帳簿調之儀などに付、小池竜元書状)	2月26日		切紙	1	書簡	
続046	(又市様宛又兵衛書状)	2月24日		切紙	1	書簡	
続047	(伯州境港相場書)	6月24日		切紙	1	書簡	
続048	九月十九日夜認 廿一日藤間御店又兵衛宛松江ヨリ龍蔵書状[御屋敷払米之件他]	9月19日		切紙	1	書簡	
続049	(藤間店又兵衛様宛竜蔵書状)[生蠟値段引合之件など]	9月20日		切紙	1	書簡	
続050	若旦那様宛竜蔵書状[生蠟之件・御屋敷払米代之件など]	9月20日		切紙	1	書簡	
続051	(御前様逝去のことなど竜蔵書送状)	9月20日夜		切紙	1	書簡	
続052	八月廿七日夜若旦那様宛龍蔵状[楯縫戸長後役之件他]	8月27日		切紙	1	書簡	
続053	八月廿八日又兵衛宛龍蔵状[通用楮幣・明治丸帰帆のことなど]	8月28日		切紙	1	書簡	
続054	(藤間店亦兵衛宛竜蔵書状)[明神丸入用銅金鉄・銀債一件など]	8月25日		切紙	1	書簡	
続055	竜蔵宛明治丸久右衛門書状[積荷松江にて商い仕度旨通知]	8月28日		折紙	1	書簡	
続056	八月晦日旦那様宛龍蔵状[三千貫出銭渡方之件など]	8月晦日		折紙	1	書簡	
続057	穂状不用之分			折紙	1	書簡	虫損未開
続058	(探索人共大森より罷帰り当時一揆形勢口演書)	正月20日		切紙	1	書簡	
続059	龍蔵ヨリ又兵衛宛状[御屋敷上納之儀ほか]	1月晦日		切紙	1	書簡	
続060	[大目代森脇忠兵衛宛民政局より指示]覚	2月15日		切紙	1	書簡	
続061	(書状)			切紙	1	書簡	虫損未開
続062	御父上様宛穂左衛門書状[上方米引立之様子など報知]	5月24日		切紙	1	書簡	
続063	藤間様宛木佐より書状[酒屋検査之件]	4月1日		切紙	1	書簡	
続064	丑の歳御通[野波屋仁右衛門より藤間様宛]	丑歳		横帳	1	書簡	
続065	竿入帳 藤間	明治5年10月	1872	横帳	1	書簡	
続066	去卯十二月八日將軍御免被仰出候事(書留)			横帳	1	書簡	
続067	(御備志儀御懸銭請取)覚 [山形清太右衛門・平野元助→杵築町藤間太郎右衛門]	嘉永元年5月	1848	紙	1	書簡	
続068	(御内用志儀御懸銭・請取)覚 [山形清太右衛門・平野元助→杵築町藤間太郎右衛門]	嘉永2年5月	1849	紙	1	書簡	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
続069	(卯暮年賦上納銀請取)覚[岡仙蔵・堀園三郎・御貸方→郡方]	辰5月11日		紙	1	書簡	
続070	(志儀御懸錢請取)覚 [山形清太右衛門・平野元助→杵築町藤間太郎右衛門]	弘化4年5月	1847	紙	1	書簡	
続071	(錢元利請取)覚 [平野恵蔵他2名→藤間寛左衛門]	卯11月26日		切紙	1	書簡	
続072	(払米違約金受取)証 [島根県出納課→第五区新材木町島邨重右衛門]	明治7年1月25日	1874	紙	1	書簡	
続073	(払米違約金受取)証 [島根県出納課→第五十四区平田町藤井重助]	明治7年1月25日	1874	紙	1	書簡	
続074	(錢元利請取)覚 [栗田廉平・中村平兵衛→藤間寛左衛門]	辰11月16日		切紙	1	書簡	
続075	(錢差引受取)覚 [年寄見三郎→藤間穂左衛門]	明治4年11月	1871	切紙	1	書簡	
続076	(志儀御懸錢請取)覚 [山部清太右衛門・平野元助→杵築町藤間太郎右衛門]	嘉永3年6月26日	1850	紙	1	書簡	
続077	(代金請取)覚 [石原純右衛門・中村兄七→藤間寛左衛門]	巳4月29日		切紙	1	書簡	
続078	(拝借錢利受取)覚 [田村斧兵衛他3名→藤間屋太郎右衛門]	未6月9日		切紙	1	書簡	
続079	丑十一月須山様山本様利錢目録	丑11月		切紙	1	書簡	
続080	(当年中に上納米代錢)覚 [藤間寛左衛門]	卯9月14日		切紙	1	書簡	
続081	(丑納御用米 人別書上)覚			切紙	1	書簡	虫損未開
続082	丑納御用米取引目録	卯8月25日		切紙	1	書簡	
続083	(加賀屋善七他錢高書上)覚			切紙	1	書簡	虫損未開
続084	利錢上納御札座御役人様ヨ受取覚 [加藤平七他3名→藤間穂左衛門]	亥11月11日		切紙	1	書簡	
続085	(利錢受取)覚 [森田助一郎他4名→藤間源左衛門]	卯12月7日		切紙	1	書簡	
続086	(利錢請取)覚 藤間寛左衛門宛	1月31日		切紙	1	書簡	
続087	御目当質見込直段目録 藤間寛左衛門	明治3年12月	1870	横帳	1	書簡	
続088	大坂御蔵屋敷詰何某ヨ書通写	慶応4年正月	1868	横帳	1	書簡	
続089	(乙三郎他所持地改覚)			切紙	1	書簡	
続090	儀定仕出し之覚	明治5年11月	1872	切紙	1	書簡	
続091	木幡久右衛門結構書付写	9月11日		切紙	1	書簡	
続092	預申上錢之事[藤間源左衛門・藤間勇蔵→井上様御支配人中様]	慶応元年9月	1865	紙	1	書簡	
続093	五月廿六日指出し	5月26日		紙	1	書簡	
続094	(金差引)覚			切紙	1	書簡	
続095	寅六月十九日御出府扣帳 藤間	寅6月19日		横半	1	書簡	
続096	寅四月松符惣差引帳 藤間清之助	4月22日		横半	1	書簡	
続097	(金差引覚)			横帳	3	書簡	ばらけ
続098	(代金請求)覚 [傘屋喜兵衛→森脇屋庄兵衛]	寅7月		切紙	1	書簡	
続099	(金差引)覚	寅9月7日		切紙	1	書簡	
続100	(九月四日上納金)覚	9月4日		切紙	1	書簡	
続101	(金差引)覚	丑12月朔日		切紙	1	書簡	
続102	木幡与右衛門状[小遺金之件]	閏月11日		切紙	1	書簡	
続103	(竹林亭宛たよし書状)[県令よりの説諭内容他書送り] ※「先日令様ヨ御説得第一ハ一国之長、一郡之長文明之魁、則天朝之御主意と被仰、一国一郡一村之頭立候者ヨ諸民へ示し候様、則是じゃん切髪可致旨……文明之魁と申ハ只今之御政法を汲取、人ヨ先かけ為致との事御座候」			切紙	1	書簡	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
続104	(御父上様宛与右衛門書状)[小遣金之件]	閏5月晦日		切紙	1	書簡	
続105	(寛左衛門・穂左衛門宛久右衛門書状)[斬切のことなど] ※「斬切ニハ曆日柄を見て切候而ハ中々文明開化之御主意貫通致不申…」	11月6日		切紙	1	書簡	
続106	十月七日久右衛門状[切髪のことほか書送り]	10月7日		切紙	1	書簡	
続107	(竹林亭宛たよし書状)[切髪のことほか]	10月29日		切紙	1	書簡	
続108	愛蔵状[近況報告]	4月19日		切紙	1	書簡	
続109	(耕造病気のこと書送状)			切紙	1	書簡	
続110	(返書依頼書状)	閏5月19日		切紙	1	書簡	
続111	(木綿船積方に付郡奉行達書通知状)	子5月19日		切紙	1	書簡	
続112	(新参事兵頭氏之義ニ付書送状)	9日朝		切紙	1	書簡	
続113	御内々為御見合[山本権市他5名格合に付]	寅8月		切紙	1	書簡	
続114	(藤間家代々当主格合 覚書)			切紙	1	書簡	
続115	(金・銀・札所有高覚)	巳9月11日		切紙	1	書簡	
続116	(木村八太夫殿より認賞品書留)	卯11月朔日		折紙	1	書簡	
続117	乍恐御内々奉伺演説之覚 藤間穂左衛門[田部長右衛門他5名格合に付]	酉9月		切紙	1	書簡	
続118	(宇龍仲出し蔵へ為替入に相成居候小豆を杵築市中へ売捌之件開届に付達)[村田幾右衛門→藤間源右衛門]	子12月19日		切紙	1	書簡	包紙入
続119	(宇龍船問屋に付)演説 [真野隼人→神村義焉・高井平太夫]			切紙	1	書簡	包紙入
続120	(宇龍浦為替問屋三人へ御口土より船問屋兼勤申付之件に付達)[村田幾右衛門→藤間源右衛門]	7月11日		切紙	1	書簡	包紙入
続121	(源左衛門宛大四郎書状)[近況報告]	12月29日		切紙	1	書簡	
続122	(年頭之節入費)覚	卯2月朔日		紙	1	書簡	
続123	(出府之節入用)覚	卯2月18日		切紙	1	書簡	
続124	(代銭受取)おほえ[とふこ屋多兵衛→藤間旦那樣]	3月朔日		切紙	1	書簡	
続125	(代銭受取)覚	2月21日		切紙	1	書簡	
続126	伝や差引もの[覚]	卯2月29日		紙	1	書簡	
続127	(出府之節甚八受分覚)	卯3月28日		紙	1	書簡	
続128	(伝助受代銀 覚)	3月28日		切紙	1	書簡	
続129	清一郎平田行小遣[覚]	卯4月		切紙	1	書簡	
続130	(伝次郎宍道行小遣 覚)	6月29日		切紙	1	書簡	
続131	(出府之節小遣 覚)	卯6月14日		切紙	1	書簡	
続132	(桑原上納差引 覚)	卯6月19日		切紙	1	書簡	
続133	(宇八差引小遣 覚)	卯6月14日		切紙	1	書簡	
続134	(出府之節其八差引小遣覚)	卯6月14日		切紙	1	書簡	
続135	(出府之節忠明受分覚)	6月		切紙	1	書簡	
続136	(出府之節其八差引物覚)	7月22日		切紙	1	書簡	
続137	(代銭受取)覚[さだや由右衛門→髪結権蔵]	子5月		切紙	1	書簡	
続138	(代銭受取)覚[佐田屋由右衛門→米屋様]	子6月11日		切紙	1	書簡	
続139	(代銭書上)覚[八百万次→御客様]	丑4月21日		切紙	1	書簡	
続140	(代銭書上)覚[因幡屋→御親方様]	子12月		切紙	1	書簡	
続141	(菓子代)覚[因幡屋→藤間若親方様]	戌12月		切紙	1	書簡	包紙入
続142	(菓子代)覚[因幡屋→御親方様]	子5月晦日		切紙	1	書簡	
続143	(代銭受取)覚[因幡屋→藤親方様]	子7月6日		切紙	1	書簡	
続144	(代銭受取)覚[因幡屋→親方様]	亥5月		切紙	1	書簡	
続145	(代銭受取)覚[因幡屋→藤間若親方様]	酉7月13日		切紙	1	書簡	

文書番号	史料標題	年月	西曆	形態	数量	分類	備考
続146	(代錢受取)覚[仕立屋圓三→藤間様]	戌12月		切紙	1	書簡	
続147	(代錢受取)覚[仕立屋圓三→藤間様]	12月16日		切紙	1	書簡	
続148	(代錢受取)覚[仕立屋圓三→藤間若旦那様]	亥7月		切紙	1	書簡	
続149	(代錢受取)覚[仕立屋圓三→藤間様]	戌12月		切紙	1	書簡	
続150	(借用)覚[仕立屋圓三→藤間若親方様]	未4月28日		切紙	1	書簡	
続151	(食事代錢受取)覚	丑9月3日		切紙	1	書簡	
続152	(掛物箱代金請求)覚[高橋口左衛門→米屋清兵衛]	7月18日		切紙	1	書簡	
続153	(代錢受取)覚[大谷屋吉三郎より]	子11月28日		切紙	1	書簡	
続154	(代錢受取)覚[東郷屋伴口→大谷屋吉三郎様取次]	亥12月		切紙	1	書簡	
続155	(代錢受取)覚[東郷屋伴口→藤間若旦那様]	亥12月		切紙	1	書簡	
続156	(代錢受取)覚			切紙	1	書簡	
続157	(代錢受取)覚[市屋圓一郎→藤間様]	5月17日		切紙	1	書簡	
続158	(代錢受取)覚[本庄屋勇五郎→御親方様]	7月6日		切紙	1	書簡	
続159	(代錢受取)覚[本庄屋勇五郎→御親方様]	6月7日		切紙	1	書簡	
続160							
続161	在東京留守中諸書類	明治18	1885	袋入	1	書簡	
続162	藤間竹窓宛藤間悦書状	不明		袋入	1	書簡	
続163	森脇忠兵衛宛藤間竹窓書状	不明		野紙、包	1	書簡	
続164	(電信)	不明		野紙、包	1	書簡	
続165	藤間源左衛門宛同精一書状	不明		封書	1	書簡	
続166	藤間源左衛門宛同悦書状	不明		封書	1	書簡	
続167	藤間源左衛門宛同悦書状	不明		封書	1	書簡	
続168	森脇忠兵衛・森田善左衛門宛藤間源左衛門書状	不明		封書	1	書簡	
続169	森脇忠兵衛宛藤間竹窓書状	不明		封書	1	書簡	
続170	森田善左衛門宛藤間源左衛門書状	不明		封書	1	書簡	
続171	森脇忠兵衛宛藤間竹窓書状	不明		封書	1	書簡	
続172	森脇忠兵衛宛藤間竹窓書状	不明		封書	1	書簡	
続173	藤間悦宛藤間藤愛書状	不明		封書	1	書簡	
続174	藤間源左衛門宛森脇忠兵衛書状	不明		封書	1	書簡	
続175	藤間悦宛藤間竹窓書状	不明		封書	1	書簡	
続176	森脇忠兵衛宛藤間竹窓書状	不明		封書	1	書簡	
続177	藤間悦宛藤間源左衛門書状	不明		封書	1	書簡	
続178	藤間悦宛藤間竹窓書状	不明		封書	1	書簡	
続179	森脇忠兵衛宛藤間源左衛門書状	不明		封書	1	書簡	
続180	藤間悦・森田善左衛門宛藤間竹窓書状	不明		封書	1	書簡	
続181	森脇忠兵衛宛藤間源左衛門書状	不明		封書	1	書簡	
続182	森脇忠兵衛宛藤間藤愛書状	不明		封書	1	書簡	
続183	藤間竹窓宛森田善左衛門書状	不明		封書	1	書簡	
続184	藤間善左衛門宛森脇忠兵衛書状	不明		封書	1	書簡	
続185	森脇忠兵衛宛藤間源左衛門書状	不明		封書	1	書簡	
続186	藤間悦宛藤間竹窓書状	不明		封書	1	書簡	
続187	藤間藤愛宛森脇忠兵衛書状	不明		封書	1	書簡	
続188	藤間竹窓宛森田善左衛門書状	不明		封書	1	書簡	
続189	森脇忠兵衛宛藤間源左衛門書状	不明		封書	1	書簡	
続190	藤間悦宛藤間竹窓書状	不明		封書	1	書簡	
続191	藤間様長田川寛平書状	不明		封書	1	書簡	
続192	藤間源左衛門宛森脇忠兵衛書状 他	不明		一括		書簡	
続193	藤間竹窓宛藤間悦書状ほか	不明		一括		書簡	
続194	藤間源左衛門宛村上勝之輔書状 ほか	不明		一括		書簡	